堆積土は褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

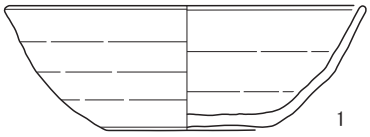
Ⅳ群（第54・58図）　Ｅ260・Ｓ50～60、Ｅ300・Ｓ40～50グリッドで検出した南北方向の遺構群で、２条の小溝で構成されている。方向はＮ－２°－Ｅ～Ｎ－２°－Ｗで、検出長は1.10～5.05ｍ、幅15～30㎝、深さ２～10㎝である。堆積土はにぶい黄褐色シルト・暗褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

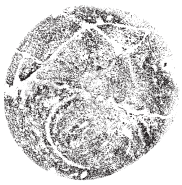
５）ピット（第54・55図）

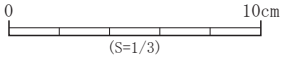
347基のピット（Ｐ4402～4552、4554～4576、4581～4703、4705～4734、4737～4753、4756、5249、5259～5261）を検出した。調査区中央から東側のＥ290～310・Ｎ210グリッドに分布している。遺物は縄文土器、内面黒色処理の土師器坏や須恵器坏の小片、土師器片などが少量出土した。

（４）遺構外出土の遺物（第59図～61図、図版18）

遺構外遺物として須恵器坏１点、縄文時代の石器５点、古代以降の石製品１点を図示した。第59図１は須恵器坏で、回転糸切り調整の製品である。時期は９世紀前半と考えられる。第60図１は石匙である。表面に自然面を残す剥片を素材とし、その縁辺部を中心に二次加工を加えてつまみ部と刃部を作出している。つまみ部は器体の上部と右側縁の２ヶ所に作り出されており、一般的な石匙とは異なる。上部のつまみ部を主体として横型と考えた。第60図２～４は磨石である。やや扁平な円礫の平坦面の片面あるいは表裏両面に研磨痕が観察されるが、２は凹みが正面２ヶ所と裏面３ヶ所、３は敲打痕が正面に３ヶ所、古い敲打痕や凹みが残されている。４では凹みが正面６ヶ所と裏面１ヶ所の他に上下面と両側面に敲打痕が認められる。第61図１は凹石である。やや扁平な円礫の正面に４ヶ所の凹みが認められるが、器体の表裏両面には凹みよりも古いと考えられる研磨面が観察される。２は凝灰岩を素材とした砥石である。正面の研磨面は大きく磨り減っており、使用頻度の高さが窺われる。また、右側縁には刻み状の深い擦痕も認められる。



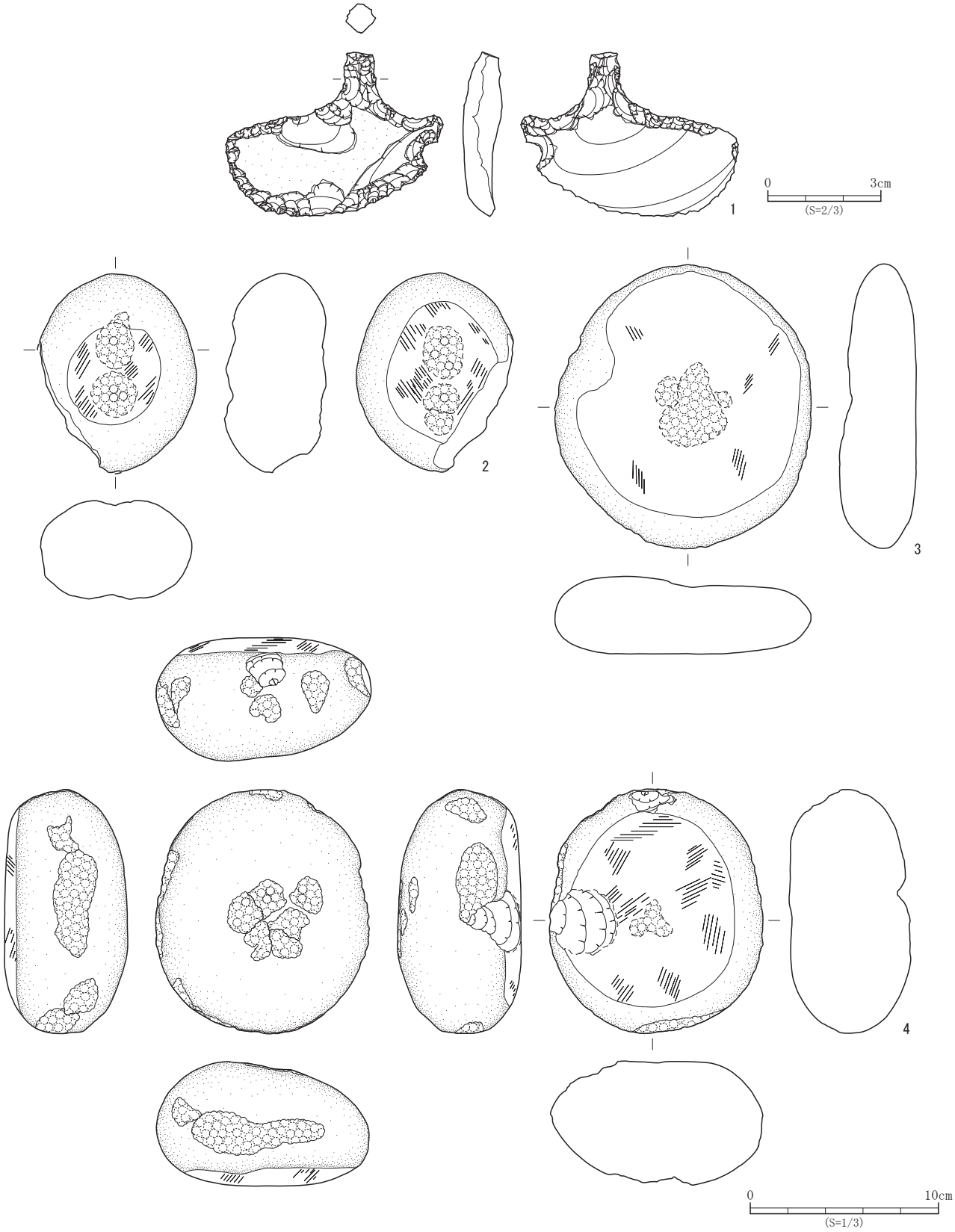






| No. | 登録番号 | 層　位 | 遺構・グリッド | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | E-1 | V | － | 須恵器 | 坏 | 14.4×6.4×5.0 |

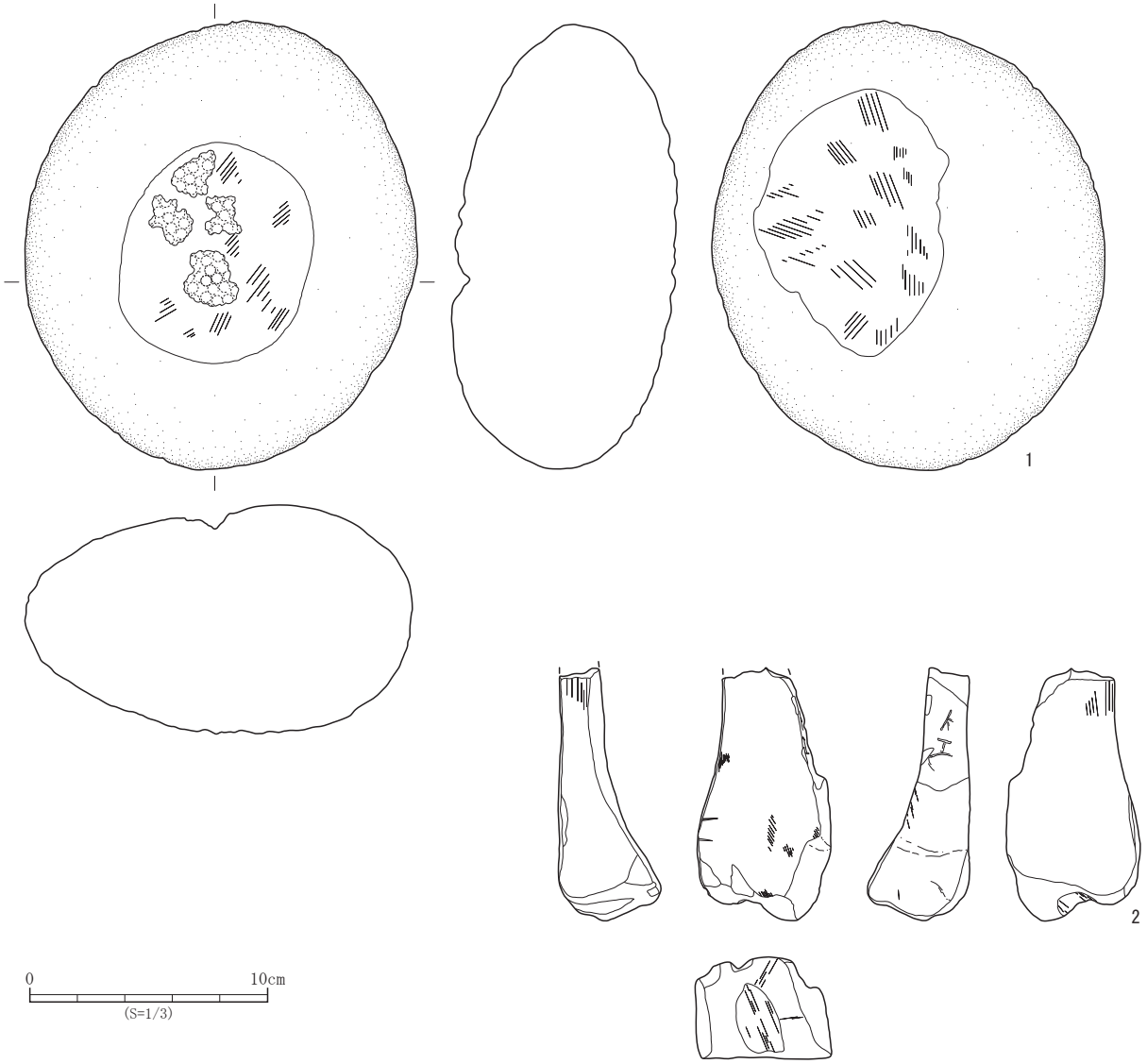
| 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|
| ロクロナデ　底部回転糸切り | ロクロナデ | | 18-9 |

第59図　遺構外出土遺物（１）




| No. | 登録番号 | 層　位 | 遺構・グリッド | 種　別 | 器　種 | 石　材 | 長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g) | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ka-d2-1 | Ⅳ | SD421(東部)下層 | 打製石器 | 石匙 | 珪質頁岩 | 4.4×5.8×1.1　16.5 | 横型。つまみ部２ヶ所あり。 | 18-10 |
| 2 | Kc-a-2 | - | - | 礫石器 | 磨石 | 安山岩 | (10.6)×(8.3)×5.5　(572.0) | 磨1+1、凹2+3。左側縁部欠損。 | 18-11 |
| 3 | Kc-a-3 | Ⅴ | - | 礫石器 | 磨石 | 安山岩 | 15.1×13.6×4.2　953.0 | 磨1+0、敲3+0。 | 18-12 |
| 4 | Kc-a-4 | Ⅳ | SD421(東端)下層 | 礫石器 | 磨石 | 安山岩 | 12.9×11.3×6.6　1,295.0 | 磨0+1、凹6+1、敲上下+横2。 | 18-13 |

第60図　遺構外出土遺物（２）




| №　登録番号　層　位　遺構・グリッド　種　別　器　種　石　材　長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g)　備　考　写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kc-b-1 | V | - | 礫石器 | 凹石 | 安山岩 | 18.9×16.5×9.6　2,980.0 | 凹4+0、磨1+1。 | 18-14 |
| 2 | kd-a-3 | V | - | 石製品 | 砥石 | 凝灰岩 | (10.6)×(5.7)×(4.3)　(219.0) | 上部欠損。酸化鉄付着。 | 18-15 |

第61図　遺構外出土遺物（３）

## ８．８Ｂ区の調査

８Ｂ区では基本層Ｖ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑１基、小溝状遺構群２群、ピット３基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

### （１）Ｖ層検出の遺構と遺物（第62図、図版９）

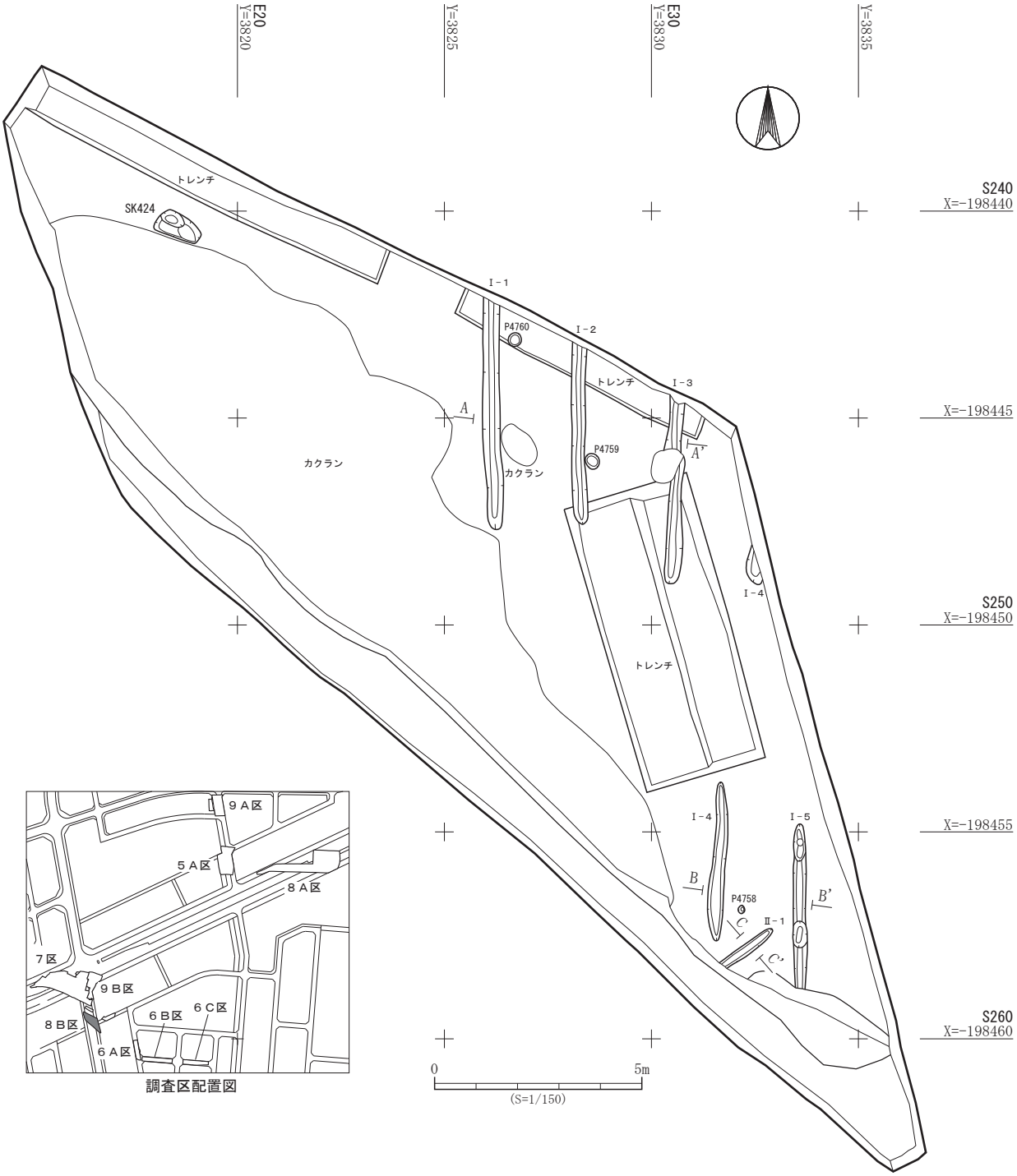
#### １）土　坑

SK424土坑（第63図）　E10・S240グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形に近似し、長軸方向はN-67°-Wである。規模は長軸110cm、短軸55cm、深さ20～30cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。底面はほぼ平坦で、北東隅にピット状の窪みがある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

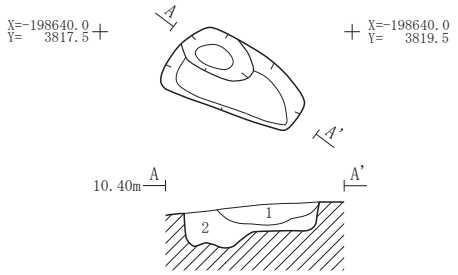
#### ２）小溝状遺構群

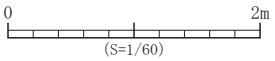
畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向からⅠ・Ⅱ群に分けられる。

Ⅰ群（第62・65図）　E20～30・S240～250グリッドで検出した。南北方向の遺構群で、５条の小溝で構成され




第62図　大野田古墳群８B区Ｖ層遺構配置図



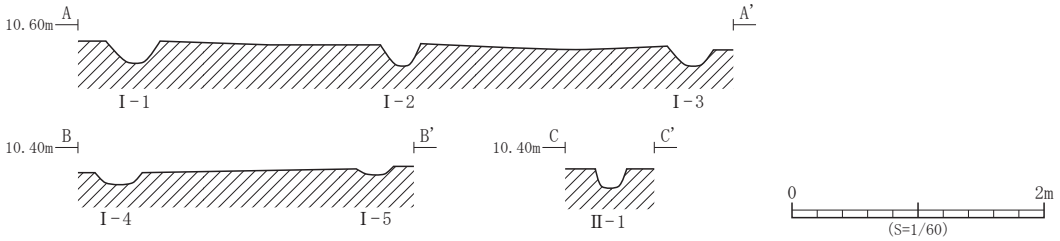




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK424 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | シルト | 褐色シルトブロックを少量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト | φ30㎜の褐灰色シルトブロック・暗褐色シルトブロックを多量含む。 |

第63図　SK424土坑平面図・断面図

ている。方向はN−1°−W〜N−2〜6°−Eである。検出長は4.00〜9.60m、幅20〜45㎝、深さ６〜30㎝、小溝の間隔は1.60m程である。堆積土は褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

Ⅱ群（第62・64図）　E30・S250グリッドで検出した。北東から南西方向の遺構群で、１条のみの検出であるが、調査区外に展開することを想定して群として扱った。方向はN−50°−Eで、検出長は1.50m、幅18〜25㎝、深さ３〜14㎝である。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。




第64図　小溝状遺構群断面図

３）ピット（第62図）

調査区の南側で、３基のピット（P4758〜4760）を検出した。遺物は出土していない。

## ９．９Ａ区の調査

９Ａ区では基本層Ⅴ層上面（古墳時代〜古代の遺構検出面）において、掘立柱建物跡１棟、木棺墓２基、土坑10基、性格不明遺構６基、溝跡２条、小溝状遺構群５群、ピット245基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピット群については遺構配置図にのみ表示している。

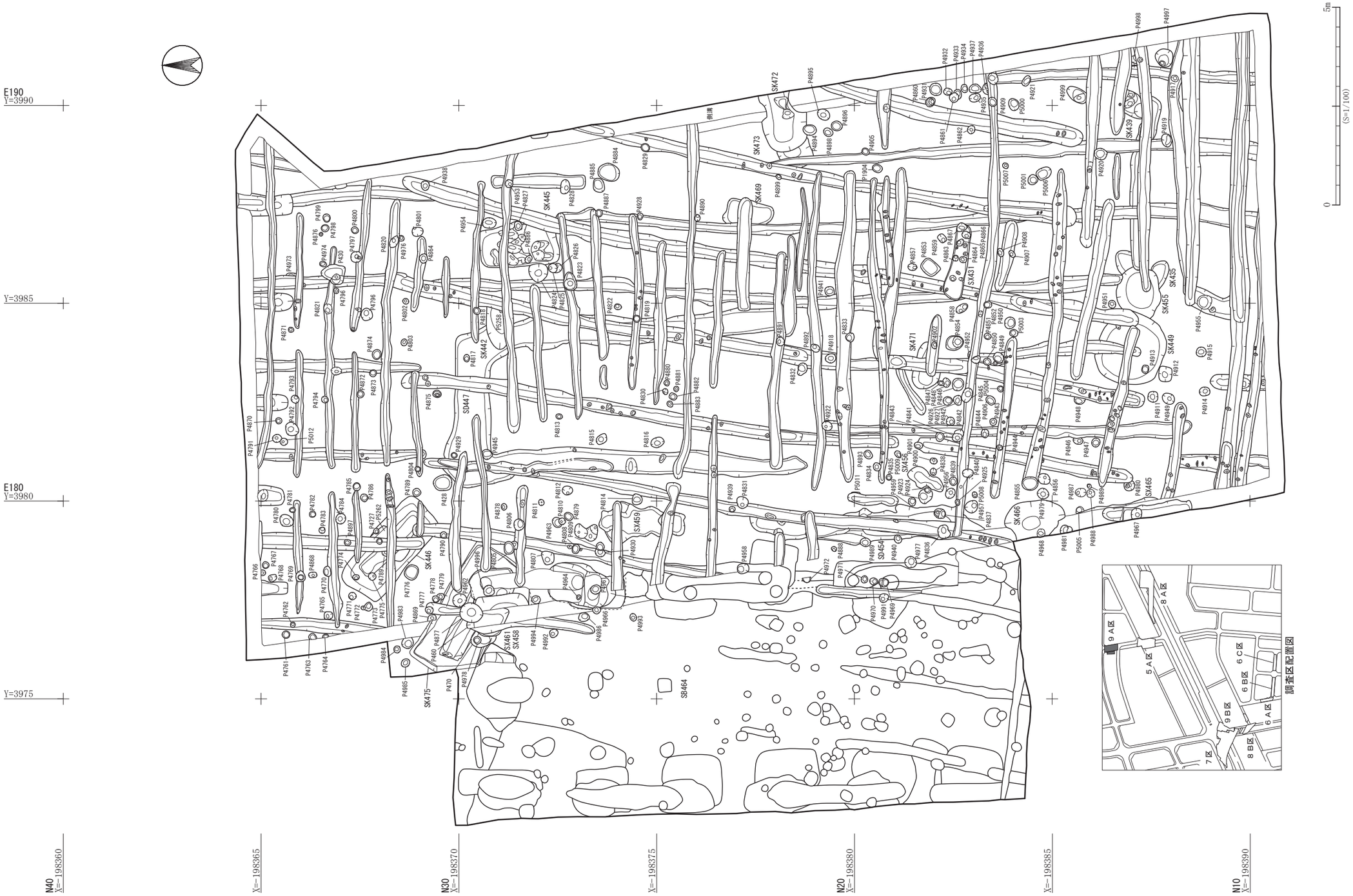
（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第65図、図版10）

１）掘立柱建物跡

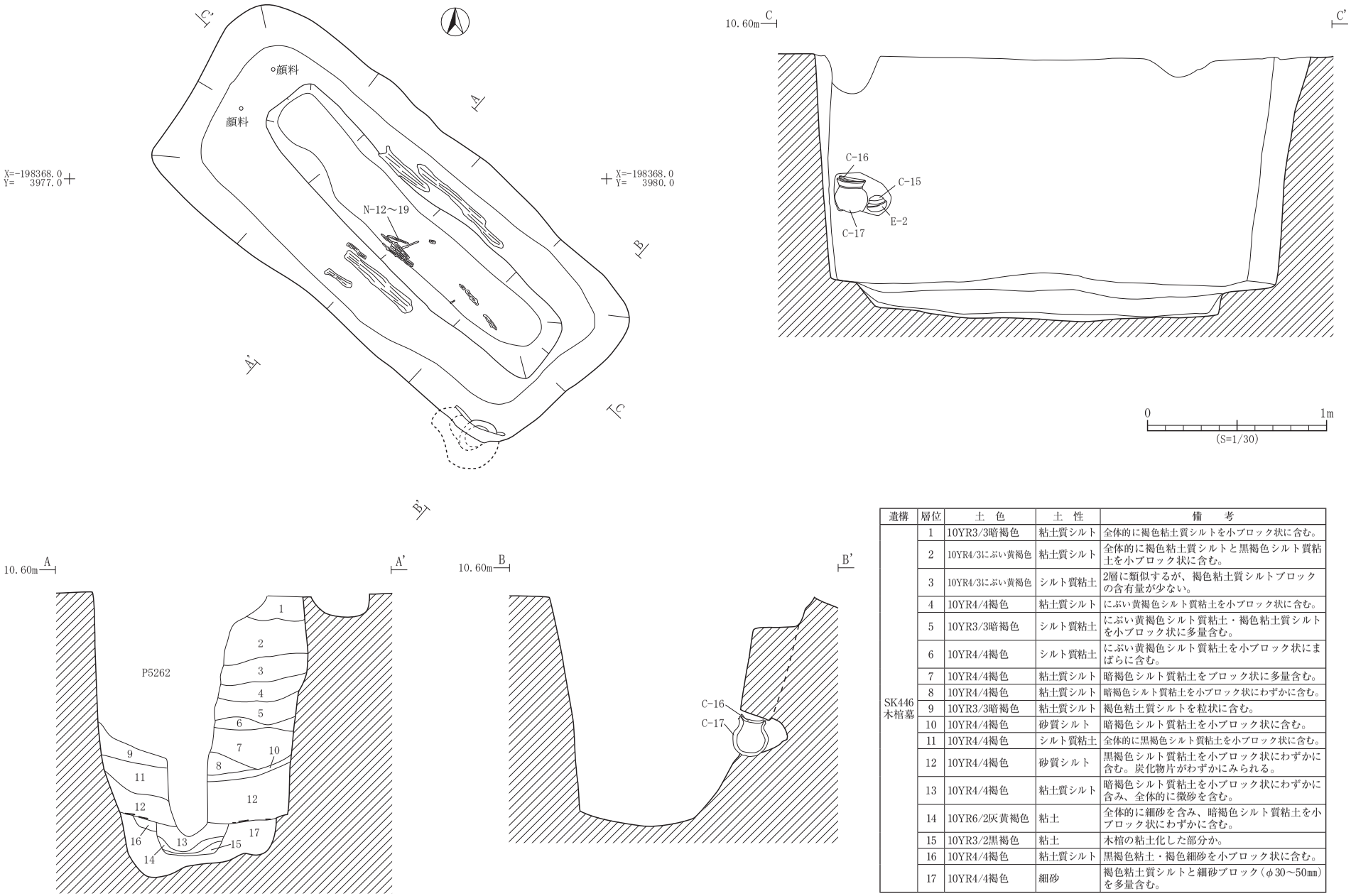
SB464掘立柱建物跡　大野田官衙遺跡の遺構であることから、詳細は第８節を参照されたい。

２）木棺墓

SK446木棺墓（第66図、図版10・11）　E170〜180・N40グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ−４〜６、Ⅱ−４、Ⅳ−１、P4727・4774・4775・4789・5262と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN−48°−Wである。掘り方の規模は長軸256〜272㎝、短軸108〜125㎝、深さ128〜146㎝で、断面形は逆台形である。深さ130㎝ほど位置で長軸205㎝、短軸40〜48㎝、深さ18㎝の木棺の痕跡を検出した。木棺の木質部はわずかに残存し、大半は黒褐色粘土に土壌化していた。木棺内から刀子２点と鉄鏃11点の副葬品が出土した。また、墓壙の南隅壁面には底面から高さ40㎝の位置に縦22㎝、横32㎝、奥行き27㎝の「袋状掘り込み」が穿たれていた。中に土師器坏（C−16）を蓋として正位で重ねた土師器甕（C−17）と、土師器坏（C−15）を蓋として逆位で重ねた須恵器短頸壺（E−2）が納められていた。堆積土は17層に分層され、１〜13層が埋土、14･15層が木棺が土壌化した堆積土、16・17層が墓壙掘り方関連の埋土である。

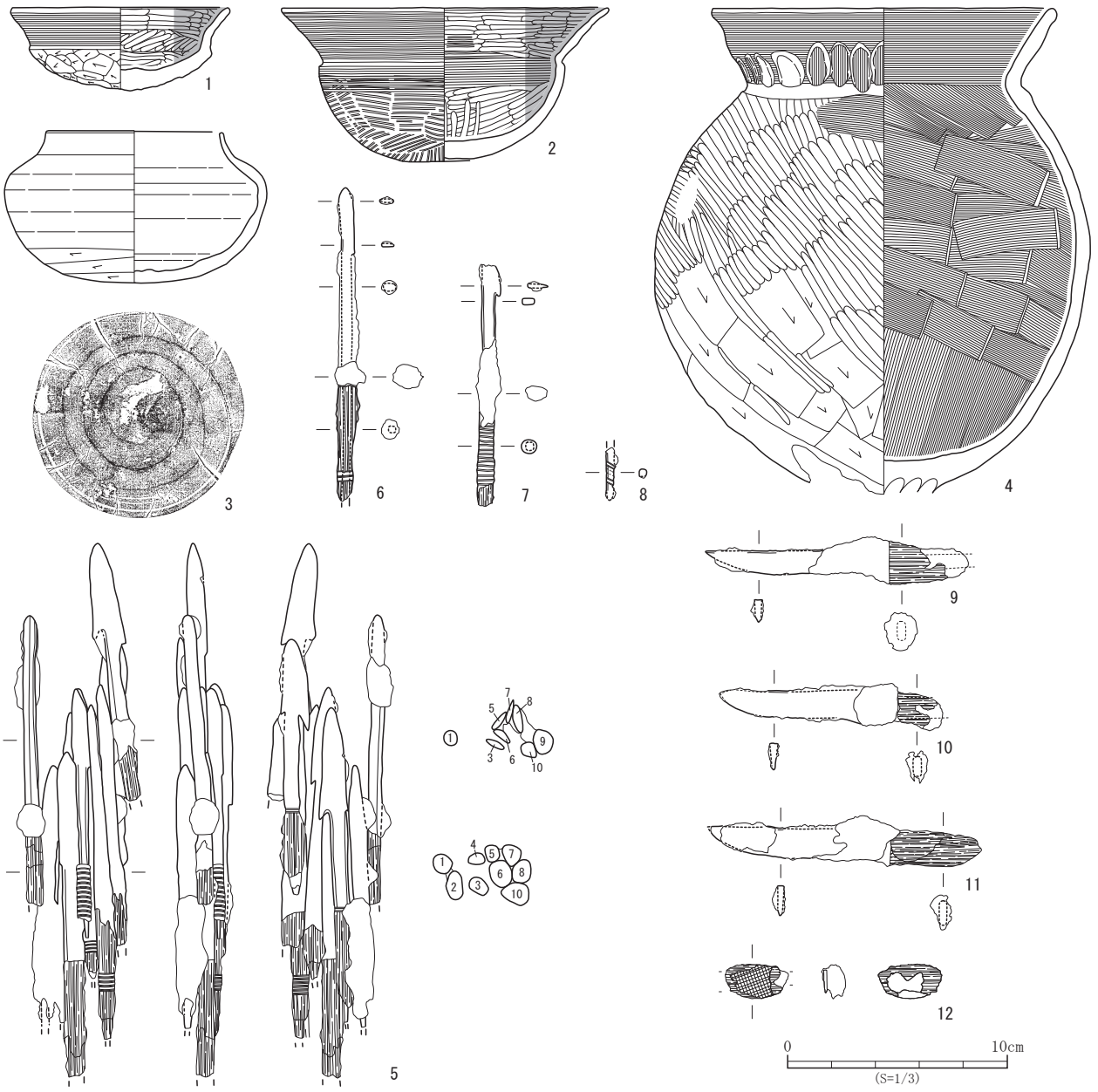



第65図　大野田古墳群９Ａ区Ⅴ層遺構配置図




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK446 木棺墓 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | 全体的に褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 全体的に褐色粘土質シルトと黒褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。 |
| | 3 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 2層に類似するが、褐色粘土質シルトブロックの含有量が少ない。 |
| | 4 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | にぶい黄褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。 |
| | 5 | 10YR3/3暗褐色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色シルト質粘土・褐色粘土質シルトを小ブロック状に多量含む。 |
| | 6 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色シルト質粘土を小ブロック状にまばらに含む。 |
| | 7 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 暗褐色シルト質粘土をブロック状に多量含む。 |
| | 8 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 暗褐色シルト質粘土を小ブロック状にわずかに含む。 |
| | 9 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| | 10 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 暗褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。 |
| | 11 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 全体的に黒褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。 |
| | 12 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色シルト質粘土を小ブロック状にわずかに含む。炭化物片がわずかにみられる。 |
| | 13 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 暗褐色シルト質粘土を小ブロック状にわずかに含み、全体的に微砂を含む。 |
| | 14 | 10YR6/2灰黄褐色 | 粘土 | 全体的に細砂を含み、暗褐色シルト質粘土を小ブロック状にわずかに含む。 |
| | 15 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土 | 木棺の粘土化した部分か。 |
| | 16 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 黒褐色粘土・褐色細砂を小ブロック状に含む。 |
| | 17 | 10YR4/4褐色 | 細砂 | 褐色粘土質シルトと細砂ブロック（φ30～50㎜）を多量含む。 |

第66図　SK446木棺墓平面図・断面図

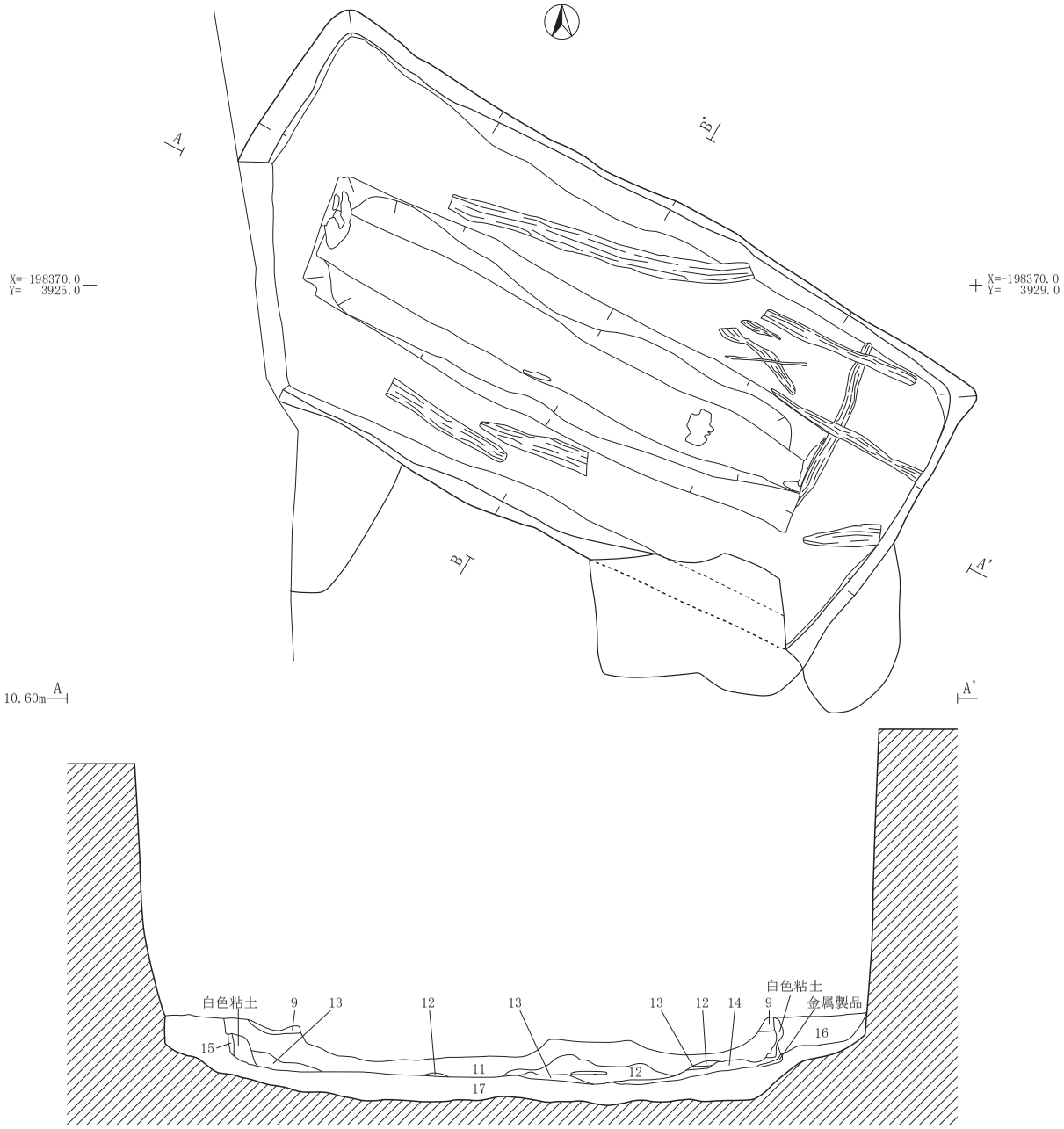


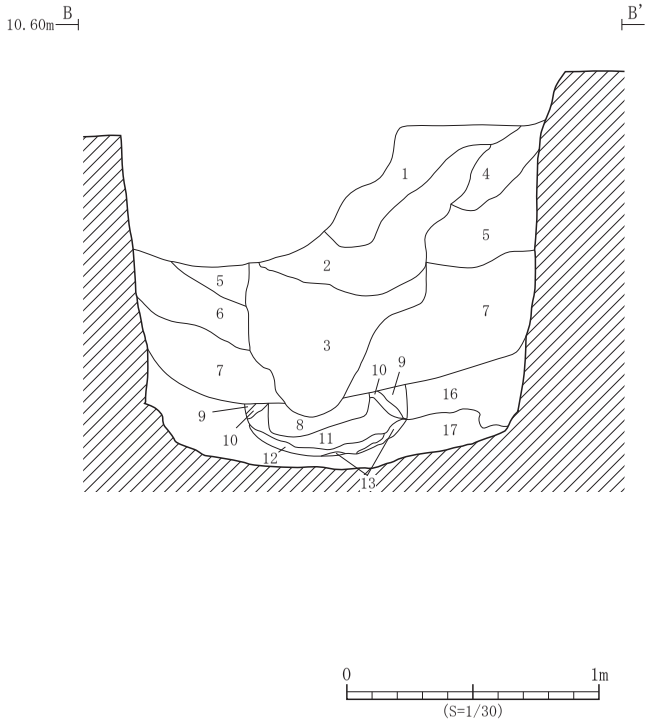

| №　登録番号　出土遺構　層　位　種　別　器　種　法　量(cm)　外面調整　内面調整　備　考　写真図版 |
|---|
| 1　C-15　SK446　－　土師器　坏　9.8×－×3.7　ヨコナデ・ヘラケズリ　ヘラミガキ・黒色処理　　19-1 |
| 2　C-16　SK446　－　土師器　坏　15.0×－×7.0　ヘラナデ・ナデ・ハケメ　ヘラミガキ・ナデ・黒色処理　　19-2 |
| 3　E－2　SK446　－　須恵器　短頸壺　8.0×3.4×7.2　ロクロナデ・底部回転ヘラケズリ　ロクロナデ　　19-3 |
| 4　C-17　SK446　－　土師器　甕　15.6×－×現22.0　ヨコナデ・指オサエ・ヘラミガキ・ヘラケズリ　ヨコナデ・ヘラナデ　　19-4 |

| №　登録番号　出土遺構　層　位　種　別　器　種　長さ×幅×厚さ(cm)　刃部形状　関部形状　備　考　写真図版 |
|---|
| 5-1　N-12　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現13.2×0.6×0.7　片刃　不明（棘関か？）　樹皮巻き。　19-5 |
| 5-2　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現11.9×0.7×0.8　腸抉長三角形　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 5-3　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現14.3×0.8×0.8　腸抉長三角形　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 5-4　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現14.8×0.9×0.8　腸抉長三角形　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 5-5　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現11.4×5.5×0.7　腸抉長三角形　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 5-6　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現13.3×0.8×0.9　腸抉長三角形　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 5-7　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現15.2×0.7×0.7　片刃？　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 5-8　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現11.9×0.5×11.0　片刃？　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 5-9　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現11.7×0.6×0.7　腸抉長三角形　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 5-10　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現11.5×0.6×0.7　腸抉長三角形　不明（棘関か？）　樹皮巻き。 |
| 6　N-13　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現14.3×0.7×0.6　片刃？　不明（棘関か？）　樹皮巻き。　19-6 |
| 7　N-14　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現11.1×0.6×0.4　片刃？　不明（棘関か？）　樹皮巻き。　19-7 |
| 8　N-15　SK446　－　鉄製品　鉄鏃　現2.3×0.3×0.4　－　不明（棘関か？）　茎部のみ。　19-8 |

| №　登録番号　出土遺構　層　位　種　別　器　種　長さ×幅×厚さ（cm）　備　考　写真図版 |
|---|
| 9　N-16　SK446　－　鉄製品　刀子　12.0×1.0×0.4　鹿角装。　19-9 |
| 10　N-17　SK446　－　鉄製品　刀子　10.2×1.2×0.4　鹿角装。　19-10 |
| 11　N-18　SK446　－　鉄製品　刀子　12.3×1.4×0.3　鹿角装。　19-11 |
| 12　N-19　SK446　－　鉄製品　刀子　－　鹿角部のみ。　19-12 |

第67図　SK446木棺墓出土遺物




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK475 木棺墓 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土質シルト | 全体的に褐色粘土質シルトと黒褐色シルト質粘土を粒状にまばらに含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトと黒褐色シルト質粘土を小ブロック（φ10㎜前後）で含む。 |
| | 3 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土質シルトと黒褐色シルト質粘土を小ブロック（φ10～20㎜）で多量含む。 |
| | 4 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土質シルトと黒褐色シルト質粘土を粒状に含むが、1層よりまばらである。 |
| | 5 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土質シルトと黒褐色シルト質粘土を小ブロック（φ10～20㎜）で多量含む。 |
| | 6 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 灰黄褐色シルト質粘土と黒褐色シルト質粘土を小ブロック（φ10～30㎜）で層状に含む。 |
| | 7 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色粘土ブロック（φ10～50㎜）をまばらに含む。 |
| | 8 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 全体的に褐色砂質シルトブロック（φ10～30㎜）を含む。 |
| | 9 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 全体的に灰黄褐色粘土小ブロック（φ5～10㎜）を含む。 |
| | 10 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土 | にぶい黄褐色砂質シルト小ブロック（φ5～10㎜）をわずかに含む。 |
| | 11 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色粘土粒（φ5㎜前後）と褐色砂質シルト小ブロック（φ10㎜前後）をまばらに含む。 |
| | 12 | 10YR5/2灰黄褐色 | 粘土 | にぶい黄褐色シルト質粘土を粒状にわずかに含む。 |
| | 13 | 10YR2/2黒褐色 | 粘土 | 木棺が粘土化した部分。粘性強い。 |
| | 14 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土 | 層下部に細砂を小ブロック状に含む。 |
| | 15 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 白色粘土をブロック状に含む。 |
| | 16 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 褐色細砂及び粗砂をブロック状にまばらに含む。 |
| | 17 | 10YR4/4褐色 | 粗砂 | 褐色シルト質粘土・細砂を多量含む。 |

第68図　SK475木棺墓平面図・断面図

遺物は、土師器甕・坏、須恵器短頸壺、鉄鏃、鹿角装刀子などが出土し、土師器坏２点、土師器甕１点、須恵器短頸壺１点、鉄鏃13点、鹿角装刀子４点を第67図に図示した。１・２は土師器坏である。１は小型の製品で、口縁部と底部の境に明瞭な稜をもち、丸底の底部に外反する口縁部が接続する。２は身の深い器形で、１に比べて器厚がやや薄く、口縁部は大きく外傾している。３は須恵器短頸壺で、体部最大径がやや上位にあり、口径が比較的大きい特徴がある。底部及び体部下半は回転ヘラケズリがなされている。胎土は精良で焼成も堅緻である。田辺編年のTK10型式に比定される（田辺　1966・1981）。４は土師器甕で、外面口縁下部に指オサエの痕跡が残る。１・２・４の土師器は住社式古段階（仙台市教育委員会　2010）に位置付けられ、３の須恵器とともに、それらの年代は６世紀中葉と推定される。５～８は鉄鏃である。５は鉄鏃10本が固まっていたものである。鉄鏃はすべて長頸鏃で、刃部は腸抉長三角形と片刃の２種類である。錆化のため関部の形状は不明であるが、棘関の可能性が考えられる。茎部には樹皮巻きが確認できる。８は鉄鏃の茎部片である。９～12は刀子である。このうち９～11は大きさ・形状ともほぼ同一で、鹿角装の拵えとなっている。12は鹿角の残片であるが、９～11とは接合しなかった。なお、表面には繊維質が付着している。糸に撚りがなく目が粗いことから、筬目の平絹が付着しているものと考えられる。

本木棺墓の年代については、袋状の掘り込みから出土した土師器と須恵器短頸壺から、６世紀中葉と考えられる。

**SK475木棺墓**（第68図、図版10～12）　E170・N30～40グリッドで検出し、SK446木棺墓の南西で検出された。SB464、SX458・461、小溝状遺構Ⅰ－８～10、Ⅱ－３、P460・470・4779・4869・4877・4962・4978・4996と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-62°-Wである。掘り方の規模は長軸343cm、短軸165cm、深さ160cmで、断面形は逆台形である。深さ130cmほどの位置で長軸244cm、短軸61cm、深さ25cmの割り竹形木棺の痕跡を検出した。木棺の木質部はわずかに残存し、大半は黒褐色粘土に土壌化していた。また、木棺木口に貼られていたと思われる白色粘土が部分的に残存していた。「袋状掘り込み」についてはSK446で検出した部分がSB464の柱穴により削平されているため、その有無は不明である。堆積土は17層に分層され、１～７層が人為的な埋土、10～14層が木棺が土壌化した堆積土、16･17層が墓壙掘り方関連の堆積土である。遺物は、土師器壺小片、副葬品として木棺内から刀子１点、不明鉄製品１点が出土した。

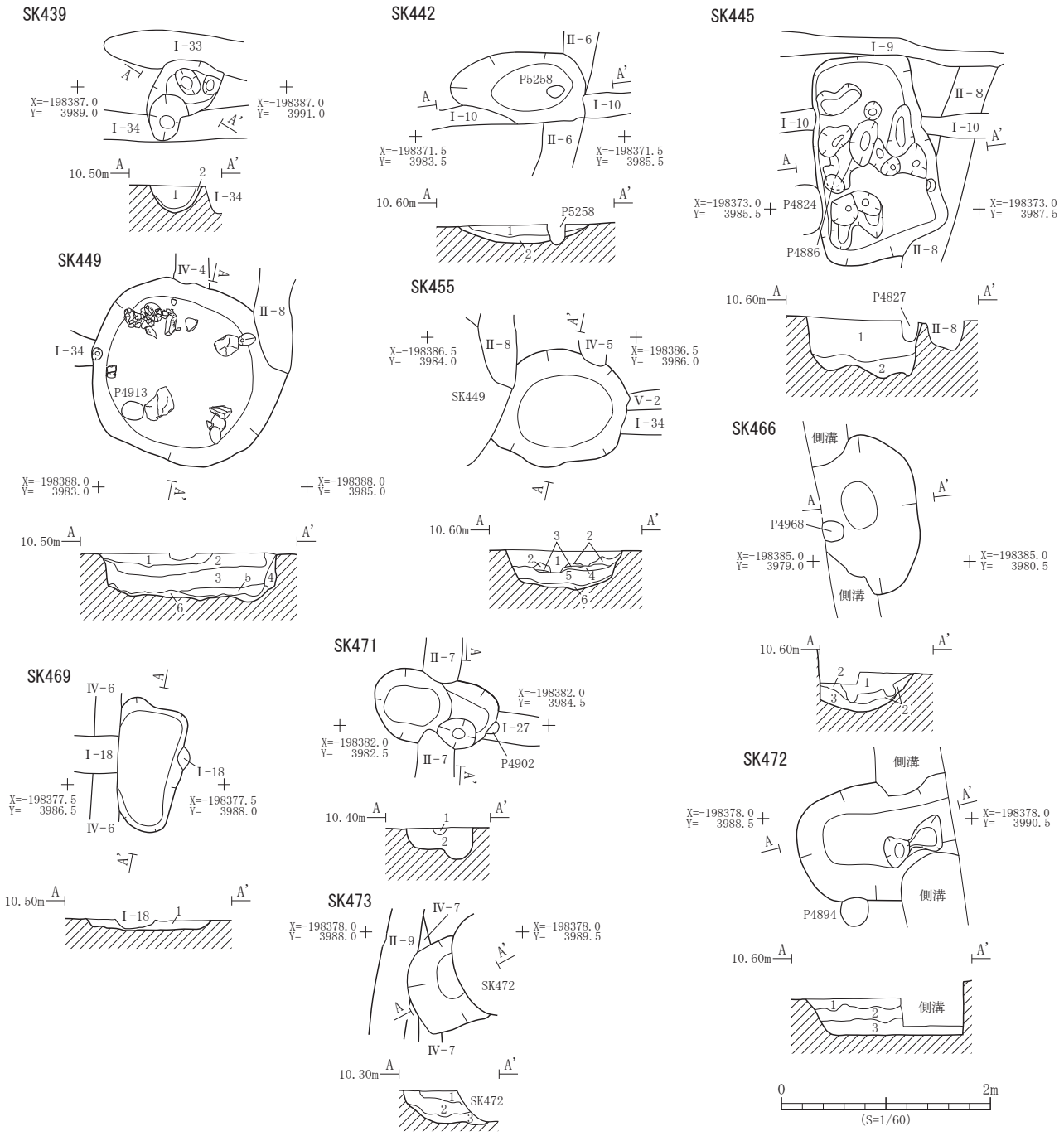
３）土　坑

**SK439土坑**（第69図）　E180～190・N20グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-33・34と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整楕円形と思われ、長軸方向はN-32°-Eである。検出規模は長軸方向で86cm、短軸58cm、深さ25～54cmである。断面形はU字形で、底面にはピット状の掘り込みが３ヶ所検出された。堆積土は２層に分層される。遺物は、土師器の小片が出土した。

**SK442土坑**（第69図）　E180・N30グリッドで検出した。SD447、小溝状遺構Ⅰ-10、Ⅱ－７、P5258と重複関係にあり、SD447より新しく、他の遺構よりも古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-88°-Eである。検出規模は長軸105cm、短軸45cm、深さ17cmで、壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は２層に分層される。遺物は、内面黒色処理された土師器坏や高台付坏、須恵器甕・蓋の小片などが出土しており、そのうち１点を第70図に図示した。１は土師器高台付坏の高台部分である。

**SK445土坑**（第69図、図版12）　E180・N30グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ－９・10、Ⅱ－８、P4824・4827・4886と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN－９°－Wである。規模は長軸198cm、短軸115cm、深さ42～55cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

**SK449土坑**（第69図、図版12）　E180・N20グリッドで検出した。SK455、小溝状遺構Ⅰ-34、Ⅱ－８、Ⅳ－４、P4913と重複関係にあり、SK455より新しく、他の遺構よりも古い。平面形はほぼ円形である。規模は長軸182cm、短軸165cm、深さ40～47cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK439 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | マンガン斑を含み、褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| SK442 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 全体的に炭化物片・焼土粒を含み、褐色粘土質シルトをブロック状にわずかに含む。 |
| | 2 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土 | 褐色シルト質粘土を小ブロック状に多く含む。 |
| SK445 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 暗褐色シルト質粘土と褐色粘土質シルトをブロック状に多量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土・暗褐色シルト質粘土をブロック状にまばらに含む。 |
| SK449 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 全体的に炭化物片(φ5mm前後)・焼土(φ5～10mm)を含む。 |
| | 2 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 焼土(φ5～20mm)を多量含む。全体的に炭化物片(φ5mm前後)をまばらに含む。部分的に褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 3 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土 | 炭化物片(φ5mm)をわずかに含み、褐色粘土質シルトを小ブロック状にまばらに含む。 |
| | 4 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土 | 褐色粘土質シルトを小ブロック状に多量含む。 |
| | 5 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土 | 褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| | 6 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土を粒状に含む。 |
| SK466 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土質シルトをブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 層上部に暗褐色シルト質粘土を小ブロック状に多量含む。 |
| | 3 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色シルト質粘土を粒状に含む。 |

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK455 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | シルト質粘土 | 全体的に焼土粒(φ5～10mm)を含む。黒褐色シルト質粘土を粒状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 暗褐色シルト質粘土を粒状に含む。焼土(φ20～30mm)をわずかに含む。 |
| | 3 | 10YR2/1黒色 | 炭化物 | － |
| | 4 | 10YR3/3暗褐色 | シルト質粘土 | φ5mm前後の焼土粒と炭化物片を含む。 |
| | 5 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 暗褐色シルト質粘土を小ブロック状・ブロック状にわずかに含む。 |
| | 6 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 暗褐色シルト質粘土を粒状にわずかに含む。 |
| SK469 | 1 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土をブロック状に多量含む。 |
| SK471 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 褐色シルト質粘土をブロック状に含む。 |
| SK472 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土質シルト | マンガン斑を含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄斑・マンガン斑を含む。 |
| | 3 | 10YR4/4褐色 | 粘土 | 酸化鉄斑を含む。 |
| SK473 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土 | 酸化鉄斑・マンガン斑を含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土 | 酸化鉄斑・マンガン斑を含み、層下部に褐色シルト質粘土を含む。 |
| | 3 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色粘土を粒状にまばらに含む。 |

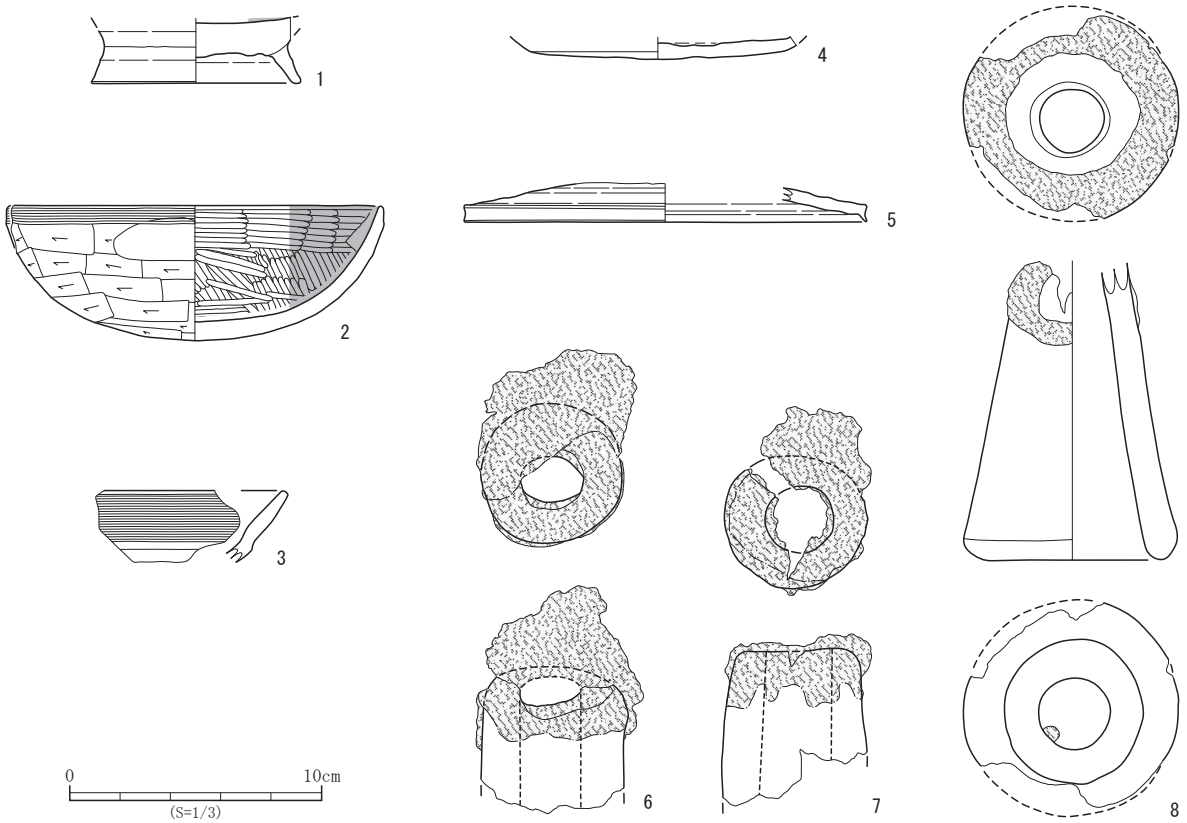
第69図　SK439・442・445・449・455・466・469・471～473土坑平面図・断面図

土は６層に分層され、焼土や炭化物が多量に含まれている。遺物は、土師器片、須恵器片、鞴羽口片、鉄滓（570ｇ）などが出土しており、このうち第70図２～８に７点を図示した。２は丸底の土師器坏である。３は有段丸底坏の小片である。４は須恵器坏の底部片で、ヘラ切り後に回転ケラケズリ調整される。５は須恵器蓋である。６～８は土製の鞴羽口で、８は根元端部が遺存している。長さは15cm前後と思われ、やや小型である。先端部は欠損しているものの、割れ口にも溶解物が付着していることから現状の形でも使用されていた可能性がある。６・７は先端部の破片である。本土坑の年代は５の須恵器蓋から、８世紀初頭以降と考えられる。

SK455土坑（第69図、図版12）　E180・N20グリッドで検出し、西側が一部撹乱されている。SK449、小溝状遺構Ⅰ-34、Ⅱ-８、Ⅳ-５、Ⅴ-２、P435・5257と重複関係にあり、P435・5257より新しく、他の遺構より古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-85°-Eである。検出規模は長軸132cm、短軸110cm、深さ37cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は６層に分層される。遺物は出土していない。

SK466土坑（第69図）　E170・N20グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。P4968と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整楕円形と思われ、長軸方向はN-11°-Eである。検出規模は南北155cm、東西90cm、深さ38cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK469土坑（第69図）　E180・N30グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-18、Ⅳ-６と重複関係にあり、本遺構




| No. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | D-7 | SK442 | - | 土師器 | 高台付坏 | -×現7.6×現2.1 | ロクロナデ・底部回転糸切り | ロクロナデ・黒色処理 | | 18-16 |
| 2 | C-18 | SK449 | - | 土師器 | 坏 | (15.0)×-×5.0 | ヨコナデ・ヘラケズリ | ヘラミガキ・黒色処理 | | 18-17 |
| 3 | C-19 | SK449 | - | 土師器 | 坏 | -×-×現2.8 | ヨコナデ・ヘラケズリ？ | ヨコナデ | | - |
| 4 | E-3 | SK449 | - | 須恵器 | 坏 | -×-×現1.1 | 回転ヘラケズリ | ロクロナデ | | - |
| 5 | E-8 | SK449 | - | 須恵器 | 蓋 | (15.8)×-×現1.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | | - |
| 6 | P-1 | SK449 | - | 土製品 | 鞴（羽口） | 5.6×-×現5.1 | - | - | 溶解物付着。 | 18-18 |
| 7 | P-2 | SK449 | - | 土製品 | 鞴（羽口） | 5.2×-×現6.9 | - | - | 溶解物付着。 | 18-19 |
| 8 | P-3 | SK449 | - | 土製品 | 鞴（羽口） | 5.2×8.9×11.9 | - | - | 溶解物付着。 | 18-20 |

第70図　SK442・449土坑出土遺物

が古い。平面形は概ね隅丸長方形で、長軸方向はＮ－８°－Ｅである。規模は長軸128cm、短軸50～62cm、深さ７cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は、土師器の小片が出土した。

**SK471土坑**（第69図）　E180・N20グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-27、Ⅱ-７、P4902と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-79°-Wである。規模は長軸120cm、短軸70cm、深さ20～32cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形で、底面には段差があり、ピット状の掘り込みも検出されている。堆積土は２層に分層される。遺物は、混入遺物として縄文土器片が出土した。

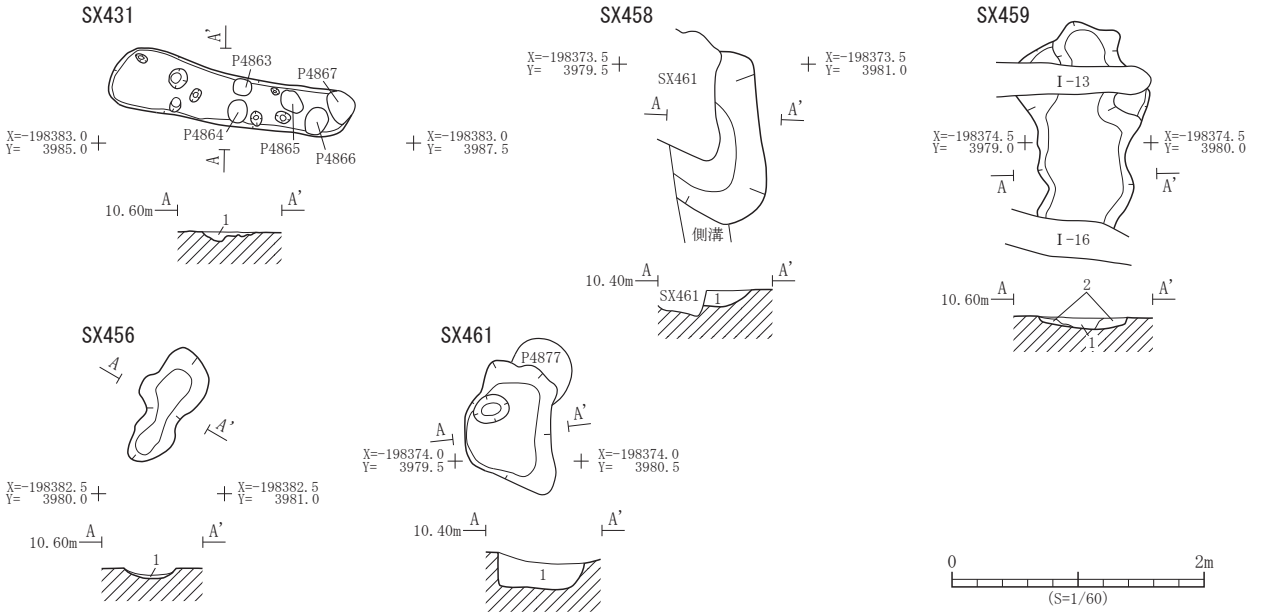
**SK472土坑**（第69図）　E180～190・N30グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。SK473、P4894と重複関係にあり、SK473より新しく、他の遺構より古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-79°-Eである。検出規模は長軸方向で153cm、短軸115cm、深さ５～36cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面の南側にはピット状の掘り込みが２ヶ所で検出された。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

**SK473土坑**（第69図）　E180・N30グリッドで検出した。SK472、小溝状遺構Ⅱ-９、Ⅳ-７と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整円形で、規模は径85cm前後、深さは35cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形はU字形で、底面には凹凸がある。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

### ３）性格不明遺構

**SX431性格不明遺構**（第71図）　E180・N20グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅱ-８、Ⅳ-５・６、P4863～4867と重複関係にあり、小溝状遺構より新しく、他の遺構より古い。平面形は溝状で、長軸方向はN-79°-Wである。規模は長軸200cm、短軸44cm、深さ３～８cmである。断面形は皿状で、底面にはピット状の掘り込みが７ヶ所で検出された。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

**SX456性格不明遺構**（第71図）　E180・N20グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-32°-Eである。規模は長軸98cm、短軸26～50cm、深さ３～13cmで、断面形は皿状である。堆積土は単層である。遺物は出土




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SX431 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトをブロック状に含む。底面は凹凸が著しく、ピット状に落ち込む部分があり、そこにシルト質粘土が入っている。 |
| SX456 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 褐色シルト質粘土をブロック状に多量含む。 |
| SX458 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 褐色シルト質粘土ブロックを多量含む。酸化鉄粒を含む。 |

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SX459 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色シルト質粘土ブロックを多量含む。にぶい黄橙色シルトブロックを少量含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土ブロックを少量含む。 |
| SX461 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | シルト質粘土 | 全体的に褐色シルト質粘土を小ブロック状もしくは粒状に含む。 |

第71図　SX431・456・458・459・461性格不明遺構平面図・断面図

していない。

**SX458性格不明遺構**（第71図）　E170・N30グリッドで検出した。SB464、SX461、小溝状遺構群Ⅱ-３、P460･470と重複関係にあり、SX461、P460より古く、他の遺構よりも新しい。平面形は重複により不明であるが、規模は南北方向で135cm、東西方向で75cm、深さ15～21cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形はⅢ状である。底面には凹凸がある。堆積土は単層である。遺物は、土師器の小片が出土した。

**SX459性格不明遺構**（第71図）　E170・N30グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-13・16と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-４°-Eである。規模は長軸方向で160cm、短軸は67～105cm、深さ５～13cmで、断面形はⅢ状である。堆積土は２層に分層される。遺物は、土師器の小片が出土した。

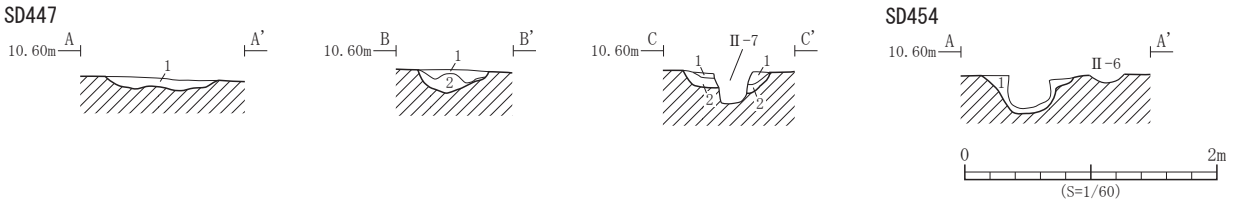
**SX461性格不明遺構**（第71図）　E170・N30グリッドで検出した。SB464、SX458、小溝状遺構Ⅱ-３、P460・470・4877と重複関係にあり、P460・4877より古く、他の遺構よりも新しい。平面形は不整方形で、長軸方向はN-３°-Eである。規模は長軸100cm、短軸62cm、深さ20～25cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は、土師器の小片が出土した。

**SX465性格不明遺構**（第65図）　E170・N20グリッドで検出した。西側の調査区外へ延び、ごく一部の検出のため遺構配置図のみに図示した。SX467、小溝状遺構群Ⅳ-1、P5005と重複関係にあり、P5005よりも新しく、他の遺構より古い。平面形は不明で、南北210cm、東西15cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

４）溝　跡

**SD447溝跡**（第65・72図）　E180・N30～40グリッドで検出した。SK442、小溝状遺構Ⅰ-８～19、Ⅱ-５～７、P4817・4819・4929・4945と重複関係にあり、本遺構が古い。「コ」字形に構築され、長軸方向はN-２°-Wである。検出長は19.10m、幅35～115cm、深さ５～18cmである。断面形は逆台形もしくはⅢ状で、堆積土は２層に分層される。遺物は、須恵器甕の小片が出土した。

**SD454溝跡**（第63・72図）　E170・N20～30グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-19・22・28、Ⅱ-５、P4836・4837・4940・4960・4989と重複関係にあり、本遺構が古い。南北方向の溝跡で、主軸方向はN-２°-E、検出長は5.10m、幅65～88cm、深さ30cmである。断面形はU字形で、堆積土は単層である。遺物は出土してない。




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SD447 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土質シルトを小ブロック状に多量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4 褐色 | シルト質粘土 | 全体的に黒褐色シルト質粘土を粒状に含み、黒褐色シルト質粘土を小ブロック状にわずかに含む。 |

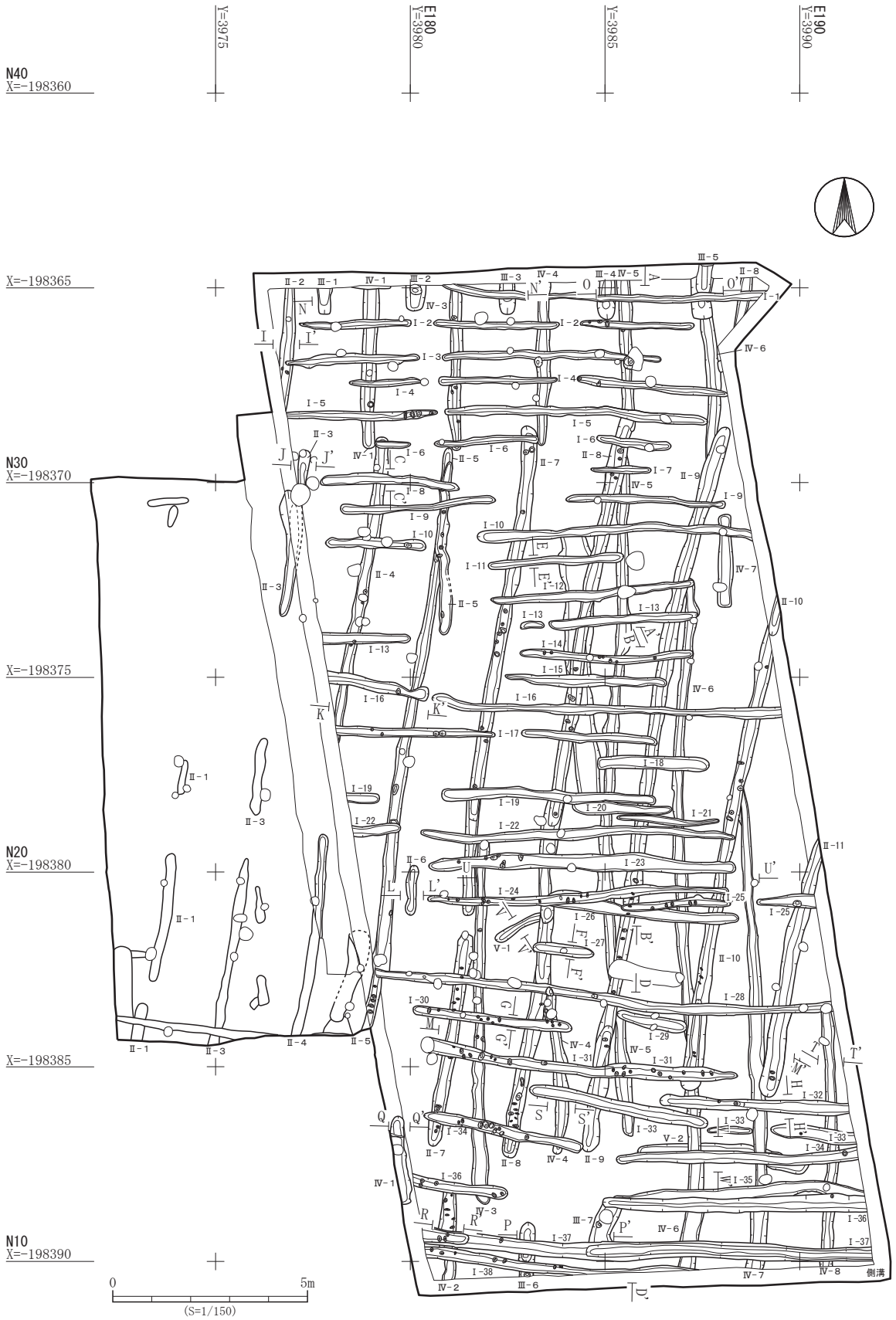
| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SD454 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト質粘土 | 褐色シルト質粘土をブロック状に多量含む。 |

第72図　SD447・454溝跡断面図

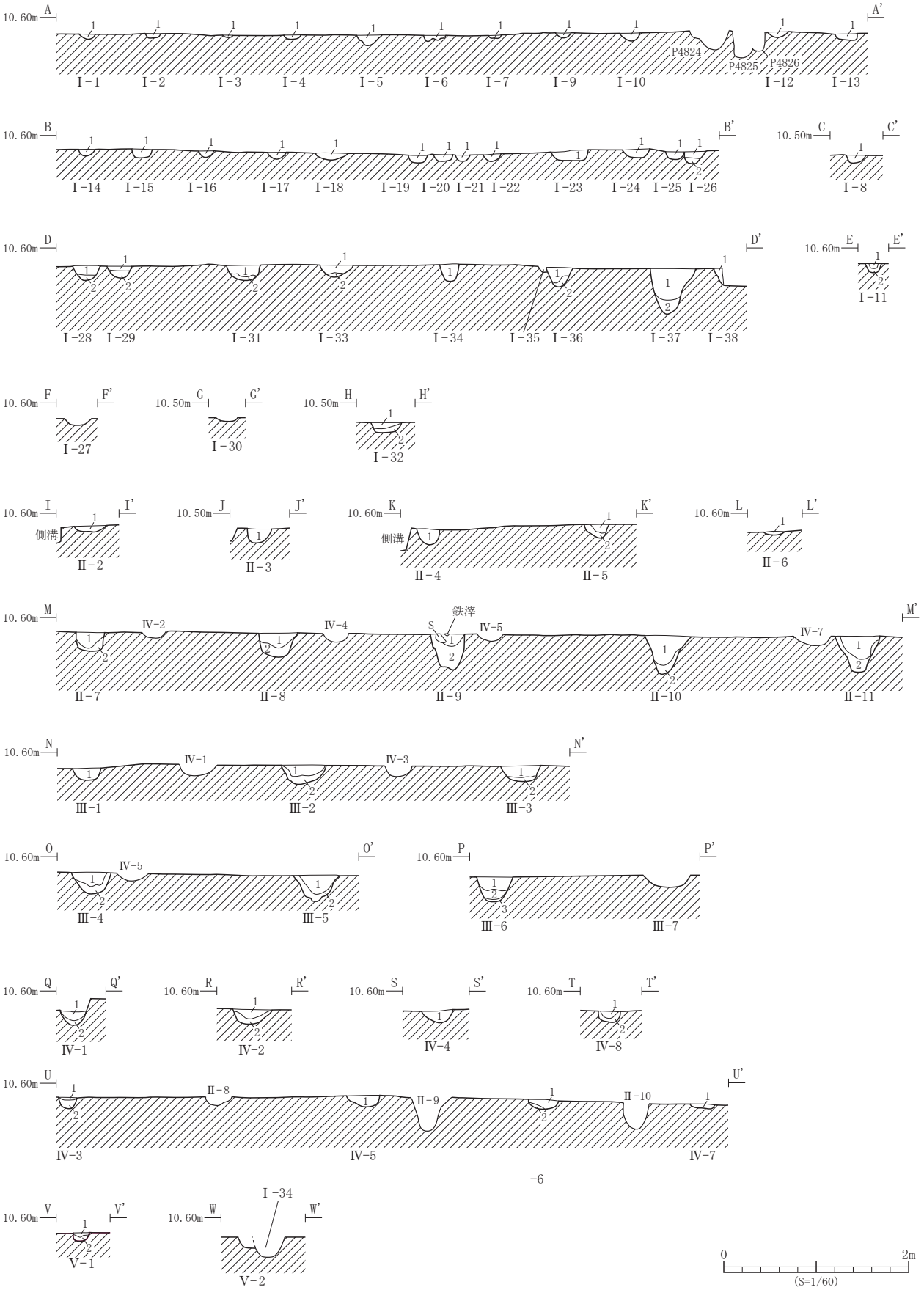
５）小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からⅠ～Ⅴ群に分けられる。重複関係からⅤ群→Ⅳ群→Ⅲ群→Ⅱ群→Ⅰ群の変遷が考えられる。また、鉄滓や鞴の羽口片が出土している。小溝状遺構群から出土した鉄滓は計19.7kgである。

**Ⅰ群**（第73・74図）　E170～190・N10～40グリッドで検出した東西方向の遺構群で、38条の小溝で構成される。方向はN-78～89°-Wで、検出長は1.55～11.85m、幅10～48cm、深さ２～50cmである。小溝の間隔は接するものから0.80mまである。堆積土は黒褐色粘土質シルト・褐色砂質シルト・黒褐色シルト質粘土、暗褐色粘土質シルト、褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は、土師器・須恵器の小片及び鉄滓が出土した。




第73図　小溝状遺構群平面図




第74図　小溝状遺構群断面図

Ⅱ群（第73・74図）　E170～190・N20～40グリッドで検出した南北方向の遺構群で、11条の小溝で構成される。方向はN－５～12°－Eで、検出長は1.25～23.00m、幅15～60㎝、深さ５～49㎝であるが、Ⅱ－１とⅡ－３の大半は確認調査のため深さは不明である。小溝の間隔は接している溝を除けば0.40～1.80㎝である。堆積土は黒褐色粘土質シルト・褐色砂質シルト・黒褐色シルト質粘土、暗褐色粘土質シルト、褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は、土師器小片や鉄滓が出土した。

Ⅲ群（第73・74図）　E170～180・N40、E180・N10～20グリッドで検出した南北方向の遺構群で、７条の小溝で構成される。方向はN－１～13°－Eで、検出長は0.65～1.05m、幅30～60㎝、深さ13～39㎝で、小溝の間隔は1.40～1.90mである。堆積土は黒褐色粘土質シルト、灰黄褐色シルト質粘土、褐色シルト質粘土、シルト質粘土を主体とする。遺物は、鉄滓が出土した。

Ⅳ群（第73・74図）　E170～190・N10～40グリッドで検出した南北方向の遺構群で、８条の小溝で構成される。方向はN－１～３°－WからN－１°－Eである。検出長は2.25～24.50m、幅15～50㎝、深さ３～35㎝である。小溝の間隔は0.60～2.00mである。堆積土は褐色シルト質粘土、灰黄褐色シルト質粘土、黒褐色粘土質シルト、灰黄褐色粘土質シルト、黒褐色シルト質粘土である。遺物は、土師器、内面黒色処理された土師器坏、須恵器蓋小片、鉄滓などが出土した。

Ⅴ群（第73・74図）　E180・N20グリッドで検出した東西方向の遺構群で、２条の小溝で構成される。方向はN－１～87°－WとN-63°－Eである。検出長は1.30mと4.40m、幅20～45㎝、深さ５～12㎝、小溝の間隔は6.00m程で、堆積土は黒褐色粘土質シルト、褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は、鉄滓が出土した。

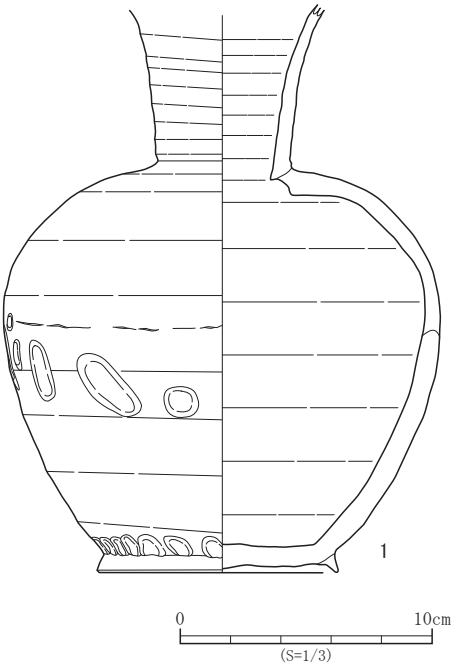
小溝状遺構群土層註記

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| I-1・2 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| I-3 | 1 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-4～6 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| I-7 | 1 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-8 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。炭化物片を含む。 |
| I-9・10 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| I-11 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-12 | 2 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-13～15 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| I-16 | 1 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-17 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| I-18 | 1 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-19～21 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| I-22～25 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒・焼土片を含む。 |
| I-26・28・29 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-31～33 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-34 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物片・焼土粒を含む。 |
| I-36 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| I-37 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物片をまばらに含み、褐色粘土質シルトを層下位に粒状に多く含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土を小ブロック状に含む。 |
| I-38 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。 |
| Ⅱ-2 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。下部に顕著。 |
| Ⅱ-3 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | 黒褐色シルト質粘土と褐色粘土質シルトをブロック状に多量含む。炭化物片・焼土粒をごくわずかに含む。 |
| Ⅱ-4 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | シルト質粘土 | 全体的に炭化物片・焼土粒を含む。 |
| Ⅱ-5 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物片・褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土質シルトをブロック状に多量含む。 |
| Ⅱ-6 | 1 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 黒褐色粘土質シルトをブロック状に多量含む。全体的に炭化物片を含む。 |
| Ⅱ-7 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物・焼土を多量含む。褐色粘土質シルトを小ブロック状にまばらに含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色粘土質シルトを小ブロック状にわずかに含む。 |
| Ⅱ-8 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物片・焼土粒を含み、層下部に褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土を小ブロック状に多量含む。 |

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅱ-9 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物片・焼土粒をわずかに含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土をブロック状に多量含む。 |
| Ⅱ-10 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物粒をわずかに含み、褐色粘土質シルトを粒状に含む（層下部は小ブロック状）。 |
| | 2 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土をブロック状に多量含む。 |
| Ⅱ-11 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物片をわずかに含み、褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土をブロック状に多量含む。 |
| Ⅲ-1 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを粒状もしくは小ブロック状に含み、下部に顕著。 |
| Ⅲ-2・3 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 層下部に褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| Ⅲ-4 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを粒状もしくは小ブロック状に含み、下部に顕著。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| Ⅲ-5 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 層下部に褐色粘土質シルトを粒状にわずかに含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に多量含む。 |
| Ⅲ-6 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 全体的に炭化物・焼土粒を含む。 |
| | 2 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 焼土粒・褐色粘土質シルトをブロック状に含む。 |
| | 3 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土を粒状に含む。 |
| Ⅳ-1 | 1 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土を小ブロック状・粒状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 褐色砂質シルトを多量含む。 |
| Ⅳ-2 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを粒状に含み、炭化物片・焼土粒を含む。 |
| | 2 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトをブロック状に多量に含む。炭化物片がわずかにみられる。 |
| Ⅳ-3 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 炭化物片・焼土粒を含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土を粒状に含む。 |
| Ⅳ-4 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを小ブロック状に含み、炭化物片・焼土粒を含む。 |
| Ⅳ-5 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物片を含み、層下部に褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。 |
| Ⅳ-6 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを粒状に含む。層下部では小ブロック状。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色シルト質粘土を粒状に含む。 |
| Ⅳ-7 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 炭化物片・褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| Ⅳ-8 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土 | 褐色シルト質粘土をブロック状に含む。 |
| Ⅴ-1 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトを小ブロック状に含み、焼土粒をわずかに含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 黒褐色粘土質シルトを粒状に含む。 |

６）ピット（第63図）

245基のピット（Ｐ428・460・470・4761～4786・4789～4888・4890～4902・4904～4909・4911～4915・4917～4943・4945～4974・4976～4989・4991～4994・4996～5009・5010～5012）をＥ290～310・Ｎ210グリッドで検出した。遺物は、土師器小片や須恵器長頸壺、鉄滓などが出土した。調査区北側のＰ428（Ｅ180、Ｎ40）の底面から須恵器長頸壺が出土しており、第75図に図示した。口縁部を欠くが全体がほぼ分かる資料である。概ね９世紀代の時期と考えられる。




| No. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | E-4 | P428 | - | 須恵器 | 長頸壺 | -×9.5×現22.4 | ロクロナデのち指オサエ | ロクロナデ | | 12・19-13 |

第75図　P428ピット出土遺物

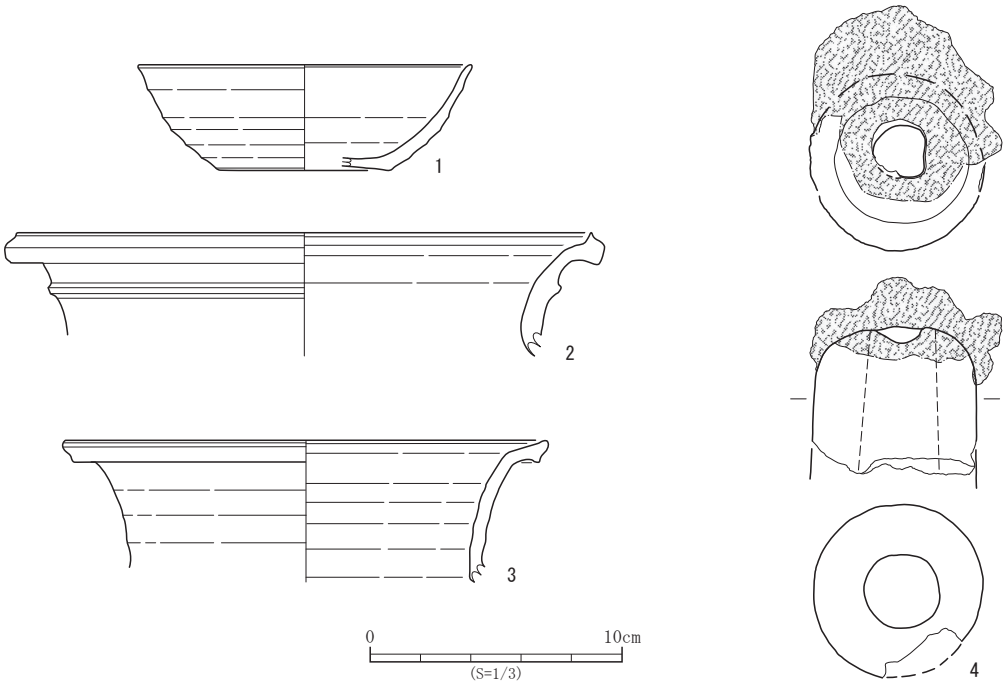
（２）遺構外出土の遺物（第76～79図、図版20）

９Ａ区の遺構外出土遺物として、縄文時代の土器、石器、土師器甕、内面黒色処理された土師器坏、ロクロ土師器甕、須恵器坏、同蓋、同甕、鞴の羽口、近世陶器などの破片が出土した。そのうち縄文時代の石器５点と古代の須恵器３点、鞴の羽口１点、近世陶器２点を図示した。

第76図１は須恵器坏の破片で、底部外面には糸切り痕が残る。２・３は須恵器甕の口縁部である。４は鞴の羽口で、溶解物が先端部を中心に大きく付着している。

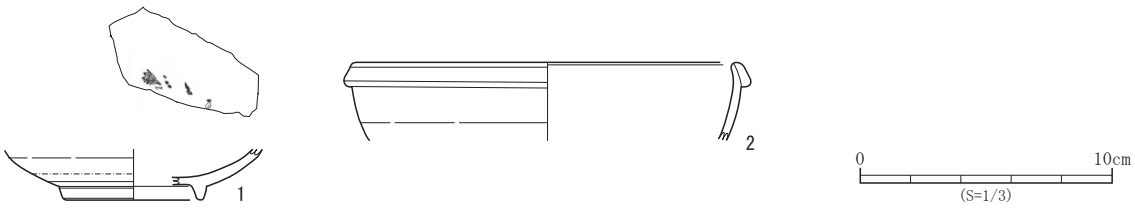
第77図１は施釉陶器皿である。灰釉が施釉された大堀相馬産である。２は在地産捏鉢で、内外面に鉄釉が施釉される。各々19世紀前半の製品と思われる。

第78図１・２は台石である。１は正面の頂頭部付近に敲打痕と深い凹みが観察され、裏面にも小さな凹みが認められる。２は平坦面に凹み状の敲打痕が認められる。右側縁を欠くが、重量が３kg近くであり、手持ちの凹石ではなく台石としたものである。第78図３と第79図２・３は石皿である。大形の礫を用いて平坦面や浅い皿状の凹み面に研磨痕が観察される。３の研磨面には研磨以前の浅い敲打痕が観察される。



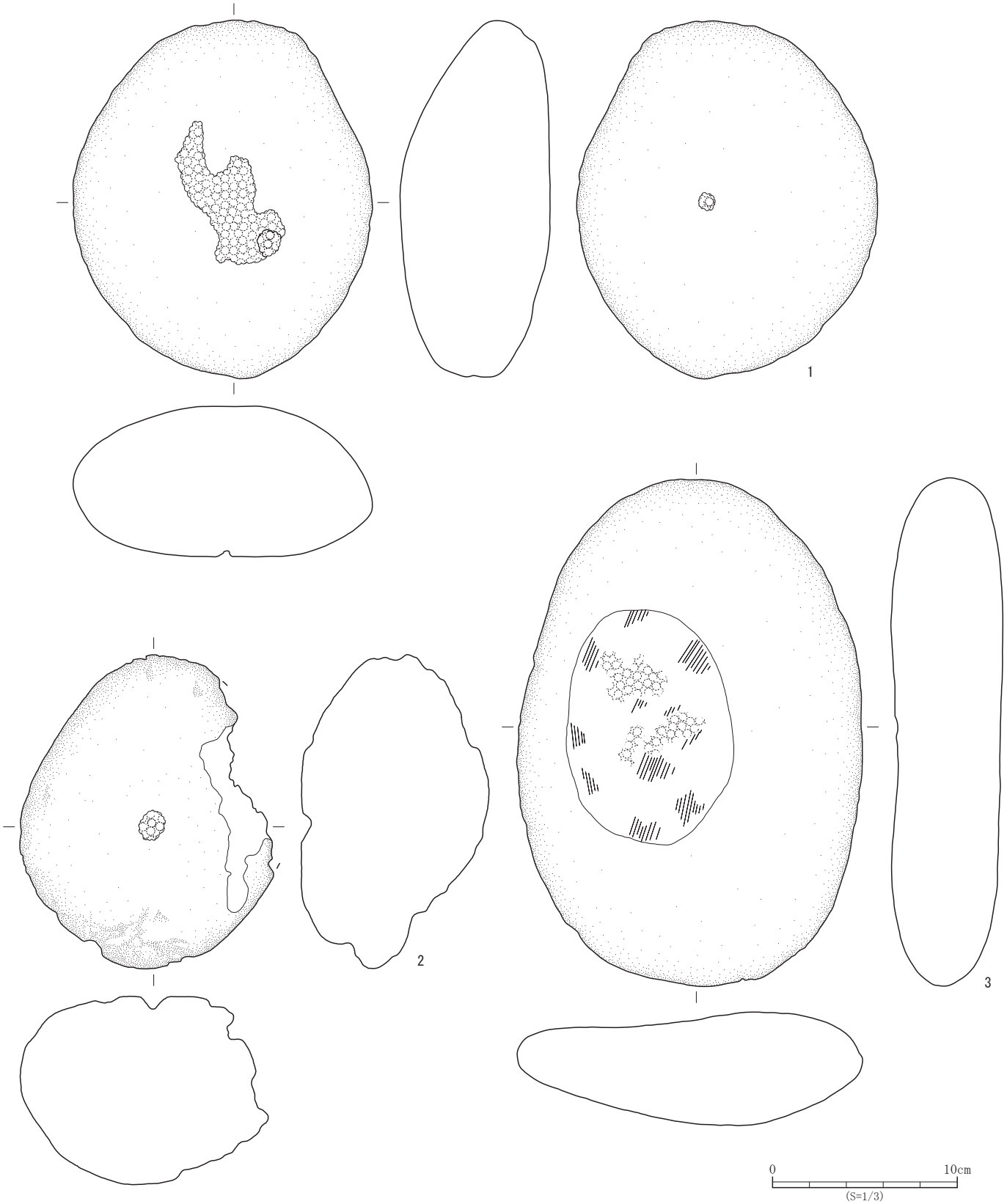

| №. | 登録番号 | 層　位 | 遺構・グリッド | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | E-5 | - | 検出面 | 須恵器 | 坏 | (13.2)×6.8×(4.2) | ロクロナデ・底部回転糸切り | ロクロナデ | | 20-1 |
| 2 | E-6 | - | 検出面 | 須恵器 | 甕 | (22.2)×-×現5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 20-2 |
| 3 | E-7 | - | 検出面 | 須恵器 | 甕 | (19.2)×-×現5.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 20-3 |
| 4 | P-4 | - | 検出面 | 土製品 | 鞴(羽口) | 6.1×-×現5.2 | - | - | 溶解物付着。 | 20-4 |

第76図　遺構外出土遺物（１）



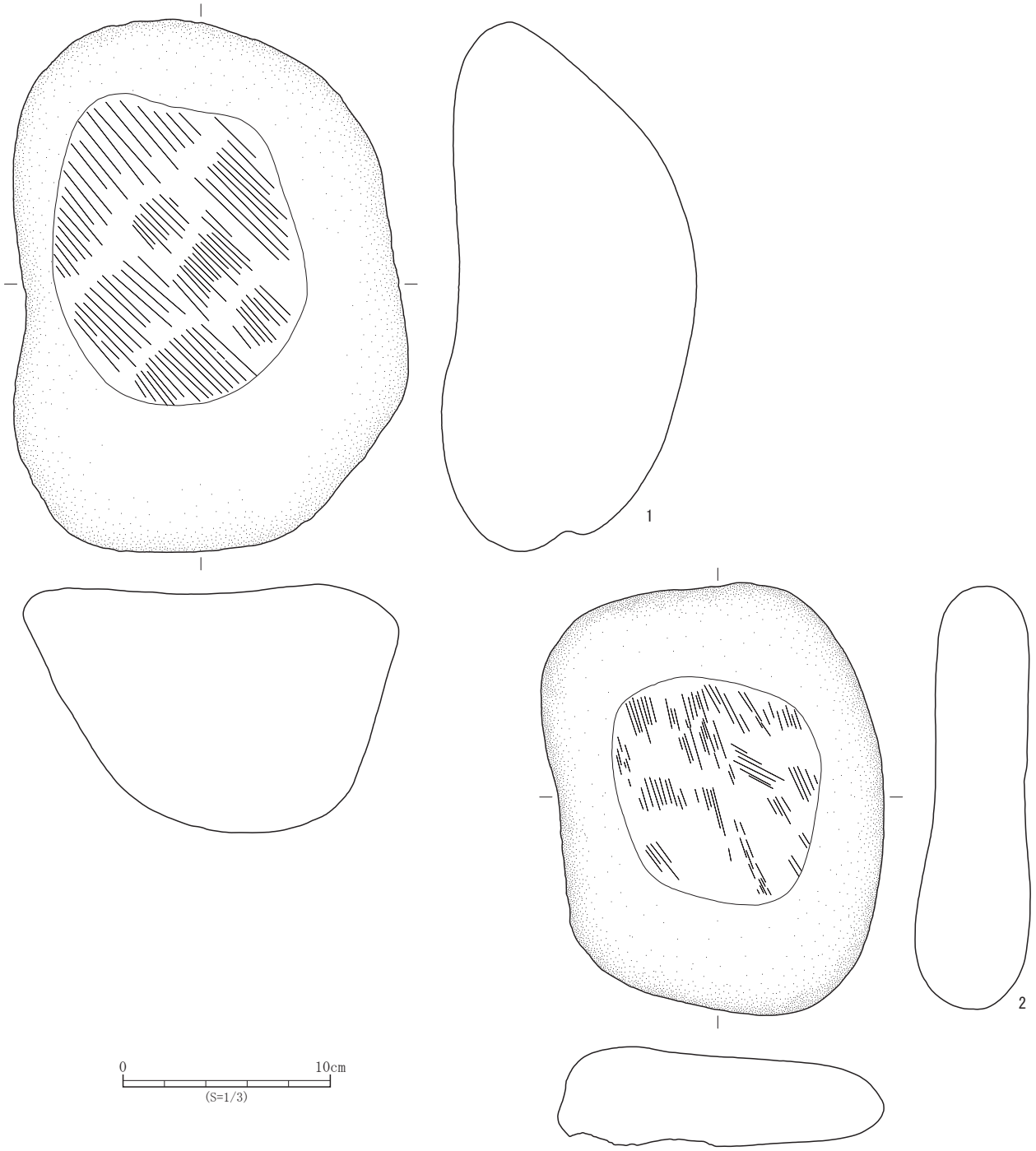

| №. | 登録番号 | 層　位 | 遺構・グリッド | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 特　徴 | 産　地 | 時　期 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | I-12 | V | - | 施釉陶器 | 皿 | -×5.8×現1.1 | ロクロ　見込み-透明釉・鉄釉 | 大堀相馬 | 19世紀前半 | 20-5 |
| 2 | I-13 | V | - | 施釉陶器 | 捏鉢 | (15.2)×-×3.1 | ロクロ　鉄釉 | 在地 | 19世紀前半 | 20-6 |

第77図　遺構外出土遺物（２）




| No. | 登録番号 | 層　位 | 遺構・グリッド | 種　別 | 器　種 | 石　材 | 長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g) | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kc-g-1 | V | － | 礫石器 | 台石 | 安山岩 | 19.3×16.2×8.1　3,400.0 | 敲1+0、凹1+1。 | 20-7 |
| 2 | Kc-g-2 | V | － | 礫石器 | 台石 | 安山岩 | 17.0×(13.8)×10.2　2,740.0 | 凹1+0、右側面風化欠損。 | 20-8 |
| 3 | Kc-d-1 | V | － | 礫石器 | 石皿 | 安山岩 | 27.4×18.8×6.1　3,640.0 | 磨1+0、磨面に古い敲打痕あり。 | 20-9 |

第78図　遺構外出土遺物（３）




| № | 登録番号 | 層　位 | 遺構・グリッド | 種　別 | 器　種 | 石　材 | 長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g) | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Kc-d-2 | V | - | 礫石器 | 石皿 | 安山岩 | 25.8×19.0×12.4　8,120.0 | 磨1+0。 | 20-11 |
| 2 | Kc-d-3 | V | - | 礫石器 | 石皿 | 安山岩 | 20.9×16.5×5.5　(2,890.0) | 磨1+0、裏面部分欠損。 | 20-10 |

第79図　遺構外出土遺物（４）

## 10.　９Ｂ区の調査

９Ｂ区では基本層Ｖ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、古墳１基、土坑11基、河川跡１条、性格不明遺構１基、溝跡５条、小溝状遺構群２群、ピット76基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第80図、図版13・14）

１）古　墳

大野田28号墳（第80図）　本古墳は７区Ⅴ層で報告した。

２）土　坑

SK478土坑（第81図、図版14）　E20・S190グリッドで検出した。SD477と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-68°-Wである。規模は長軸175cm、短軸132cm、深さ22～34cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がみられる。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK479土坑（第81図）　E20・S190グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-２、Ⅱ-７と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径110cm、深さ21cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK481土坑（第81図）　E20・S200グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-２と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-35°-Eである。規模は長軸85cm、短軸70cm、深さ22cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK489土坑（第81図）　E20・S190グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-10°-Eである。規模は長軸195cm、短軸148cm、深さ30cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、中央に浅い窪みがある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK498土坑（第81図）　E20・S190グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅱ-８と重複関係にあり、本遺構が古い。遺構の南側は小溝状遺構により壊されているが、平面形は楕円形とみられる。規模は東西62cm、南北58cm、深さ８～11cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、北側に浅い窪みがある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK500土坑（第81図、図版14）　E20・S200グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅱ-10と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸方形で、長軸方向はN-10°-Wである。規模は長軸62cm、短軸48cm、深さ17cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

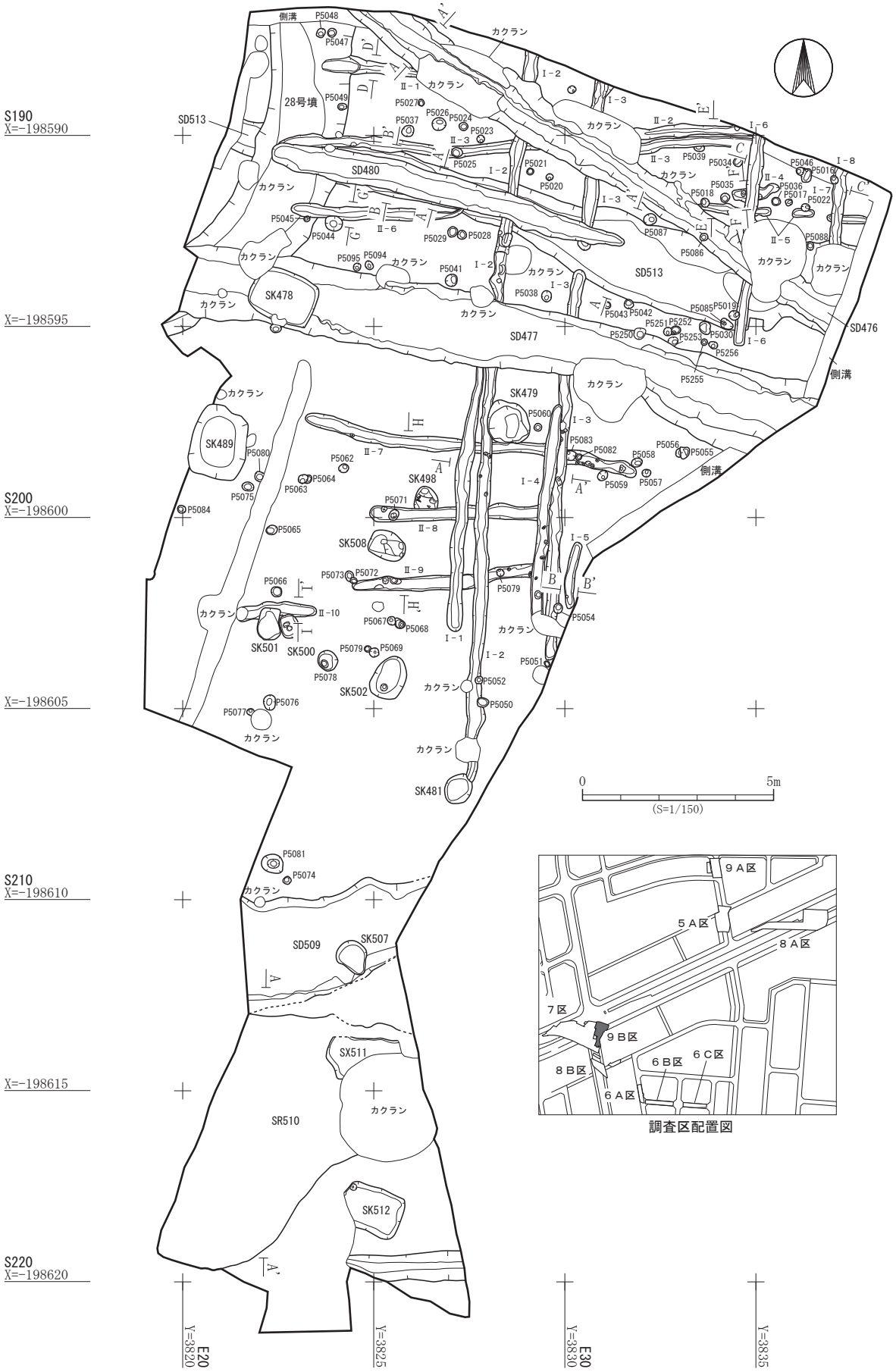
SK501土坑（第81図、図版14）　E20・S200グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅱ-10と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は概ね隅丸長方形で、長軸方向はN-８°-Eである。規模は長軸82cm、短軸62cm、深さ36cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。

SK502土坑（第81図、図版14）　E20・S200グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-24°-Eである。規模は長軸115cm、短軸83cm、深さ25～32cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面の南側にはピット状の窪みがある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

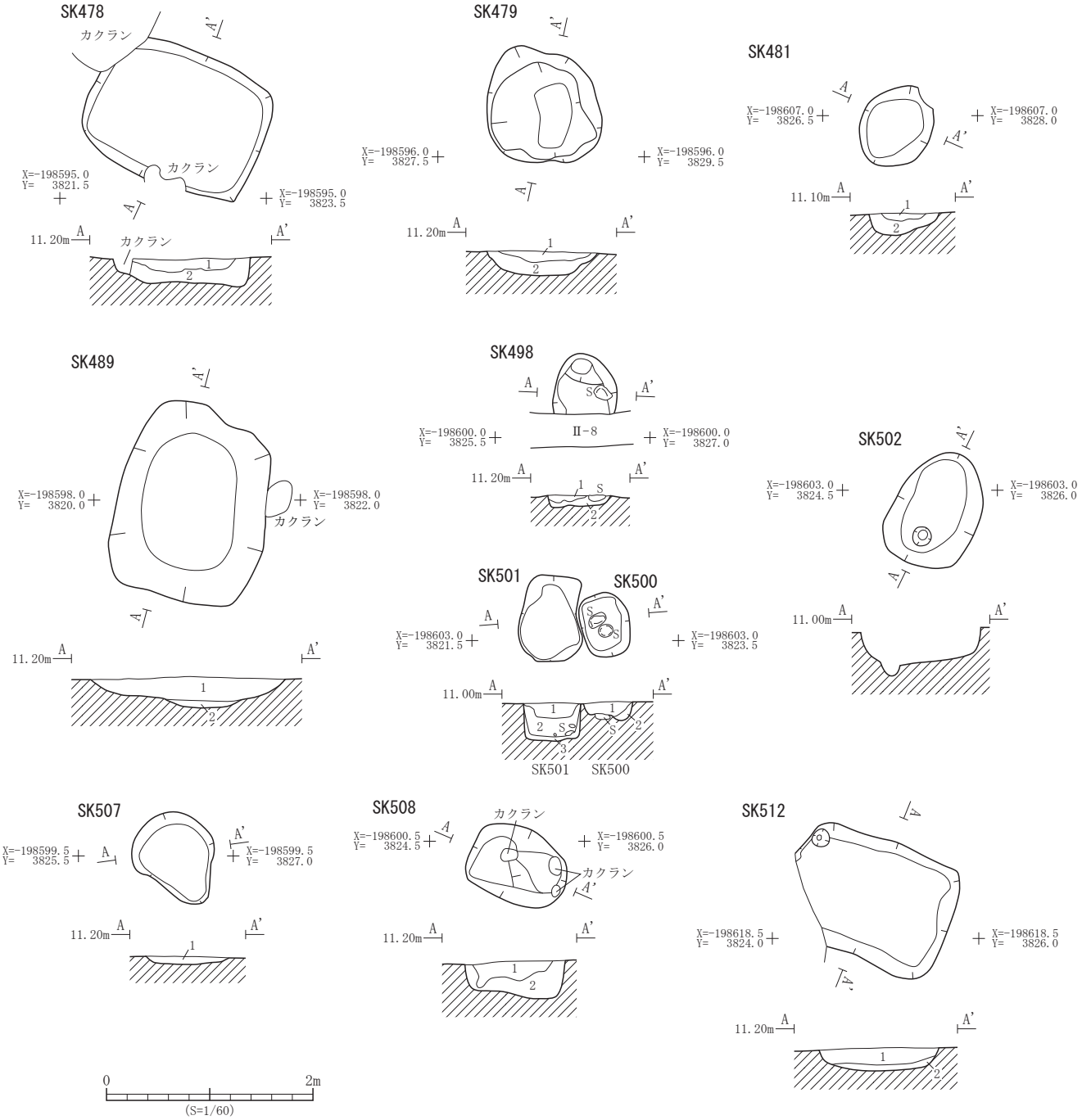
SK507土坑（第81図）　E20・S210グリッドで検出した。SD509と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸95cm、短軸82cm、深さ７cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK508土坑（第81図）　E20・S200グリッドで検出したが部分的に撹乱を受けている。平面形は楕円形で、長軸方向はN-68°-Wである。規模は長軸98cm、短軸72cm、深さ23～37cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面にはわずかに段差がある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

SK512土坑（第81図、図版14）　E20・S210グリッドで検出したが、西側が撹乱で削平されている。平面形は隅




第80図　大野田古墳群９Ｂ区Ｖ層遺構配置図




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK478 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 黒褐色シルト質粘土をブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/1褐灰色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色粘土質シルトを含む。 |
| SK479 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 暗褐色シルト質粘土をブロック状に含む。酸化鉄を微量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 灰黄褐色粘土をブロック状に含む。酸化鉄を微量含む。 |
| SK481 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | 砂質シルト | 酸化鉄を粒状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄を含む。 |
| SK489 | 1 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 黒褐色粘土質シルトをブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を含む。 |
| SK498 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | シルト質粘土 | マンガン粒・酸化鉄粒を含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | マンガン粒を微量含む。 |
| SK500 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄粒を含む。黒褐色シルト質粘土をブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR3/3暗褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を少量含む。 |

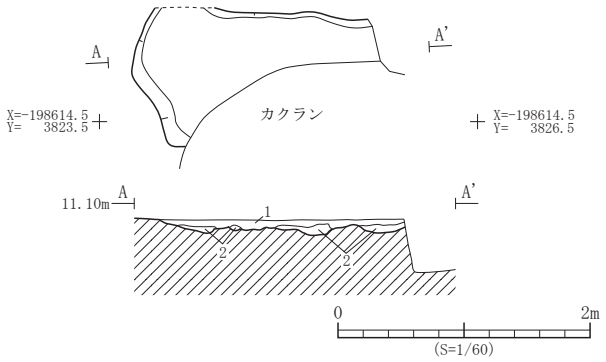
| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SK501 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を微量含む。黒褐色シルト質粘土をブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | マンガン粒を少量含む。 |
| | 3 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | マンガン粒を多量含む。 |
| SK507 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 酸化鉄を斑状に含む。褐灰色砂質シルトをブロック状に含む。 |
| SK508 | 1 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土 | 酸化鉄をブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を多量含む。粘土を小ブロック状に含む。 |
| SK512 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘土を小ブロック状に含む。酸化鉄をまばらに含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄をまばらに含む。 |

第81図　SK478・479・481・489・498・500～502・507・508・512土坑平面図・断面図

丸長方形で、長軸方向はN-67°-Wである。規模は長軸165cm、短軸115cm、深さ22cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は平坦であるが北隅に窪みがある。堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

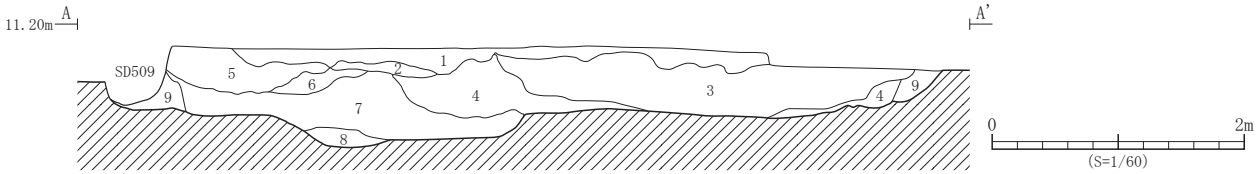
３）河川跡

SR510河川跡（第80・83図）　E10～20・S210グリッドで検出した。東側の一部は撹乱で削平されている。SX511と重複関係にあり、本遺構が古い。主軸方向は概ねN-75°-Eである。検出規模は長さ約8.0m、幅4.50～6.70mである。調査では深さ78cmである。堆積土は９層に分層される。遺物は、瓦の小片が出土した。




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SX511 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄を大粒状にまばらに含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 |

第82図　SX511性格不明遺構平面図・断面図




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SR510 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 砂質シルト | 全体に酸化鉄を含む。南側にはマンガン粒をまばらに含む。 |
| | 2 | 10YR5/2灰黄褐色 | シルト | 酸化鉄を斑状に含む。 |
| | 3 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 砂質粘土 | 全体に酸化鉄粒を多量含む。 |
| | 4 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を多量含む。 |
| | 5 | 10YR3/3暗褐色 | 砂 | 酸化鉄粒をまばらに含む。粘土をブロック状に含む。層下部には砂が広がる。 |
| | 6 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を多量含む。 |
| | 7 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 砂 | 下層は酸化鉄とマンガンが交互に層を作る。最下部には褐灰色砂を層状に含む。 |
| | 8 | 10YR4/4褐色 | 砂 | マンガンを層状に含む。 |
| | 9 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を多量含む。 |

第83図　SR510河川跡断面図

４）性格不明遺構

SX511性格不明遺構（第82図）　E20・S210グリッドで検出し、南側を撹乱で削平されている。SR510と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形と思われ、検出規模は東西198cm、南北110cm、深さ８～13cmである。断面形は皿状で、堆積土は２層に分層される。遺物は出土していない。

５）溝　跡

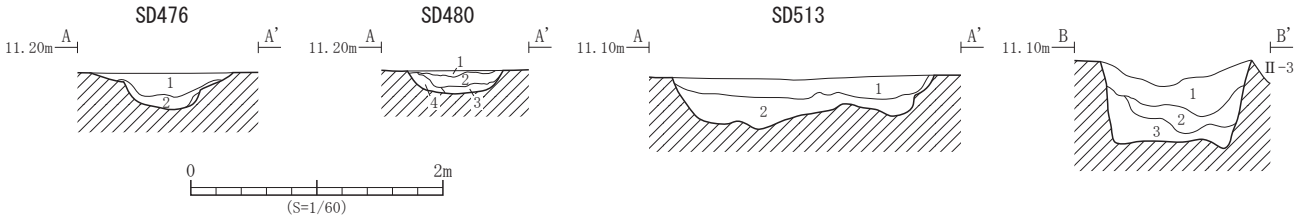
SD476溝跡（第80・84図）　E20～30・S180～190グリッドで検出した。撹乱で部分的に削平されている。28号墳周溝、小溝状遺構Ⅰ-２・３・６、Ⅱ-１・３・５、P5086と重複関係にあり、P5086より古く、他の遺構より新しい。北西-南東方向の溝跡で、主軸方向は概ねN-56°-Wである。検出長は約15.10m、幅72～120cm、深さ20～30cmである。断面形は逆台形で、堆積土は２層に分層される。遺物は、瓦の小片が出土した。

SD477溝跡（第80図）　E20～30・S190グリッドで検出した７区Ⅳ層検出のSD339と同一遺構である。

SD480溝跡（第80・84図）　E20～30・S190グリッドで検出した。大野田28号墳周溝、小溝状遺構Ⅰ-２・３、Ⅱ-３・６と重複関係にあり、本遺構が新しい。主軸方向はN-76°-Wである。規模は長さ9.55m、幅20～83cm、深さ４～20cmで、断面形は逆台形である。堆積土は４層に分層される。遺物は、混入遺物として石斧の小片が出土した。

SD509溝跡（第80図）　E20・S200～210グリッドで検出した７区Ⅳ層検出のSD313と同一遺構である。

SD513溝跡（第80・84図）　E20・S210グリッドで検出した。東西方向の溝跡で、主軸方向はN-88°-Eである。検出長は3.00m、幅65～80cm、深さ20～46cmである。断面形は逆台形であるが、底面は凹凸が激しい。堆積土は３層に分層される。遺物は出土していない。




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SD476 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 暗褐色粘土質シルトをブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色粘土質シルトをブロック状に含む。 |
| SD480 | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | 砂質シルト | 酸化鉄を小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR5/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄をブロック状に含む。にぶい黄褐色砂質シルトを層状に含む。 |
| | 3 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄を微量含む。褐色砂質シルトをブロック状に含む。 |
| | 4 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄・灰黄褐色シルト質粘土を層状に含む。 |

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| SD513 (A-A') | 1 | 10YR4/2灰黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を多量含む。全体的にマンガン粒が広がっている。層下部に礫を含む。 |
| | 2 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | 砂 | 酸化鉄・マンガン粒を多量含む。全体的に礫を含む。 |
| SD513 (B-B') | 1 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄を多量含む。マンガンをまばらに含む。 |
| | 2 | 10YR4/1褐灰色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を粒状にまばらに含む。 |
| | 3 | 10YR5/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄・マンガン粒を多量含む。層下部に礫を含む。 |

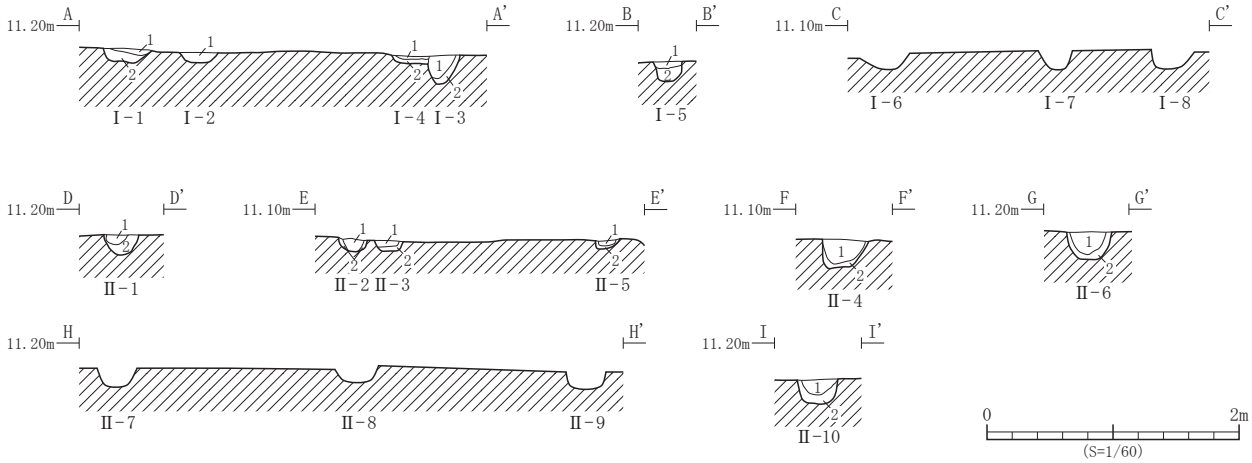
第84図　SD476・480・513溝跡断面図

### ６）小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からⅠ・Ⅱ群に分けられ、Ⅱ群からⅠ群への変遷が考えられる。

Ⅰ群（第80・85図、図版14）　E20～30・S180～200グリッドで検出した南北方向の遺構群で、８条の小溝で構成されている。方向はN－５～８°－Eで、検出長は0.35～19.20m、幅18～50cm、深さ４～36cm、小溝の間隔は接するものから4.10mのものまである。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルト・にぶい黄褐色シルト質粘土・褐色粘土質シルト・褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は、小溝Ⅰ－４から土師器壺が１点出土し、第86図に図示した。薄く精緻なつくりである。５世紀前半から中頃のものと考えられる。

Ⅱ群（第80・85図、図版14）　E20～30・S180～200グリッドで検出した東西方向の遺構群で、10条の小溝で構成されるが、SD477を挟んで南北の２グループに分かれる可能性もある。方向はN－１～９°－W、N－81～86°－Wで




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ-1 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 黒褐色シルト質粘土を多量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒をまばらに含む。 |
| Ⅰ-2 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | 褐色シルト質粘土を斑状に含む。 |
| Ⅰ-3 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 灰黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄を少量含む。 |
| Ⅰ-4 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | マンガン粒を少量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を少量含む。 |
| Ⅰ-5 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 黒褐色粘土質シルトを多量含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を含む。 |
| Ⅱ-1 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。 |

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅱ-2 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 灰黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。その周りを酸化鉄が覆う。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 粘土 | 酸化鉄を粒状に含む。 |
| Ⅱ-3 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 褐色粘土をブロック状に含む。酸化鉄を含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 粘土 | にぶい黄褐色を粒状に含む。 |
| Ⅱ-4 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 粘土 | にぶい黄褐色粘土を小ブロック状に含む。 |
| Ⅱ-5 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色をブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 粘土 | にぶい黄褐色をブロック状に含む。 |
| Ⅱ-6 | 1 | 10YR3/2黒褐色 | シルト質粘土 | にぶい黄褐色粘土を小ブロック状に含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 暗褐色粘土質シルトを斑状に含む。 |
| Ⅱ-10 | 1 | 10YR3/1黒褐色 | シルト質粘土 | マンガン粒をわずかに含む。 |
| | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト質粘土 | 酸化鉄を少量含む。 |

第85図　小溝状遺構群断面図

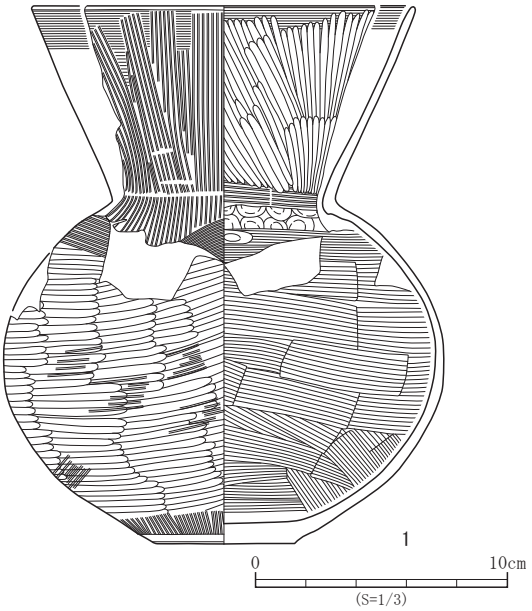
ある。検出長は1.25～12.45m、幅15～50cm、深さ３～26cmである。小溝の間隔はSD447を挟む区域を除外すると、幅150～200cmである。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルト・にぶい黄褐色シルト質粘土・暗褐色粘土質シルト・褐色粘土・褐色粘土質シルト・黒褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は出土していない。

７）ピット（第80図）

75基のピット（P5016～5095）をE20～30・S180～200グリッドで検出した。調査区中央から北側に分布している。遺物は、土師器の小片が出土した。

（２）遺構外出土の遺物（第87図、図版20）

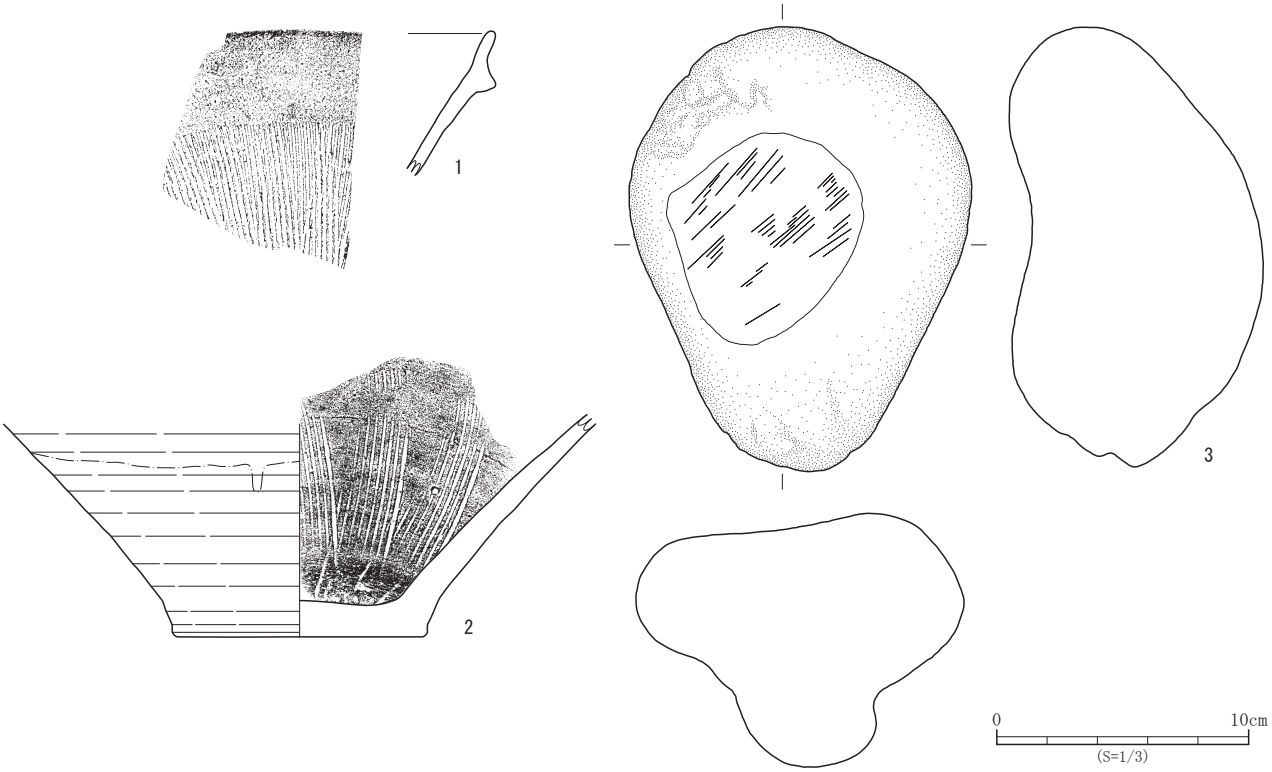
９B区の遺構外からは近世の遺物が出土し、そのうち３点を図示した。第87図１・２は在地産の擂鉢で、内外面に鉄釉が施釉され、擂目は内面全面に巡る。19世紀前半の製品と思われる。３は砥石で、礫のやや窪んだ面に砥面が認められる。




| No. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | C-20 | I-4 | - | 土師器 | 壺 | (15.2)×5.6×(21.4) |

| 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|
| ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ | ヨコナデ・ヘラナデ・ミガキ・ハケメ・指オサエ | | 20-12 |

第86図　小溝状遺構Ｉ-4出土遺物




| No. | 登録番号 | 層　位 | 遺構・グリッド | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 特　徴 | 産　地 | 時　期 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | I-14 | - | - | 施釉陶器 | 擂鉢 | -×-×現5.7 | ロクロ　内外面-鉄釉・摺目単位7・8本 | 在地 | 19世紀前半 | - |
| 2 | I-15 | - | - | 施釉陶器 | 擂鉢 | -×9.8×8.4 | ロクロ 鉄釉　全面擂目 | 在地 | 19世紀前半 | 20-13 |

| No. | 登録番号 | 層　位 | 遺構・グリッド | 種　別 | 器　種 | 石　材 | 長さ×幅×厚さ(cm)　重さ(g) | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | Kd-a-4 | - | - | 礫石器 | 砥石 | 安山岩 | 17.6×13.6×10.2　2,780.0 | 磨1+0。 | 20-14 |

第87図　遺構外出土遺物

## （３）自然科学分析－大野田古墳群７区におけるテフラ分析　　株式会社古環境研究所

### １）はじめに

東北地方中部の仙台市とその周辺には、蔵王、鳴子、十和田など東北地方に分布する火山のほか、北海道、関東、中部、中国、九州地方などの火山などから噴出したテフラ（tephra，火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く分布している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代のみならず、遺構や遺物の年代などについても知ることができるようになっている。そこで、火山灰層が認められた大野田古墳群７区においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に屈折率測定を行って、指標テフラとの同定を試みることになった。分析の対象となった試料は、７区のSR314堆積土層（A－A’）の６層から採取されたものである。

### ２）屈折率測定

（１）測定方法　７区のSR314堆積土層（A－A’）の６層から採取された試料について、日本列島とその周辺のテフラカタログ（町田・新井　1992）の作成にも利用された温度一定型屈折率測定法（新井　1972・1993）により、テフラ粒子の屈折率の測定を行った。

（２）測定結果　屈折率測定の結果を第１表に示す。６層には、白色や無色透明の火山ガラス（最大径2.0㎜）が多く含まれている。その屈折率（n）は、1.502-1.507である。重鉱物としては、斜方輝石や角閃石がごく少量含まれている。これらの屈折率の測定は、量が非常に少ないために困難であった。

### ３）考察

試料に含まれる多くのテフラの起源としては、火山ガラスの形態や色調さらに屈折率などから、915年に十和田火山から噴出したと推定されている十和田ａ火山灰（To-a, 大池　1972, 町田ほか　1981）に由来すると考えられる。ただし、分析者が現地の土層を観察できなかったので、採取された土層が、To-aの一次堆積層か否かについては言及できない。火山灰編年学（テフロクロノロジー）では、テフラの一次堆積層を利用するのが基本であり、その認定には現地での地質調査が必要である。またより純度の良い試料の採取のためにも、分析者による現地での試料採取の実施が期待される。

なお、今回得られた火山ガラスの屈折率は、テフラ・カタログ（町田・新井　1992）に記載されているTo-aの値よりも若干高い傾向にある。この原因としては、To-aのユニット間に火山ガラスの屈折率の違いがある可能性が考えられる（町田ほか　1981）。また、カタログに記載された試料の採取地点が給源に近いために標準試料に含まれる火山ガラスが分厚く、さらにTo-aの噴出年代が新しいために十分水和が進んでいないこと、遠隔地ではその逆で水和が進んで屈折率に違いが生じていることに起因するとも考えられる（新井房夫群馬大学名誉教授談話）。より高精度の同定のためには、エレクトロンプローブＸ線マイクロアナライザー（EPMA）による火山ガラスの主成分化学組成分析などが有効と考えられる。

第１表　７区SR314における屈折率測定結果

| 試料 | 火山ガラス | | | 重鉱物 | 斜方輝石（γ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 量 | 色調 | 屈折率（n） | | |
| 6層 | +++ | 白,透明 | 1.502-1.507 | （opx,ho） | － |

屈折率測定は，温度一定型屈折率測定法（新井　1972・1993）による．
++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，+：少ない，－：認められない．
opx：斜方輝石，ho：角閃石．重鉱物の（ ）は，量が少ないことを示す．

４）小結

大野田古墳群7区において採取された火山灰試料を対象に、テフラ粒子の屈折率測定を行った。その結果、十和田ａ火山灰（To-a，915年）に由来する可能性の高いテフラ粒子が多く含まれていることが明らかになった。

（２）大野田古墳群７区における樹種同定

１）はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２）試料

試料は、大野田古墳群７区において検出された古墳時代の住居跡（SI384）より出土した炭化材２点である。

３）方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４）結果

結果を第２表に、主要な分類群の顕微鏡写真を図版１・２に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

ヤマグワ　Morus australis Poiret クワ科

横断面：年輪のはじめに中型から大型の丸い道管が、単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は複合して円形の小塊をなす。道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の1～2細胞は直立細胞である。

接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、１～６細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ10～15m、径30～40㎝である。材は堅硬、靭性に富み、建築などに用いられる。

５）所見

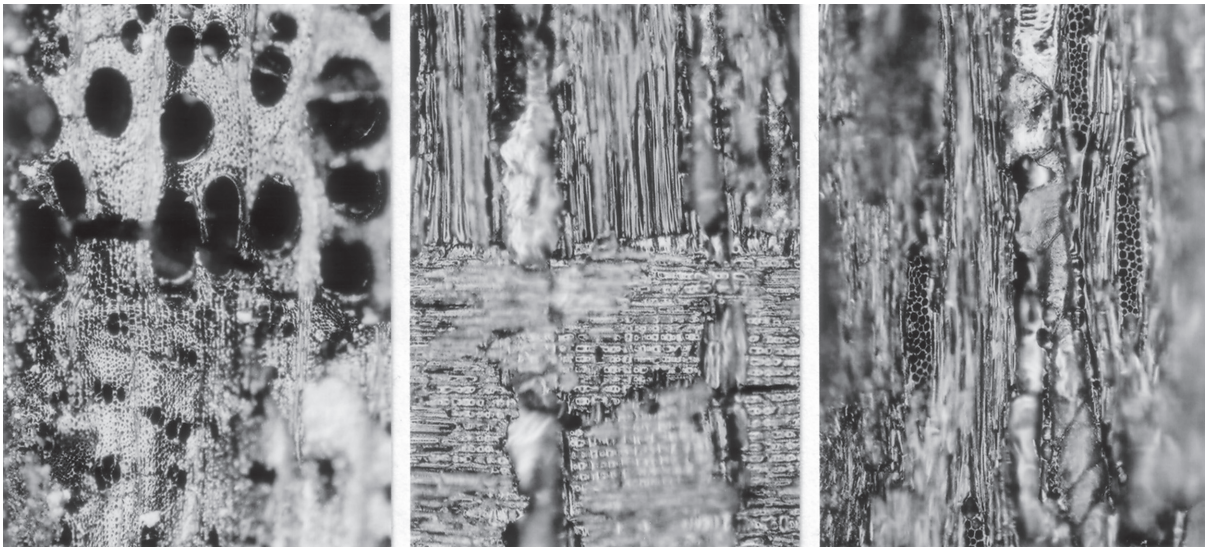
大野田古墳群７区の住居跡から検出された炭化材２点はいずれもヤマグワ２点であった。ヤマグワは温帯に広く分布する落葉高木で、とくに水路沿いなどに多い。現在は建築材として用いられている。本遺跡の炭化材も建築材の可能性が考えられるが、弥生時代ないし古墳時代では類例が少なく珍しい。

第２表　大野田古墳群７区における樹種同定結果

| 試料№ | 出土地点 | | | 結果（学名／和名） | |
|---|---|---|---|---|---|
| ② | ７区 | SI384 | 床面 | *Morus australis Poiret* | ヤマグワ |
| ③ | ７区 | SI384 | 床面 | *Morus australis Poiret* | ヤマグワ |

横断面 ：0.5㎜　放射断面 ：0.2㎜　接続断面 ：0.2㎜

写真１　大野田古墳群７区の炭化材試料No.②　ヤマグワ



横断面 ：0.5㎜　放射断面 ：0.2㎜　接続断面 ：0.2㎜

写真２　大野田古墳群７区の炭化材試料No.③　ヤマグワ

参考文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p.254-269.

新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２－研究対象別分析法」，p.138-149.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫・森脇　広（1981）日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562-569.

大池昭二（1972）十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，11，p.232-233.

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，296p.

## 11. ま と め

大野田古墳群は仙台市太白区大野田字宮、宮脇、竹松、千刈田にあり、自然堤防上に立地する古墳時代～近世の遺跡である。平成12年度は５Ａ区、平成13年度は６Ａ区･６Ｂ区･６Ｃ区、平成14年度は７区、平成15年度は８Ａ区･８Ｂ区、平成16年度は９Ａ区・９Ｂ区の合計９地区で調査を行い、古墳時代～近世の遺構群を検出した。

（１）遺構について

１）古代～近世の遺構は基本層上面で検出した。

８Ａ区-ピット列18列、溝跡１条、小溝状遺構群３群、ピット36基を検出している。

７区では、Ｖ層で遺構検出を行い調査したが、掘立柱建物跡２棟（SB382・341）、SD333、SK378・381は出土遺物から近世の遺構と考えられ、本来はⅢ層より掘り込まれた遺構と考えられる。

２）古墳時代～古代（10世紀以前）の遺構・遺物は各区Ⅳ・Ｖ層上面より多数検している。以下、区別に記す。

５Ａ区Ｖ層-土坑２基、溝跡１条、性格不明遺構１基、小溝状遺構群１群、柵列２列、ピット256基

６Ａ区Ｖ層-土坑１基、性格不明遺構１基、河川跡１条

６Ｂ区Ｖ層-土坑３基、性格不明遺構１基、溝跡１条、ピット23基

６Ｃ区Ｖ層-性格不明遺構４基、溝跡１条、小溝状遺構群２群、ピット10基

７区Ｖ層-古墳１基（28号墳）、竪穴住居跡跡３軒、掘立柱建物跡２棟、土坑25基、河川跡１条、性格不明遺構10基、溝跡19条、小溝状遺構群３群、ピット325基

８Ａ区Ⅳ層-溝跡５条、ピット列17列、ピット65基

※ピット列については、小溝状遺構の底面の深い部分が残存したものとも考えられる。

８Ａ区Ｖ層-古墳１基（29号墳）、土坑７基、溝跡３条、小溝状遺構群４群、ピット347基

８Ｂ区Ｖ層-土坑１基、小溝状遺構群２群、ピット３基

９Ａ区Ｖ層-掘立柱建物跡１棟、木棺墓２基、土坑10基、性格不明遺構６基、溝跡２条、小溝状遺構群５群、ピット245基

※木棺墓SK446の壁面には袋状掘り込みが穿たれ、須恵器壺と土師器壺に土師器壺を蓋として重ねた状態で検出された。

※本調査区では大野田官衙遺跡の遺構であるSB464掘立柱建物跡が検出された他、SK449土坑から多量の鉄滓（570ｇ）が出土した。また、小溝状遺構群や検出面からも鉄滓が出土し、総量として44.8kgである。周辺に鍛冶関連遺構の存在が伺われる。

９Ｂ区Ｖ層-古墳１基（28号墳）、土坑11基、河川跡１条、性格不明遺構１基、溝跡５条、小溝状遺構群２群、ピット76基

３）Ｖ層検出の平安時代以前（10世紀以前）の遺構と考えられる小溝状遺構群は、５Ａ・６Ａ～Ｃ区を除く各区で検出されており、本遺跡内には大規模な畑地が広がっていたものと考えられる。

（２）遺物について

大野田古墳群（９地区）からの出土遺物は平箱36箱である。

１）古墳前期

４世紀末～５世紀初の遺物として７区Ⅳ層SI380竪穴住居跡、SK361・369土坑から土師器坏・甕が出土している。

２）古墳時代中期

７区Ｖ層大野田古墳28号墳周溝から朝顔形埴輪と土師器甕が出土している。５世紀後半～末に比定される。

３）古墳時代後期

６世紀中頃の遺物として、９Ａ区Ⅴ層SK446木棺墓から副葬品として須恵器短頸壺と土師器甕に土師器坏が蓋として転用されている状態で出土した。また、同遺構から鉄鏃10本がまとまった状態で出土している。

４）古墳時代後期～奈良時代

９Ａ区Ⅴ層SK449土坑から鉄滓とともに８世紀前半と思われる土師器坏が出土している。また、鉄滓や鞴の羽口片は９Ａ区Ⅴ層検出面や小溝状遺構群から広範囲に出土している。

５）近世

７区のSD333や９Ａ区の遺構外から19世紀前半代を主に、肥前系染付磁器や大堀相馬産の陶器や在地産の擂鉢が出土している。組成として磁器は肥前系で占められるが、施釉陶器類は東北産の陶器類で占められており、瀬戸・美濃産などの広域流通陶器はない。７区のSB382のP13からかわらけが２枚合わせて出土し、そのうち１枚の見込みには「小豆」と墨書されており、地鎮に関わる遺物の可能性が高い。また銭貨として寛永通宝が土坑から出土しており、六道銭を伴う墓壙と思われる。

第３表　遺構一覧表（１）

５A区Ⅴ層

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK254 | E190・S30 | N-34°-E | 長軸135×短軸105×深さ10 | 楕円形・皿状 | |
| SK255 | E180・S40 | - | 南北[155]×東西[145]×深さ63 | 不明・逆台形 | |

性格不明遺構

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SX256 | E190～200・S50～60 | N-20°-W | 長軸350×短軸218×深さ15～79 | 不整楕円形・概ね逆台形 | |

溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD253 | （大野田官衙遺跡の遺構を参照のこと） | | | | |

小溝状遺構群

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| I-1 | E180・S30 | N-8°-W | 長さ1.10×幅0.20～0.24×深さ0.07 | 直線・(U字形) | |
| I-2 | E180・S30 | N-3°-W | 長さ[1.70]×幅0.18～0.40×深さ0.03 | (逆L字状)・(U字形) | |
| I-3 | E180～190・S20～30 | N-7°-W | 長さ5.35×幅0.20～0.45×深さ0.07 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-4 | E190・S30 | N-4°-W | 長さ4.40×幅0.15～0.40×深さ0.06 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-5 | E190・S30 | N-6°-W | 長さ5.20×幅0.35～0.48×深さ0.20 | 直線・U字形 | |
| I-6 | E190・S30 | N-4°-W | 長さ5.20×幅0.20～0.30×深さ0.12 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-7 | E190・S30 | N-8°-W | 長さ1.05×幅0.35～0.40×深さ0.10 | 直線・U字形 | |
| I-8 | E190・S30 | N-7°-W | 長さ0.65×幅0.40～0.50×深さ0.05 | 直線・(U字形) | |
| I-9 | E190・S30 | N-7°-W | 長さ0.90×幅0.25～0.40×深さ0.07 | 直線・(U字形) | |
| I-10 | E190・S30 | N-2°-W | 長さ0.55×幅0.20×深さ0.14 | 直線・U字形 | |
| I-11 | E190・S30 | N-6°-W | 長さ7.65×幅0.25～0.40×深さ0.04 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-12 | E200・S30 | N-1°-W | 長さ1.15×幅0.25～0.32×深さ0.07 | 直線・(U字形) | |
| I-13 | E200・S30 | N-4°-E | 長さ0.75×幅0.25～0.30×深さ0.15 | 直線・U字形 | |
| I-14 | E190・S40 | N-8°-E | 長さ0.70×幅0.15～0.20×深さ0.12 | わずかに屈曲・U字形 | |
| I-15 | E190・S40 | N-45°-W | 長さ0.75×幅0.25×深さ0.15 | 直線・U字形 | |

柵列

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SA257 | E180～200・S30 | ほぼ東西 | 長さ[13.50]・ピット間0.10～3.60 | - | |
| SA258 | E180～200・S30～40 | ほぼ東西 | 長さ[15.10]・ピット間0～1.80 | - | |

６A区Ⅴ層

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK4071 | E80・S290 | N-7°-W | 長軸60×短軸45×深さ18 | 楕円形・U字形 | |

性格不明遺構

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SX260 | E80・S280 | N-20°-E | 北東～南西[510]×北西～南東[285]×深さ45～55 | (隅丸長方形)・逆台形 | |

河川跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SR259 | E70～80・S270～280 | - | 長さ[14.40]×幅[4.50]×深さ0.40～1.20 | 不明 | |

６B区Ⅴ層

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK263 | E110～120・S290～300 | - | 北東～南西[255]×北西～南東[115]×深さ50～55 | 不明・逆台形 | |
| SK265 | E120・S290～300 | N-50°-E | 長軸125×短軸85×深さ29～43 | 不整楕円形・逆台形 | |
| SK266 | E110～120・S290 | N-65°-E | 長軸203×短軸65×深さ3～19 | 長楕円形・皿状 | |

性格不明遺構

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SX264 | E120・S290 | N-79°-E | 長軸[280]×短軸220×深さ40～63 | (不整楕円形)・U字形 | |

## 第４表　遺構一覧表（２）

### ６B区Ⅴ層

溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD262 | E110・S290 | N-16°-W | 長さ[3.95]×幅0.35～0.45×深さ0.10 | ほぼ直線・U字形 | |

### ６C区Ⅴ層

性格不明遺構

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SX268 | E150・S300 | N-7°-W | 長軸[225]×短軸195×深さ12 | 不整形・皿状 | |
| SX269 | E160・S290～300 | N-5°-E | 長軸[350]×短軸270×深さ40～53 | (楕円形)・皿状 | |
| SX270 | E160・S290～300 | N-87°-E | 長軸370×短軸250×深さ83～120 | 不整楕円形・U字形 | |
| SX271 | E160・S300 | - | 東西270×南北[215]×深さ3～40 | 不明 | |

溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD267 | E160・S300 | N-40°-E | 長さ[4.10]×幅1.35～1.96×深さ0.10 | ほぼ直線・皿状 | |

小溝状遺構群

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| I-1 | E150・S290～300 | N-7°-E | 長さ[3.40]×幅0.22～0.30×深さ0.04～0.17 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-2 | E150・S290～300 | N-6°-E | 長さ1.10×幅0.25～0.28×深さ0.12 | 直線・U字形 | |
| I-3 | E150～160・S290～300 | N-11°-E | 長さ[3.80]×幅0.30～0.35×深さ0.22 | 直線・U字形 | |
| I-4 | E160・S300 | N-3°-E | 長さ[0.50]×幅0.15～0.26×深さ0.12 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-5 | E160・S290～300 | N-9°-E | 長さ[4.55]×幅0.25～0.35×深さ0.13～0.15 | わずかに屈曲・U字形 | |
| I-6 | E160・S290～300 | N-27°-E | 長さ[4.50]×幅0.35～0.80×深さ0.10 | わずかに蛇行・U字形 | |
| I-7 | E160・S300 | N-23°-E | 長さ[2.90]×幅0.25～0.32×深さ0.06 | 直線・(U字形) | |
| II-1 | E140～150・S290 | N-81°-W | 長さ6.35×幅0.20～0.30×深さ0.10 | わずかに湾曲・U字形 | |
| II-2 | E150・S290 | N-83°-W | 長さ1.15×幅0.20～0.25×深さ0.08～0.10 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-3 | E140～150・S290～300 | N-82°-W | 長さ10.05×幅0.20～0.36×深さ0.12～0.17 | わずかに蛇行・U字形 | |
| II-4 | E140～150・S290～300 | N-85°-W | 長さ10.0×幅0.25～0.36×深さ0.19～0.21 | わずかに屈曲・U字形 | |
| II-5 | E150・S300 | N-85°-W | 長さ8.00×幅0.30～0.44×深さ0.14～0.21 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-6 | E140～150・S300 | N-86°-W | 長さ7.92×幅0.26～0.35×深さ0.12～0.21 | わずかに屈曲・U字形 | |

### ７区Ⅴ層

古墳

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 28号墳 | W0-E0～E20・S180～190 | - | 径17.30×周溝幅1.75～2.22×周溝深さ0.28～0.90 | 円墳・周溝逆台形 | 5世紀後半 |

竪穴住居跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向　（　）は推定 | 規　模（m） | カマド | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SI366 | W30・S190 | N-23°-E | 長軸[南北]2.80～3.00×短軸[東西]2.60～2.90×壁高0.20 | 不明 | 古墳 |
| SI380 | W40・S190～200 | (N-22°-E) | 南北4.60×東西[3.80]×壁高0.24 | 不明 | 4世紀後半～5世紀前半 |
| SI384 | W50～60・S200 | (N-28°-W) | 東西[6.6]×南北[3.1]×壁高0.20 | 不明 | 5世紀前半 |

掘立柱建物跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 主軸方位 | 柱間数 | 建物規模（m） | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SB341 | W0-E0・S200～210 | N-27°-E | 桁行2間×梁行1間 | 桁行4.20～4.65×梁行3.30 | |
| SB382 | W0-E0～E10・S200～210 | N-27°-E | 桁行4間×梁行2間 | 桁行12.90×梁行5.40～5.85 | 19世紀前半 |

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 長軸方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK288 | E10・S190 | N-81°-E | 長軸100×短軸75×深さ20～30 | 楕円形・U字形 | |
| SK294 | W0-E0～E10・S190 | N-6°-W | 長軸185×短軸80×深さ36 | 楕円形・逆台形 | |
| SK296 | W0-E0・S200 | N-65°-W | 長軸105×短軸90×深さ13 | 楕円形・皿状 | |
| SK303 | W0-E0・S200 | - | 径235×深さ40 | ほぼ円形・皿状 | 19世紀前半 |
| SK306 | W0-E0・S200 | - | 北西～南東120×北東～南西[80]×深さ15 | (楕円形)・皿状 | |
| SK311 | W0-E0・S210 | N-30°-E | 長軸75×短軸52×深さ17 | 楕円形・U字形 | |
| SK326 | W0-E0・S200 | N-68°-W | 長軸82×短軸60×深さ11 | 楕円形・皿状 | |
| SK327 | W0-E0・S200 | N-84°-E | 長軸155×短軸85×深さ8 | 不整楕円形・皿状 | |
| SK331 | W10・S210 | - | 北西～南東[218]×北東～南西[73]×深さ18 | (隅丸方形or隅丸長方形)・皿状 | |
| SK332 | W10・S200 | N-67°-W | 長軸124×短軸85×深さ55～64 | 楕円形・逆台形 | 古墳～古代 |
| SK334 | W10・S190 | N-59°-W | 長軸[62]×短軸[42]×深さ18 | (楕円形)・逆台形 | |
| SK336 | W10・S200 | N-75°-W | 長軸72×短軸40～70×深さ38 | 隅丸台形・U字形 | |
| SK340 | W10・S190 | N-43°-W | 長軸314×短軸95×深さ28～50 | 長楕円形・皿状 | |
| SK341 | W0-E0・S200～210 | N-60°-E | 長軸[255]×短軸190×深さ17～25 | (不整楕円形)・皿状 | |
| SK345 | E10・S210 | N-21°-E | 長軸115×短軸55×深さ10 | 概ね隅丸長方形・皿状 | |
| SK346 | E10・S210 | - | 径64×深さ17 | ほぼ円形・U字形 | |
| SK361 | W30・S190 | - | 径60×深さ23 | ほぼ円形・U字形 | 4世紀末 |
| SK363 | W20・S190 | N-61°-W | 長軸215×短軸115×深さ62 | 不整隅丸長方形・逆台形 | 古墳～古代 |
| SK367 | W30・S190 | N-62°-E | 長軸282×短軸107×深さ30～40 | 長楕円形・U字形 | 4世紀末 |
| SK373 | W40・S190 | N-42°-W | 長軸[105]×短軸78×深さ6～13 | (楕円形)・皿状 | 近世 |
| SK378 | W40・S200 | - | 長軸108×短軸90×深さ46 | 楕円形・U字形 | 近世 |
| SK381 | W40・S200 | - | 南北[115]×東西[60]×深さ47 | 不明・逆台形 | 近世 |
| SK389 | W20・S200 | N-44°-W | 長軸[335]×短軸56～130×深さ45 | 不整楕円形・U字形 | |
| SK390 | W10～20・S190～200 | N-73°-W | 長軸395×短軸240～300×深さ48～52 | 不整隅丸長方形・皿状 | |
| SK391 | E50・S230～240 | N-7°-E | 長軸175×短軸80×深さ18～33 | 楕円形・U字形 | |

河川跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SR314 | W10～E20・S210～220 | N-88°-E | 長さ［24.50］×幅2.30～9.70×深さ［0.60］ | 不明 | 古墳後期～古代 |

## 第５表　遺構一覧表（３）

### ７区Ⅴ層

性格不明遺構

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SX301 | E10・S190 | N-51°-W | 長軸362×短軸85～190×深さ23～34 | 不整形・逆台形 | |
| SX302 | E10・S200 | N-84°-W | 長軸[505]×短軸255～475×深さ15～57 | 不整形・概ね逆台形 | |
| SX304 | E10・S200 | N-8°-W | 長軸290×短軸230×深さ10 | 不整形・皿状 | |
| SX305 | W0-E0～E10・S190～200 | N-25°-E | 長軸380×短軸70～255×深さ12～28 | 不整形・皿状 | |
| SX307 | E20・S220 | N-82°-W | 長軸238×短軸190×深さ5～28 | 不整楕円形・皿状 | |
| SX308 | E20・S220 | N-28°-E | 長軸155×短軸95×深さ12 | (隅丸長方形)・皿状 | |
| SX309 | E20・S220 | N-27°-E | 長軸150×短軸125×深さ12～17 | 楕円形・皿状 | |
| SX310 | E20・S220 | N-36°-E | 長軸162×短軸120×深さ12 | 楕円形・皿状 | |
| SX351 | E10～20・S180 | - | 東西275×南北[210]×深さ85 | (楕円形)・U字形 | |
| SX365 | W20・S190 | N-88°-E | 長軸290×短軸265×深さ72 | 不整形・U字形 | |

### ７区Ⅳ層

溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD295 | W0-E0・S190 | N-85°-E | 長さ1.60×幅0.45×深さ0.18 | 直線・逆台形 | |
| SD313 | W0-E0～E20・S200～210 | N-85°-E | 長さ[33.50]×幅0.95～2.70×深さ0.05～0.31 | やや蛇行・U字形 | 古墳～古代 |
| SD316 | E10～20・S200～210 | - | 長さ[4.50]×幅0.65～0.95×深さ0.09～0.40 | 半円形・U字形 | 古墳～古代 |
| SD330 | W10・S200 | N-42°-W | 長さ4.60×幅0.60～1.25×深さ0.10～0.22 | ほぼ直線・U字形 | 古墳～古代 |
| SD333 | W10～20・S180～210 | N-13°-E | 長さ[23.70]×幅0.55～1.00×深さ0.06～0.42 | ほぼ直線・U字形 | 19世紀前半 |
| SD339 | W30～E30・S180～190 | N-80°-W | 長さ[67.60]×幅1.70～2.40×深さ0.09～0.55 | ほぼ直線・U字形 | 古墳後期 |
| SD356 | W20・S180～200 | N-13°-E | 長さ[23.50]×幅0.48～0.82×深さ0.16～0.30 | 直線・逆台形 | |
| SD358 | W20・S180 | N-3°-E | 長さ[1.65]×幅0.40～0.80×深さ0.25～0.35 | ほぼ直線・逆台形 | |
| SD370 | W40～60・S190～200 | N-50°-E | 長さ[19.80]×幅0.60～2.95×深さ0.45 | わずかに蛇行・U字形 | 古墳～古代 |
| SD371 | W30～40・S190 | N-60°-E | 長さ15.70×幅0.55～0.75×深さ0.12～0.18 | ほぼ直線・U字形 | |
| SD372 | W30～40・S190 | N-64°-E | 長さ8.20×幅0.70～1.15×深さ0.28 | ほぼ直線・皿状 | |
| SD374 | W40・S190 | N-21°-E | 長さ2.75×幅0.35～0.70×深さ0.34 | ほぼ直線・U字形 | |
| SD375 | W40・S190 | N-8°-E | 長さ1.45×幅0.40×深さ0.07 | 直線・U字形 | |
| SD376 | W40・S200 | N-12°-W | 長さ[2.15]×幅0.30～0.40×深さ0.10～0.20 | ほぼ直線・U字形 | |
| SD377 | W40・S190～200 | N-9°-E<br>N-78°-W | 長さ11.60×幅0.35～0.60×深さ0.15～0.27 | L字形・U字形 | |
| SD379 | W40・S190～200 | N-8°-E | 長さ[6.55]×幅0.30～0.55×深さ0.05～0.17 | ほぼ直線・U字形 | |
| SD382 | W50・S200 | N-8°-W | 長さ[3.55]×幅0.35～0.70×深さ0.32～0.36 | わずかに蛇行・U字形 | |
| SD383 | W50・S200 | N-8°-E | 長さ[1.75]×幅0.40×深さ0.12 | ほぼ直線・U字形 | |
| SD386 | W0-E0～E30・S180～190 | N-76°-W | 長さ[25.10]×幅0.30～0.95×深さ0.21 | ほぼ直線・U字形 | |

小溝状遺構群

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| I-1 | W10・S190 | N-77°-W | 長さ1.50×幅0.20～0.25×深さ0.05 | 直線・(U字形) | |
| I-2 | W0-E0・S190 | N-86°-W | 長さ2.50×幅0.20～0.25×深さ0.10～0.12 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-3 | W0-E0・S190 | N-88°-W | 長さ1.70×幅0.20～0.30×深さ0.21 | 直線・U字形 | |
| I-4 | W20～W0-E0・S190 | N-84°-W | 長さ20.60×幅0.20～0.50×深さ0.04～0.10 | わずかに蛇行・U字形 | |
| I-5 | E10・S190 | N-88°-E | 長さ1.15×幅0.35×深さ0.06 | 直線・(U字形) | |
| I-6 | W0-E0～E10・S190 | N-82°-W | 長さ15.60×幅0.25～0.40×深さ0.11～0.25 | わずかに蛇行・U字形 | |
| I-7 | W0-E0～E10・S190～200 | N-82°-W | 長さ7.80×幅0.20～0.40×深さ0.04～0.11 | わずかに蛇行・U字形 | |
| I-8 | W30・S190 | N-83°-W | 長さ6.65×幅0.20～0.28×深さ0.05～0.10 | わずかに蛇行・U字形 | |
| I-9 | W10・S200 | N-89°-W | 長さ2.20×幅0.25～0.30×深さ0.10 | 直線・U字形 | |
| I-10 | W30～40・S200 | N-89°-W | 長さ4.55×幅0.20～0.35×深さ0.03～0.08 | わずかに蛇行・(U字形) | |
| I-11 | E10・S200 | N-84°-W | 長さ2.50×幅0.30×深さ0.08 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-12 | W30～E10・S200 | 東西 | 長さ[38.90]×幅0.20～0.55×深さ0.02～0.16 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-13 | E10～20・S220 | N-85°-W | 長さ2.60×幅0.20～0.28×深さ0.05～0.08 | 直線・(U字形) | |
| II-1 | W20・S190～200 | N-13°-E | 長さ[10.55]×幅0.25～0.40×深さ0.03～0.14 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-2 | W20・S200～210 | N-11°-E | 長さ[0.65]×幅0.35×深さ0.04 | 直線・(U字形) | |
| II-3 | W20・S200～210 | N-19°-E | 長さ[10.20]×幅0.25～0.30×深さ0.02～0.07 | ほぼ直線・(U字形) | |
| II-4 | W10～20・S200～210 | N-22°-E | 長さ[11.25]×幅0.20～0.40×深さ0.06～0.09 | ほぼ直線・(U字形) | |
| II-5 | W20・S210 | N-18°-E | 長さ[0.80]×幅0.25×深さ0.05 | 直線・(U字形) | |
| II-6 | W10・S190 | N-12°-E | 長さ2.50×幅0.32～0.40×深さ0.10 | ほぼ直線・U字形 | |
| III-1 | E40・S240 | N-1°-E | 長さ[2.00]×幅0.25～0.38×深さ0.07～0.09 | ほぼ直線・(U字形) | |
| III-2 | E40・S240 | N-4°-W | 長さ[3.75]×幅0.30～0.50×深さ0.21～0.22 | ほぼ直線・U字形 | |
| III-3 | E40・S240 | N-7°-W | 長さ[3.65]×幅0.30～0.40×深さ0.18～0.24 | ほぼ直線・U字形 | |
| III-4 | E40・S240 | N-2°-W | 長さ[3.70]×幅0.25～0.38×深さ0.17～0.19 | ほぼ直線・U字形 | |
| III-5 | E40・S240 | N-1°-E | 長さ[1.95]×幅0.28～0.40×深さ0.22 | ほぼ直線・U字形 | |
| III-6 | E40・S240 | 南北 | 長さ[1.45]×幅0.35×深さ0.27 | ほぼ直線・U字形 | |
| III-7 | E40・S240 | N-11°-E | 長さ[1.10]×幅0.35×深さ0.13 | わずかに湾曲・U字形 | |
| III-8 | E40・S240 | N-1°-E | 長さ[2.40]×幅0.30～0.50×深さ0.23 | ほぼ直線・U字形 | |

### ８A区Ⅲ層

ピット列

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 主軸方位 | ピット数 | 規　模（m） | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 31号 | E240・S60 | N-7°-E | 3基 | 長さ1.45 | |
| 32号 | E240・S50～60 | N-3°-E | 8基 | 長さ5.05 | |
| 33号 | E290・S50 | N-12°-W | 7基 | 長さ4.50 | |
| 34号 | E290・S50 | N-6°-W | 5基 | 長さ2.90 | |
| 35号 | E290・S50 | N-31°-E | 4基 | 長さ2.84 | |
| 36号 | E290～300・S50 | N-45°-E | 5基 | 長さ3.45 | |
| 37号 | E300・S50～60 | N-75°-W | 5基 | 長さ3.25 | |
| 38号 | E300～310・S50 | N-78°-E | 16基 | 長さ11.80 | |
| 39号 | E300・S50 | N-80°-W | 12基 | 長さ7.80 | |
| 40号 | E300・S40～50 | N-85°-W | 8基 | 長さ5.45 | |
| 41号 | E310・S40～60 | N-12°-E<br>N-27°-E | 23基 | 長さ15.70 | |

## 第６表　遺構一覧表（４）

### ８A区Ⅲ層

ピット列

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 主軸方位 | ピット数 | 規　模（m） | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 42号 | E310・S50 | N-70°-W | 5基 | 長さ2.83 | |
| 48号 | E320・S30～40 | N-28°-W | 9基 | 長さ6.12 | |
| 49号 | E320・S30 | N-27°-W | 7基 | 長さ4.65 | |
| 50号 | E320～330・S30 | N-70°-W | 4基 | 長さ2.65 | |
| 51号 | E310～320・S30 | N-71°-W | 10基 | 長さ7.28 | |
| 52号 | E320・S30～40 | N-8°-E | 4基 | 長さ2.48 | |
| 53号 | E310～320・S40 | N-21°-E | 6基 | 長さ4.50 | |

溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD402 | E330・S30～50 | N-21°-E | 長さ［18.30］×幅1.20～1.80×深さ0.44～0.55 | （屈曲）・概ね逆台形 | |

小溝状遺構群

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ-1 | E250～260・S50 | 東西 | 長さ17.20×幅0.18～0.30×深さ0.02～0.05 | ほぼ直線・（U字形） | |
| Ⅰ-2 | E270・S50 | N-88°-W | 長さ0.70×幅0.15～0.18×深さ0.02 | わずかに屈曲・（U字形） | |
| Ⅰ-3 | E290・S50 | N-83°-W | 長さ3.34×幅0.10～0.24×深さ0.02 | ほぼ直線・（U字形） | |
| Ⅰ-4 | E310・S50 | N-64°-W | 長さ2.22×幅0.12～0.20×深さ0.03～0.14 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅰ-5 | E230・S60 | N-75°-W | 長さ［0.83］×幅0.15～0.20×深さ0.04 | ほぼ直線・（U字形） | |
| Ⅰ-6 | E230・S60 | N-73°-W | 長さ［0.75］×幅0.25×深さ0.03～0.05 | 直線・（U字形） | |
| Ⅱ-1 | E270・S50 | N-8°-E | 長さ［0.20］×幅0.20×深さ0.04 | 直線・（U字形） | |
| Ⅱ-2 | E270・S50 | N-8°-E | 長さ［0.50］×幅0.28×深さ0.04 | ほぼ直線・（U字形） | |
| Ⅱ-3 | E270・S50 | N-13°-E | 長さ［0.80］×幅0.22～0.30×深さ0.04 | ほぼ直線・（U字形） | |
| Ⅱ-4 | E270・S50 | N-12°-E | 長さ［1.10］×幅0.15～0.32×深さ0.02～0.07 | わずかに蛇行・（U字形） | |
| Ⅱ-5 | E270・S50 | N-15°-E | 長さ［1.35］×幅0.20～0.32×深さ0.04～0.08 | ほぼ直線・（U字形） | |
| Ⅱ-6 | E270・S50 | N-8°-E | 長さ［1.50］×幅0.28～0.35×深さ0.03～0.14 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-7 | E280・S50～60 | N-16°-W | 長さ［1.25］×幅0.20～0.40×深さ0.20～0.34 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-8 | E280・S50～60 | N-2°-W | 長さ［1.48］×幅0.25～0.37×深さ0.24～0.34 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-9 | E280・S50～60 | N-4°-W | 長さ［1.92］×幅0.27～0.37×深さ0.26～0.34 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-10 | E280・S50～60 | N-4°-E | 長さ［2.60］×幅0.25～0.35×深さ0.17～0.20 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-11 | E280・S50～60 | N-10°-E | 長さ［2.00］×幅0.30～0.40×深さ0.18～0.20 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-12 | E290・S50～60 | N-13°-E | 長さ［3.30］×幅0.28～0.38×深さ0.20～0.25 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅲ-1 | E280・S50～60 | N-56°-W | 長さ［1.80］×幅0.20～0.28×深さ0.13～0.27 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅲ-2 | E320・S50～60 | N-19°-W | 長さ［10.70］×幅0.23～0.32×深さ0.04～0.11 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅲ-3 | E320・S50～60 | N-18°-W | 長さ［10.63］×幅0.20～0.33×深さ0.02～0.10 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅲ-4 | E320・S40～60 | N-18°-W | 長さ［10.75］×幅0.15～0.25×深さ0.06～0.12 | ほぼ直線・U字形 | |

### ８A区Ⅳ層

溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD403 | E320～330・S50 | N-23°-E | 長さ［9.60］×幅0.80～1.10×深さ0.07～0.16 | ほぼ直線・皿状 | |
| SD404 | E320～330・S40～50 | N-18°-E | 長さ［12.50］×幅0.53～1.32×深さ0.04～0.23 | ほぼ直線・皿状 | |
| SD405 | E320～330・S40～50 | N-16°-E | 長さ［12.20］×幅0.50～1.35×深さ0.05～0.26 | ほぼ直線・逆台形 | |
| SD406 | E330・S30～40 | N-6°-E | 長さ11.30×幅0.35～0.70×深さ0.04～0.18 | わずかに蛇行・U字形 | |
| SD418 | E330・S30～40 | N-10°-E | 長さ［6.45］×幅0.50～1.50×深さ0.03～0.08 | ほぼ直線・皿状 | |

ピット列

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 主軸方位 | ピット数 | 規　模（m） | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 43号 | E310～320・S40～50 | N-75°-E | 15基 | 長さ9.60 | |
| 45号 | E310～320・S40～50 | N-75°-W | 10基 | 長さ7.00 | |
| 47号 | E310～320・S50～60 | N-78°-W | 24基 | 長さ16.75 | |
| 54号 | E300～320・S30～40 | 東西・N-52°-W | 57基 | 長さ28.20 | |
| 55号 | E310・S30 | N-68°-W | 7基 | 長さ4.80 | |
| 56号 | E310～320・S40 | N-81°-E<br>N-87°-W | 20基 | 長さ12.05 | |
| 57号 | E310・S40 | N-62°-W | 5基 | 長さ3.40 | |
| 58号 | E310・S40 | N-77°-E | 5基 | 長さ3.10 | |
| 59号 | E310～320・S40 | N-83°-W | 8基 | 長さ5.90 | |
| 60号 | E320・S30 | N-72°-E | 3基 | 長さ1.82 | |
| 61号 | E310～320・S30～40 | N-85°-E<br>N-45・87°-W | 23基 | 長さ18.00 | |
| 62号 | E320・S30 | N-18°-W | 6基 | 長さ4.05 | |
| 63号 | E320～330・S40 | N-75°-E | 8基 | 長さ5.00 | |
| 64号 | E330・S30～40 | N-20°-W | 7基 | 長さ5.65 | |
| 65号 | E320・S30 | N-75°-W | 6基 | 長さ5.95 | |
| 66号 | E300～310・S30 | 東西 | 18基 | 長さ15.20 | |
| 67号 | E320・S40 | N-89°-W | 9基 | 長さ7.80 | |

### ８A区Ⅴ層

古墳

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 29号墳 | E230～240・S50～60 | - | 径12.70×周溝幅2.08～2.70×周溝深さ0.62～0.82 | 円墳・概ね逆台形 | 5世紀後半 |

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 長軸方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK407 | E250・S50 | N-86°-E | 長軸122×短軸72×深さ22 | 楕円形・逆台形 | |
| SK408 | E250・S50 | N-38°-E | 長軸175×短軸80×深さ14 | 楕円形・皿状 | |
| SK416 | E310～320・S50 | N-19°-E | 長軸190×短軸58～66×深さ67 | 隅丸長方形・逆台形 | |
| SK417 | E310・S40 | N-4°-W | 長軸95×短軸50～85×深さ27～46 | 隅丸台形・柄杓状 | |
| SK420 | E330・S30 | N-13°-E | 長軸102×短軸60×深さ35 | 隅丸長方形・逆台形 | |

## 第７表　遺構一覧表（５）

### ８A区Ⅴ層

溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD411 | E280・S50 | N-30°-W | 長さ5.40×幅0.30～0.70×深さ0.06 | やや湾曲・皿状 | |
| SD419 | E320・S30 | N-61°-W | 長さ[3.50]×幅0.34～0.54×深さ0.07～0.21 | やや湾曲・U字形 | |
| SD421 | （大野田官衙遺跡の遺構参照のこと） | | | | |

小溝状遺構群

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| I-1 | E290・S50～60 | N-18°-E | 長さ[2.55]×幅0.20～0.40×深さ0.05 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-2 | E290・S50 | N-12°-E | 長さ1.26×幅0.15～0.23×深さ0.05～0.08 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-3 | E290・S50～60 | N-19°-E | 長さ[4.25]×幅0.18～0.25×深さ0.03～0.10 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-4 | E290～300・S50～60 | N-18°-E | 長さ[6.15]×幅0.38～0.48×深さ0.08～0.32 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-5 | E300・S50～60 | N-23°-E | 長さ[4.10]×幅0.25～0.45×深さ0.08～0.14 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-6 | E300・S50～60 | N-23°-E | 長さ[4.10]×幅0.25～0.35×深さ0.04～0.19 | 直線・U字形 | |
| I-7 | E300・S50～60 | N-19°-E | 長さ[2.55]×幅0.25～0.35×深さ0.06～0.23 | 直線・U字形 | |
| I-8 | E300～310・S50～60 | N-15°-E | 長さ[8.10]×幅0.25～0.35×深さ0.07～0.20 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-9 | E310・S50～60 | N-13°-E | 長さ[8.40]×幅0.37～0.52×深さ0.10～0.20 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-10 | E310・S50～60 | N-20°-E | 長さ[8.10]×幅0.30～0.42×深さ0.12～0.20 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-11 | E310・S50～60 | N-17°-E | 長さ[8.70]×幅0.25～0.38×深さ0.09～0.23 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-12 | E310～320・S50～60 | N-18°-E | 長さ[10.00]×幅0.30～0.40×深さ0.07～0.19 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-13 | E320・S50～60 | N-13°-E | 長さ[10.00]×幅0.25～0.40×0.06～0.24 | わずかに湾曲・U字形 | |
| I-14 | E320・S50～60 | N-12°-E | 長さ[10.30]×幅0.35～0.55×0.10～0.36 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-15 | E320・S50～60 | N-12°-E | 長さ[9.30]×幅0.33～0.50×0.17～0.35 | わずかに湾曲・U字形 | |
| I-16 | E320・S50 | N-13°-E | 長さ2.95×幅0.30～0.40×深さ0.05～0.14 | 直線・U字形 | |
| I-17 | E320～330・S50 | N-22°-E | 長さ[9.70]×幅0.35～0.50×深さ0.19～0.27 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-18 | E330・S50 | N-20°-E | 長さ[1.00]×幅0.45×深さ0.29 | 直線・U字形 | |
| Ⅱ-1 | E300～320・S40 | N-88°-E | 長さ14.10×幅0.28～0.46×深さ0.05～0.09 | やや湾曲・(U字形) | |
| Ⅲ-1 | E250・S50 | N-42°-E | 長さ[1.95]×幅0.15～0.20×深さ0.04～0.08 | ほぼ直線・(U字形) | |
| Ⅳ-1 | E260・S50～60 | N-2°-E | 長さ[1.10]×幅0.30×深さ0.04～0.07 | 直線・(U字形) | |
| Ⅳ-2 | E300・S40～50 | N-2°-W | 長さ5.05×幅0.15～0.25×深さ0.02～0.10 | ほぼ直線・U字形 | |

### ８B区Ⅴ層

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 長軸方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK424 | E10・S240 | N-67°-W | 長軸110×短軸55×深さ20～30 | 隅丸長方形・箱形 | |

小溝状遺構群

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| I-1 | E20・S240 | N-1°-W | 長さ[5.60]×幅0.40～0.45×深さ0.08～0.18 | 直線・U字形 | |
| I-2 | E20・S240 | N-1°-W | 長さ[4.40]×幅0.30～0.35×深さ0.09～0.17 | 直線・U字形 | |
| I-3 | E30・S240 | N-2°-E | 長さ[4.55]×幅0.28～0.40×深さ0.12～0.15 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-4 | E30・S240～250 | N-6°-E | 長さ[9.60]×幅0.20～0.40×深さ0.07～0.13 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-5 | E30・S250 | N-1°-W | 長さ4.00×幅0.25～0.35×深さ0.06～0.29 | 直線・U字形 | |
| Ⅱ-1 | E30・S250 | N-50°-E | 長さ1.50×幅0.18～0.25×深さ0.02～0.14 | 直線・U字形 | |

### ９A区Ⅴ層

掘立柱建物跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 主軸方位 | 柱間数 | 建物規模（m） | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SB464 | （大野田官衙遺跡の遺構参照のこと） | | | | |

木棺墓

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 長軸方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK446 | E170～180・N40 | N-48°-W | 長軸256～272×短軸108～125×深さ128～146 | 隅丸長方形・逆台形 | 6世紀中頃 |
| SK475 | E170・N30～40 | N-62°-W | 長軸343×短軸165×深さ160 | 隅丸長方形・逆台形 | |

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 長軸方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK439 | E180～190・N20 | N-32°-E | 長軸[86]×短軸58×深さ25～54 | (不整楕円形)・U字形 | 古墳～古代 |
| SK442 | E180・N30 | N-88°-E | 長軸[105]×短軸[45]×深さ17 | (楕円形)・皿状 | 9世紀後半以降 |
| SK445 | E180・N30 | N-9°-W | 長軸198×短軸115×深さ42～55 | 隅丸長方形・逆台形 | |
| SK449 | E180・N20 | - | 長軸182×短軸165×深さ40～47 | ほぼ円形・逆台形 | 8世紀初頭 |
| SK455 | E180・N20 | N-85°-E | 長軸[132]×短軸110×深さ37 | (楕円形)・逆台形 | |
| SK466 | E170・N20 | N-11°-W | 南北155×東西[90]×深さ38 | (不整楕円形)・U字形 | |
| SK469 | E180・N30 | N-8°-E | 長軸128×短軸50～62×深さ7 | 隅丸長方形・皿状 | 古墳～古代 |
| SK471 | E180・N20 | N-79°-W | 長軸120×短軸70×深さ20～32 | 楕円形・U字形 | |
| SK472 | E180～190・N30 | N-79°-E | 長軸[153]×短軸115×深さ5～36 | (楕円形)・逆台形 | |
| SK473 | E180・N30 | - | 径85前後×深さ35 | 不整円形・U字形 | |

性格不明遺構

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SX431 | E180・N20 | N-79°-W | 長軸200×短軸44×深さ3～8 | 溝状・皿状 | |
| SX456 | E180・N20 | N-32°-E | 長軸98×短軸26～50×深さ3～13 | 不整形・皿状 | |
| SX458 | E170・N30 | - | 南北135×東西75×深さ15～21 | 不明・皿状 | 古墳～古代 |
| SX459 | E170・N30 | N-4°-E | 長軸160×短軸67～105×深さ5～13 | 不整形・皿状 | 古墳～古代 |
| SX461 | E170・N30 | N-3°-E | 長軸100×短軸62×深さ20～25 | 不整方形・逆台形 | 古墳～古代 |
| SX465 | E170・N20 | - | 南北[210]×東西[15]×深さ不明 | 不明 | |

溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD447 | E180・N30～40 | N-2°-W | 長さ19.10×幅0.35～1.15×深さ0.05～0.18 | コの字・逆台形or皿状 | 古墳～古代 |
| SD454 | E170・N20～30 | N-2°-E | 長さ5.10×幅0.65～0.88×深さ0.30 | ほぼ直線・U字形 | |

## 第８表　遺構一覧表（６）

９A区Ⅴ層
小溝状遺構群

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| I-1 | E180・N40 | N-87°-W | 長さ[8.35]×幅0.10～0.25×深さ0.02～0.09 | わずかに湾曲・(U字形) | |
| I-2 | E170～180・N40 | N-88°-W | 長さ10.15×幅0.15～0.25×深さ0.04～0.06 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-3 | E170～180・N40 | 東西 | 長さ9.65×幅0.12～0.30×深さ0.03～0.16 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-4 | E170～180・N40 | N-88°-W | 長さ9.70×幅0.15～0.25×深さ0.06～0.26 | ほぼ直線・U字形 | 5世紀前半～中頃 |
| I-5 | E170～180・N40 | N-88°-W | 長さ10.80×幅0.10～0.30×深さ0.05～0.12 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-6 | E170～180・N40 | 東西 | 長さ7.60×幅0.15～0.25×深さ0.07～0.27 | わずかに屈曲・U字形 | |
| I-7 | E180・N40 | N-89°-W | 長さ1.55×幅0.10～0.20×深さ0.05 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-8 | E170～180・N30～40 | N-87°-W | 長さ3.60×幅0.20～0.30×深さ0.11～0.14 | わずかに湾曲・U字形 | |
| I-9 | E170～180・N30 | N-89°-E | 長さ9.90×幅0.10～0.25×深さ0.08～0.15 | わずかに蛇行・U字形 | |
| I-10 | E170～180・N30 | N-89°-E | 長さ[10.95]×幅0.15～0.35×深さ0.04～0.21 | わずかに湾曲・U字形 | |
| I-11 | E180・N30 | N-85°-E | 長さ3.50×幅0.18～0.28×深さ0.06～0.10 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-12 | E180・N30 | N-85°-E | 長さ5.25×幅0.15～0.30×深さ0.04～0.20 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-13 | E170～180・N30 | N-86°-E | 長さ9.65×幅0.18～0.30×深さ0.04～0.07 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-14 | E180・N30 | N-89°-W | 長さ4.45×幅0.18～0.25×深さ0.08～0.13 | わずかに屈曲・U字形 | |
| I-15 | E180・N30 | N-88°-W | 長さ4.15×幅0.10～0.35×深さ0.06～0.13 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-16 | E170～180・N30 | N-85°-W | 長さ11.70×幅0.15～0.35×深さ0.05～0.11 | わずかに屈曲・U字形 | |
| I-17 | E170～180・N30 | N-87°-W | 長さ8.25×幅0.12～0.28×深さ0.05～0.14 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-18 | E180・N30 | 東西 | 長さ2.85×幅0.30～0.38×深さ0.06～0.08 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-19 | E170～180・N30 | 東西 | 長さ7.95×幅0.20～0.30×深さ0.06～0.27 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-20 | E180・N30 | N-88°-W | 長さ2.55×幅0.15～0.35×深さ0.02～0.06 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-21 | E180・N30 | N-87°-W | 長さ2.60×幅0.10～0.25×深さ0.02 | わずかに蛇行・(U字形) | |
| I-22 | E170～180・N30 | N-88°-W | 長さ9.85×幅0.15～0.30×深さ0.05～0.09 | わずかに蛇行・(U字形) | |
| I-23 | E180・N20～30 | N-89°-W | 長さ7.90×幅0.25～0.48×深さ0.09～0.22 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-24 | E180・N20 | N-88°-E | 長さ7.75×幅0.10～0.28×深さ0.08～0.15 | わずかに蛇行・U字形 | |
| I-25 | E180～190・N20 | N-88°-E | 長さ[4.95]×幅0.15～0.35×深さ0.05～0.13 | わずかに屈曲・U字形 | |
| I-26 | E180・N20 | N-83°-W | 長さ4.95×幅0.25～0.45×深さ0.06～0.08 | ほぼ直線・(U字形) | |
| I-27 | E180・N20 | N-82°-W | 長さ1.55×幅0.30×深さ0.07～0.25 | 直線・U字形 | |
| I-28 | E170～190・N20 | N-85°-W | 長さ11.85×幅0.15～0.28×深さ0.11～0.36 | わずかに湾曲・U字形 | |
| I-29 | E180・N20 | N-78°-W | 長さ1.85×幅0.20～0.30×深さ0.13 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-30 | E180・N20 | N-84°-W | 長さ4.15×幅0.20～0.30×深さ0.16 | 直線・U字形 | |
| I-31 | E180・N20 | N-84°-W | 長さ7.85×幅0.18～0.38×深さ0.10～0.22 | わずかに湾曲・U字形 | |
| I-32 | E180～190・N20 | N-86°-W | 長さ[4.85]×幅0.25～0.38×深さ0.09～0.21 | ほぼ直線・U字形 | |
| I-33 | E180～190・N20 | N-82°-W | 長さ[8.45]×幅0.15～0.37×深さ0.04～0.24 | わずかに屈曲・U字形 | |
| I-34 | E180～190・N20 | N-85°-W | 長さ[11.25]×幅0.20～0.30×深さ0.15～0.44 | わずかに屈曲・U字形 | |
| I-35 | E180～190・N20 | N-89°-W | 長さ[6.45]×幅0.25～0.35×深さ0.07 | わずかに湾曲・(U字形) | |
| I-36 | E180～190・N20 | N-86°-W | 長さ[11.65]×幅0.20～0.45×深さ0.13～0.34 | わずかに湾曲・U字形 | |
| I-37 | E180～190・N20 | N-87°-W | 長さ[11.60]×幅0.30～0.48×深さ0.31～0.50 | わずかに蛇行・U字形 | |
| I-38 | E180・N10～20 | N-84°-W | 長さ[7.05]×幅0.20～0.25×深さ0.19 | わずかに蛇行・U字形 | |
| II-1 | E170・N20～30 | N-10°-E | 長さ[7.35]×幅0.15～0.30×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| II-2 | E170・N40 | N-6°-E | 長さ[3.20]×幅0.20～0.35×深さ0.09～0.10 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-3 | E170・N20～40 | N-9°-E | 長さ[15.0]×幅0.15～0.30×深さ0.16～0.25 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-4 | E170・N20～40 | N-8°-E | 長さ[15.55]×幅0.22～0.40×深さ0.07～0.19 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-5 | E170～180・N20～40 | N-8°-E | 長さ[15.20]×幅0.20～0.45×深さ0.11～0.22 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-6 | E170～180・N20～30 | N-6°-E | 長さ1.27×幅0.21～0.29×深さ0.04 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-7 | E180・N20～40 | N-8°-E | 長さ18.70×幅0.25～0.40×深さ0.14～0.30 | わずかに蛇行・U字形 | |
| II-8 | E180・N20～40 | N-9°-E | 長さ19.25×幅0.25～0.45×深さ0.12～0.43 | わずかに蛇行・U字形 | |
| II-9 | E180・N20～40 | N-10°-E | 長さ23.00×幅0.25～0.50×深さ0.14～0.41 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-10 | E180・N20～30 | N-10°-E | 長さ[16.15]×幅0.30～0.60×深さ0.14～0.49 | ほぼ直線・U字形 | |
| II-11 | E180～190・N20～30 | N-12°-E | 長さ[6.80]×幅0.30～0.50×深さ0.08～0.36 | ほぼ直線・U字形 | |
| III-1 | E170・N40 | N-2°-E | 長さ[0.70]×幅0.30～0.40×深さ0.17～0.19 | 直線・U字形 | |
| III-2 | E170～180・N40 | N-1°-E | 長さ[0.65]×幅0.40～0.50×深さ0.20～0.27 | 直線・U字形 | |
| III-3 | E180・N40 | N-1°-E | 長さ[0.80]×幅0.40×深さ0.15～0.21 | 直線・U字形 | |
| III-4 | E180・N40 | N-1°-E | 長さ[1.00]×幅0.45×深さ0.21～0.30 | 直線・U字形 | |
| III-5 | E180・N40 | N-1°-E | 長さ[1.00]×幅0.50～0.58×深さ0.29～0.39 | 直線・U字形 | |
| III-6 | E180・N10～20 | N-3°-E | 長さ[1.40]×幅0.40×深さ0.25～0.27 | 直線・U字形 | |
| III-7 | E180・N20 | N-13°-E | 長さ1.05×幅0.50～0.60×深さ0.13～0.19 | ほぼ直線・U字形 | |
| IV-1 | E170・N20～40 | N-2°-W | 長さ[23.65]×幅0.35～0.40×深さ0.11～0.13 | ほぼ直線・U字形 | |
| IV-2 | E180・N10～20 | N-2°-W | 長さ[2.25]×幅0.25～0.45×深さ0.10 | ほぼ直線・U字形 | |
| IV-3 | E180・N20～40 | N-2°-W | 長さ[23.55]×幅0.15～0.40×深さ0.01～0.13 | ほぼ直線・U字形 | |
| IV-4 | E180・N20～40 | N-2°-W | 長さ[22.50]×幅0.20～0.35×深さ0.05～0.14 | ほぼ直線・U字形 | |
| IV-5 | E180・N20～40 | N-1°-W | 長さ[22.05]×幅0.20～0.40×深さ0.08～0.35 | わずかに蛇行・U字形 | |
| IV-6 | E180・N10～40 | N-1°-E | 長さ24.50×幅0.20～0.50×深さ0.06～0.22 | わずかに蛇行・U字形 | |
| IV-7 | E180・N10～30 | N-3°-W | 長さ[19.45]×幅0.20～0.45×深さ0.01～0.12 | ほぼ直線・U字形 | |
| IV-8 | E190・N10～20 | N-1°-W | 長さ[6.50]×幅0.25～0.30×深さ0.11～0.23 | ほぼ直線・U字形 | |
| V-1 | E180・N20 | N-63°-E | 長さ1.30×幅0.20～0.25×深さ0.05～0.08 | わずかに湾曲・(U字形) | |
| V-2 | E180・N20 | N-87°-W | 長さ4.40×幅0.45×深さ0.07～0.12 | わずかに湾曲・U字形 | |

9B区Ⅴ層
古墳

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 28号墳 | W0～E0～20・S180～190 | 7区Ⅴ層28号墳と同一遺構 | | | 5世紀後半 |

## 第９表　遺構一覧表（７）

9B区Ⅴ層

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 長軸方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK478 | E20・S190 | N-68°-W | 長軸175×短軸132×深さ22～34 | 隅丸長方形・逆台形 | |
| SK479 | E20・S190 | - | 径110×深さ21 | ほぼ円形・皿状 | |
| SK481 | E20・S200 | N-35°-E | 長軸85×短軸70×深さ22 | 楕円形・U字形 | |
| SK489 | E20・S190 | N-10°-E | 長軸195×短軸148×深さ30 | 隅丸長方形・皿状 | |
| SK498 | E20・S190 | (N-2°-E) | 東西62×南北[58]×深さ8～11 | (楕円形)・皿状 | |
| SK500 | E20・S200 | N-10°-W | 長軸62×短軸48×深さ17 | 隅丸方形・逆台形 | |
| SK501 | E20・S200 | N-8°-E | 長軸82×短軸62×深さ36 | 隅丸長方形・箱形 | |
| SK502 | E20・S200 | N-24°-E | 長軸115×短軸83×深さ25～32 | 楕円形・逆台形 | |
| SK507 | E20・S210 | N-25°-W | 長軸95×短軸82×深さ7 | 不整楕円形・皿状 | |
| SK508 | E20・S200 | N-68°-W | 長軸98×短軸72×深さ23～37 | 楕円形・逆台形 | |
| SK512 | E20・S210 | N-67°-W | 長軸165×短軸115×深さ22 | 隅丸長方形・皿状 | |

河川跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SR510 | E10～20・S210 | N-75°-E | 長さ[約8.0]×幅4.50～6.70×深さ0.78 | 不明 | 近世 |

性格不明遺構

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SX511 | E20・S210 | - | 東西[198]×南北[110]×深さ8～13 | (不整形)・皿状 | |

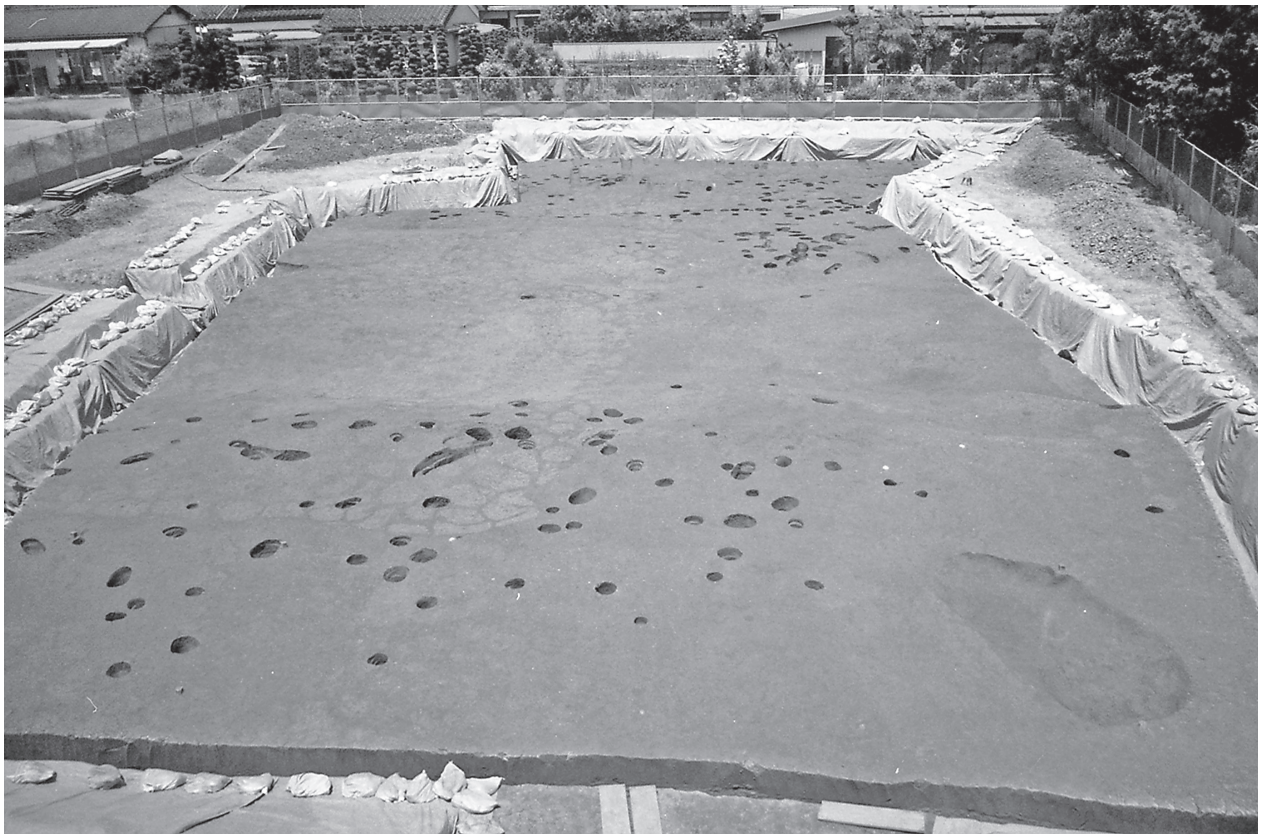
溝跡

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD476 | E20～30・S180～190 | N-56°-W | 長さ[15.10]×幅0.72～1.20×深さ0.20～0.30 | ほぼ直線・逆台形 | 近世 |
| SD477 | E20～30・S190 | 7区Ⅴ層SD339と同一遺構（SD339を参照） | | | |
| SD480 | E20～30・S190 | N-76°-W | 長さ9.55×幅0.20～0.83×深さ0.04～0.20 | ほぼ直線・逆台形 | |
| SD509 | E20・S200～210 | 7区Ⅴ層SD313と同一遺構（SD313を参照） | | | |
| SD513 | E20・S210 | N-88°-E | 長さ[3.00]×幅0.65～0.80×深さ0.20～0.46 | 直線・逆台形 | |

小溝状遺構群

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ-1 | E20・N190～200 | N-6°-E | 長さ6.95×幅0.18～0.40×深さ0.04～0.16 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅰ-2 | E20・N180～200 | N-5°-E | 長さ[19.20]×幅0.20～0.50×深さ0.10～0.14 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅰ-3 | E20～30・N180～200 | N-5°-E | 長さ[15.25]×幅0.18～0.50×深さ0.07～0.22 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅰ-4 | E20・N190～200 | N-6°-E | 長さ5.50×幅0.20～0.35×深さ0.04～0.36 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅰ-5 | E30・N200 | N-8°-E | 長さ1.75×幅0.20～0.25×深さ0.07～0.15 | わずかに湾曲・U字形 | |
| Ⅰ-6 | E30・N180～190 | N-6°-E | 長さ[5.50]×幅0.25～0.40×深さ0.07～0.15 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅰ-7 | E30・N190 | N-6°-E | 長さ[0.35]×幅0.25×0.09～0.15 | 直線・U字形 | |
| Ⅰ-8 | E30・N190 | N-5°-E | 長さ[2.05]×幅0.25～0.35×深さ0.12～0.21 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-1 | E20・N180 | N-86°-W | 長さ2.50×幅0.25～0.50×深さ0.07～0.21 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-2 | E30・N180～190 | N-88°-E | 長さ[3.15]×幅0.20～0.40×深さ0.12～0.30 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-3 | E20～30・N180～190 | N-89°-E | 長さ12.45×幅0.20～0.40×深さ0.06～0.15 | わずかに蛇行・U字形 | |
| Ⅱ-4 | E30・N190 | N-81°-E | 長さ1.25×幅0.20～0.35×深さ0.15～0.26 | わずかに湾曲・U字形 | |
| Ⅱ-5 | E30・N190 | N-85°-W | 長さ[4.50]×幅0.20～0.30×深さ0.03～0.07 | ほぼ直線・(U字形) | |
| Ⅱ-6 | E20・N190 | N-89°-E | 長さ4.55×幅0.15～0.40×深さ0.05～0.24 | わずかに屈曲・U字形 | |
| Ⅱ-7 | E20～30・N190 | N-81°-W | 長さ8.80×幅0.25～0.40×深さ0.05～0.15 | わずかに蛇行・U字形 | |
| Ⅱ-8 | E20・N190～200 | N-89°-E | 長さ4.45×幅0.25～0.45×深さ0.11～0.13 | ほぼ直線・U字形 | |
| Ⅱ-9 | E20・N200 | N-84°-E | 長さ4.75×幅0.30～0.40×深さ0.08～0.22 | わずかに屈曲・U字形 | |
| Ⅱ-10 | E20・N200 | N-87°-E | 長さ2.00×幅0.35×深さ0.23 | わずかに屈曲・U字形 | |

# 大野田古墳群写真図版



５Ａ区Ｖ層全景（南より）

６Ａ区Ｖ層全景（南より）

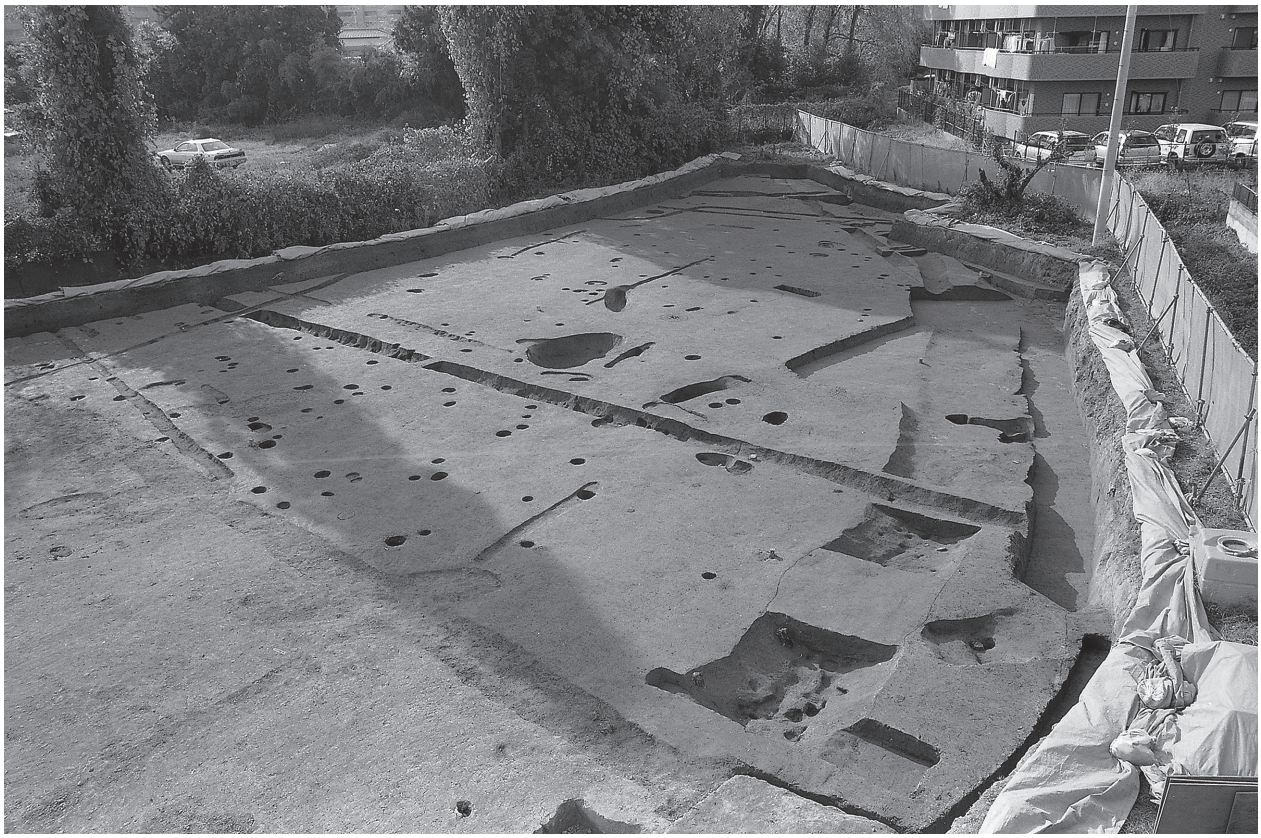
写真図版１　大野田古墳群（１）

６Ｂ区Ｖ層全景（東より）

６Ｂ区Ｖ層SK263・265・266、SD262、SX264、ピット（北西より）

写真図版２　大野田古墳群（２）

６Ｃ区Ｖ層全景（西より）



７区Ｖ層西側全景（東より）

写真図版３　大野田古墳群（３）

７区Ｖ層28号墳全景（北西より）

７区Ｖ層28号墳周溝内遺物出土状況（北より）

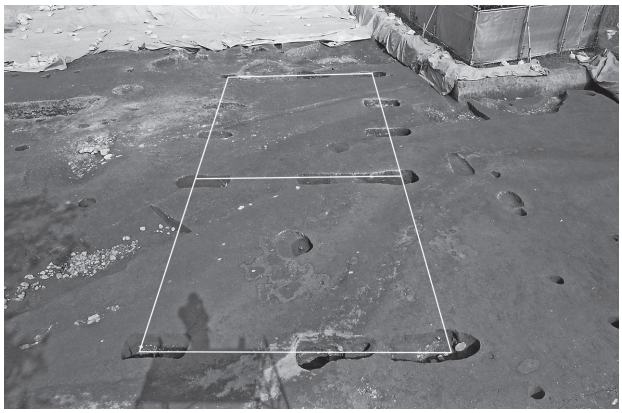
７区Ｖ層28号墳周溝内遺物出土状況（南より）

７区Ｖ層 SI 380（東より）

７区Ｖ層 SI 384（東より）

写真図版４　大野田古墳群（４）

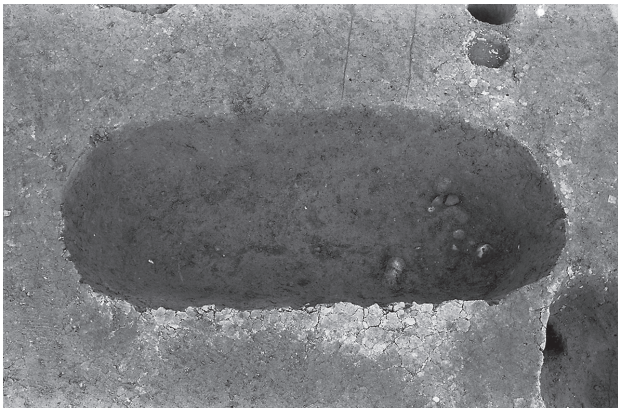
７区Ｖ層東側全景・SB382遠景（北西より）



７区Ｖ層SB382（南より）

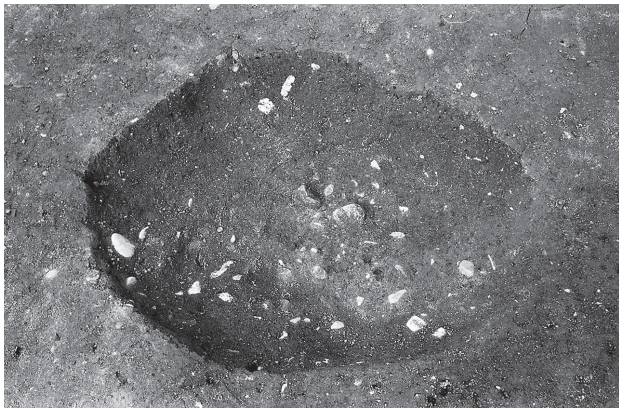
７区Ｖ層SB382Ｐ13遺物出土状況（西より）

７区Ｖ層SK288（南より）

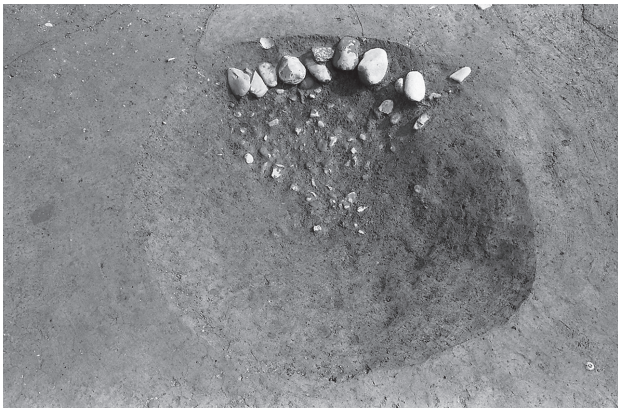


７区Ｖ層SK294（西より）

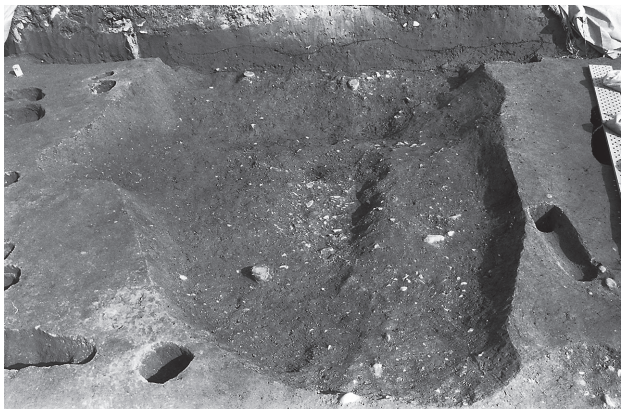
写真図版５　大野田古墳群（５）



７区Ｖ層SK296（南より）

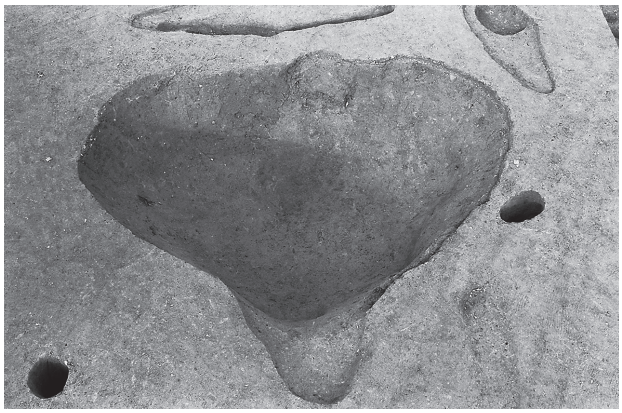


７区Ｖ層SK303（南西より）



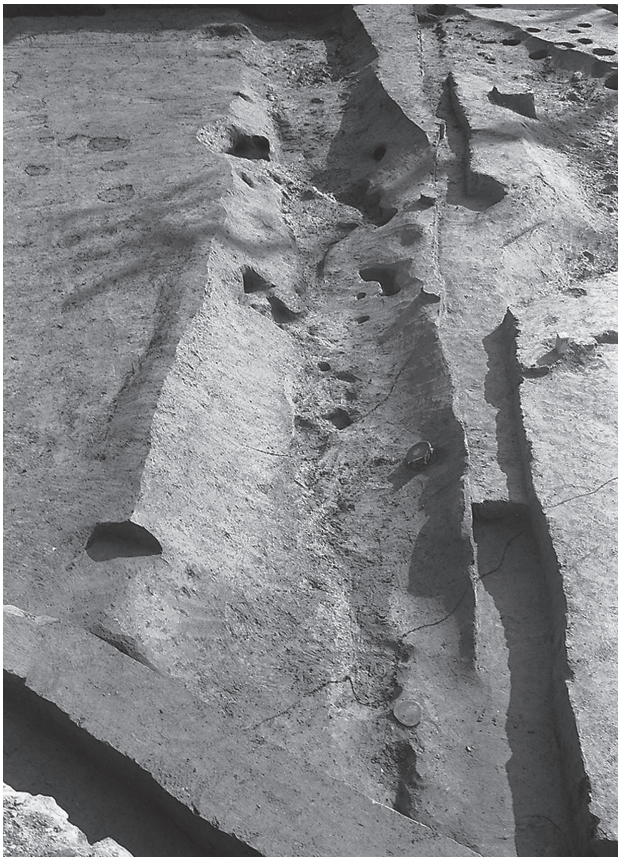
７区Ｖ層SX302（西より）

７区Ｖ層SX309（北西より）



７区Ｖ層SX365（南より）

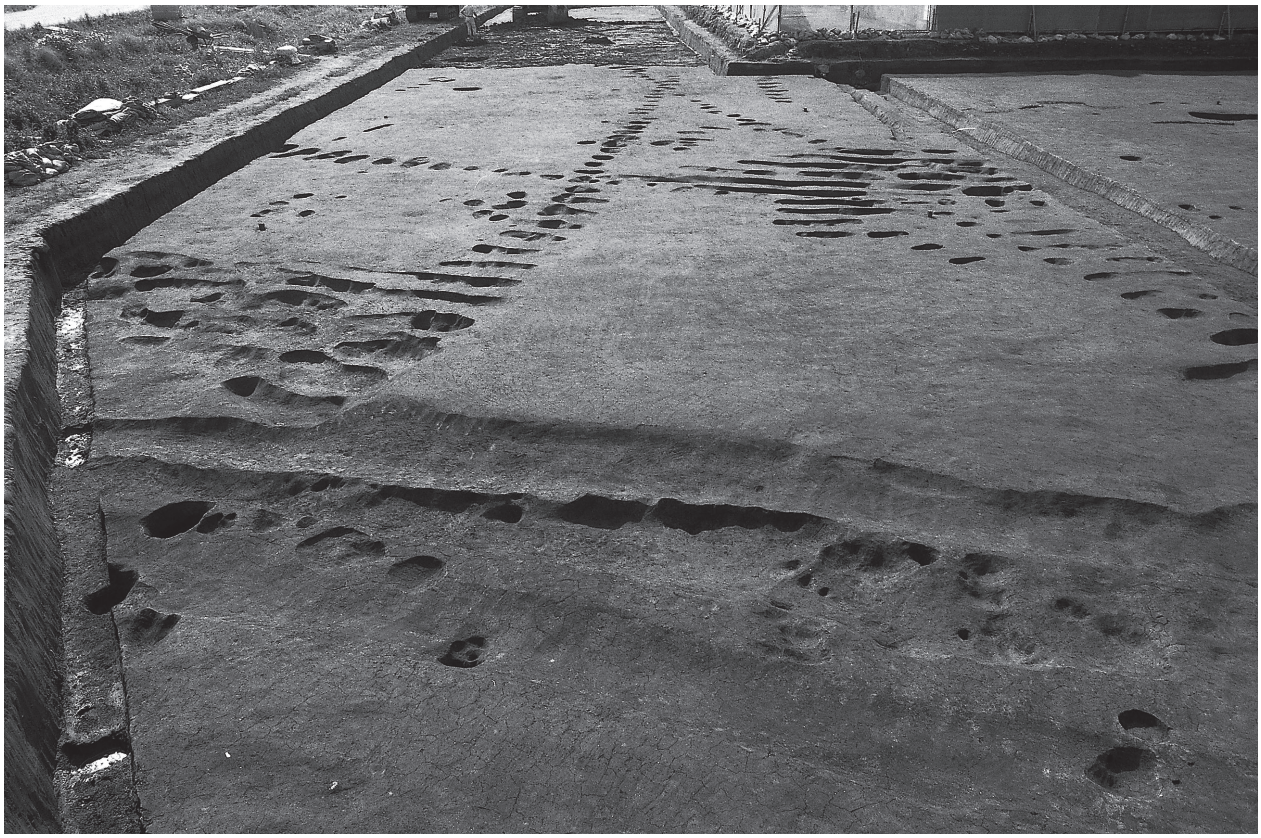
７区Ｖ層SD376・377・379、SK378（北より）



７区Ｖ層拡張区SD339（西より）

写真図版６　大野田古墳群（６）

７区Ⅴ層SD339・386（北西より）

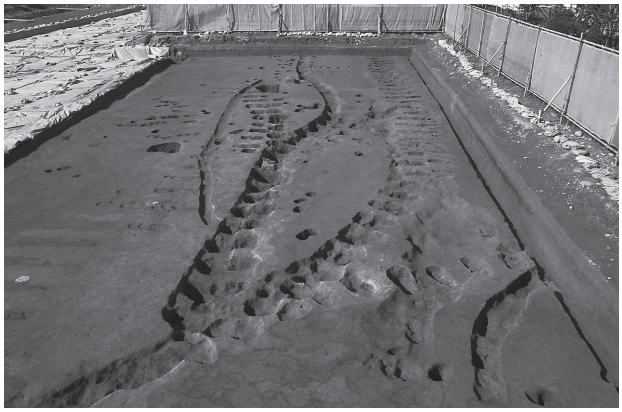


８Ａ区Ⅲ層・Ⅳ層南側全景（東より）

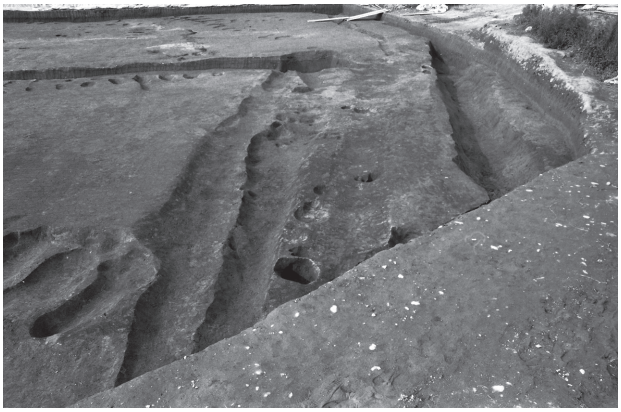
写真図版７　大野田古墳群（７）

８Ａ区Ⅲ層・Ⅳ層41・45・47号ピット列（南より）

８Ａ区Ⅳ層45号ピット列（南より）



８Ａ区Ⅳ層54～62・65・66号ピット列（東より）



８Ａ区Ⅲ層・Ⅳ層SD402～405（南より）

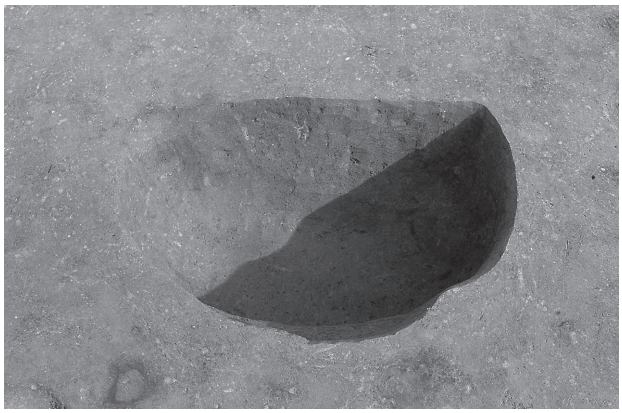
８Ａ区Ⅴ層全景（東より）

写真図版８　大野田古墳群（８）

８Ａ区Ｖ層29号墳全景（東より）

８Ａ区Ｖ層SK407（南より）

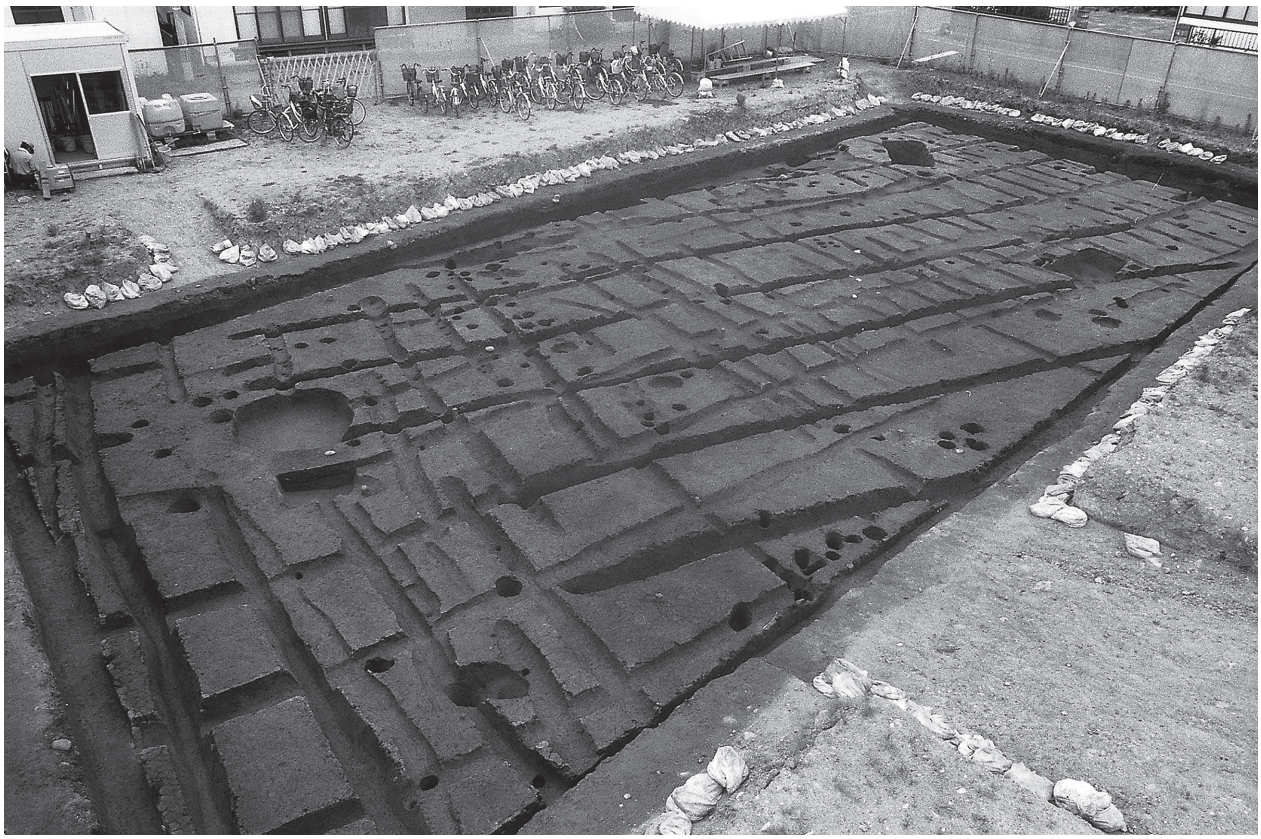
８Ａ区Ｖ層SK408（北東より）



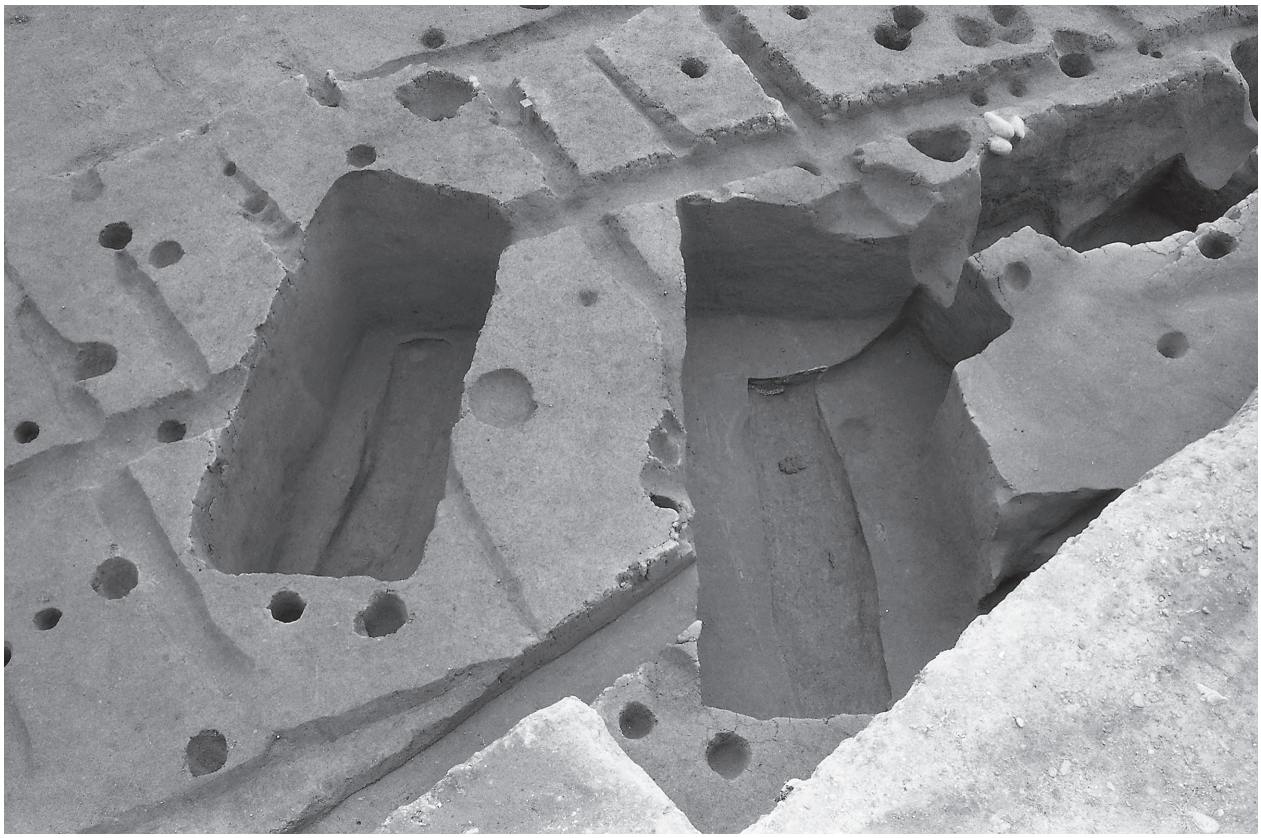
８Ａ区Ｖ層SK420（西より）

８Ｂ区Ｖ層全景（南東より）

写真図版９　大野田古墳群（９）



９Ａ区Ｖ層全景（南東より）

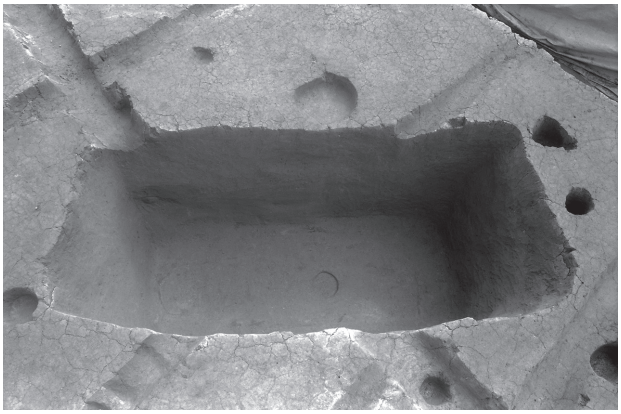


９Ａ区Ｖ層SK446・475木棺墓（北西より）

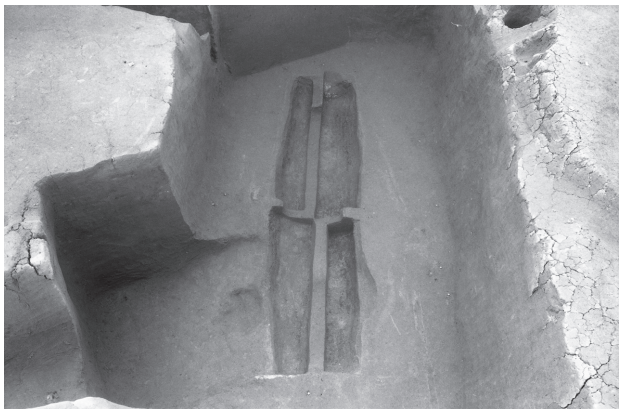
写真図版10　大野田古墳群（10）

９Ａ区Ｖ層SK446木棺墓（北東より）

９Ａ区Ｖ層SK446木棺墓袋状掘り込み遺物出土状況（北より）



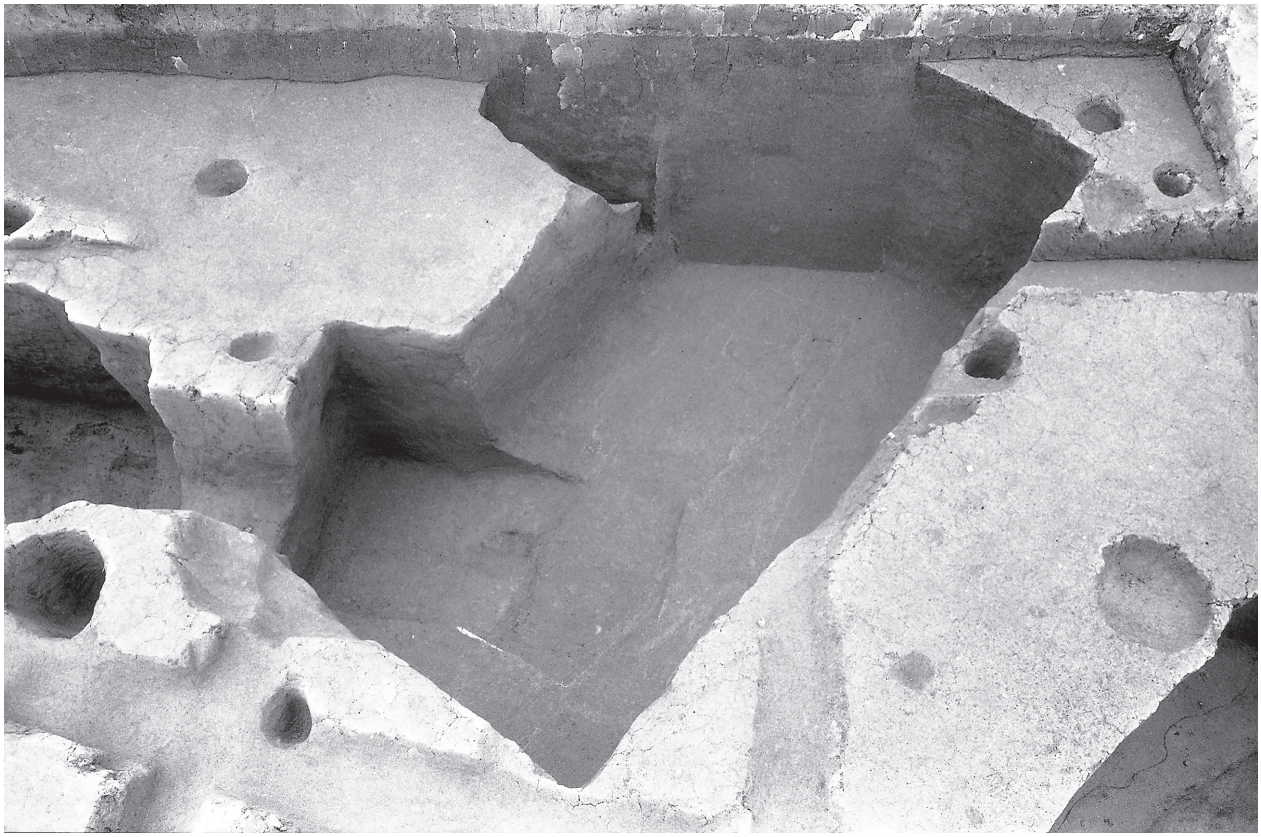
９Ａ区Ｖ層SK446木棺墓掘り方（北東より）



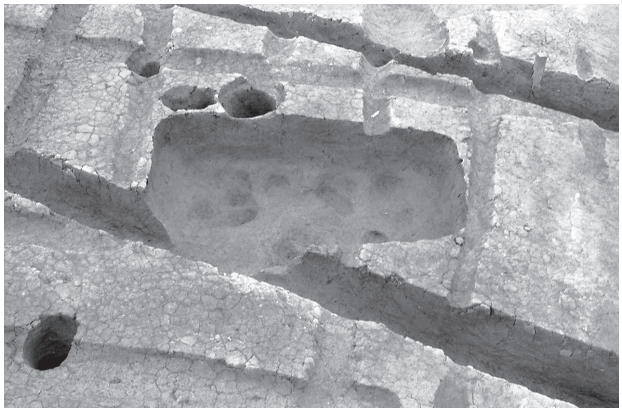
９Ａ区Ｖ層SK475木棺墓棺底検出状況（南東より）

９Ａ区Ｖ層SK475木棺墓白色粘土分布状況（西より）

写真図版11　大野田古墳群（11）

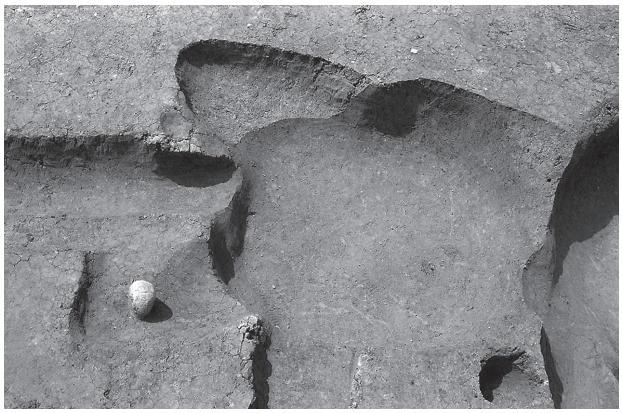


９Ａ区Ｖ層SK475木棺墓木棺痕跡検出状況（東より）

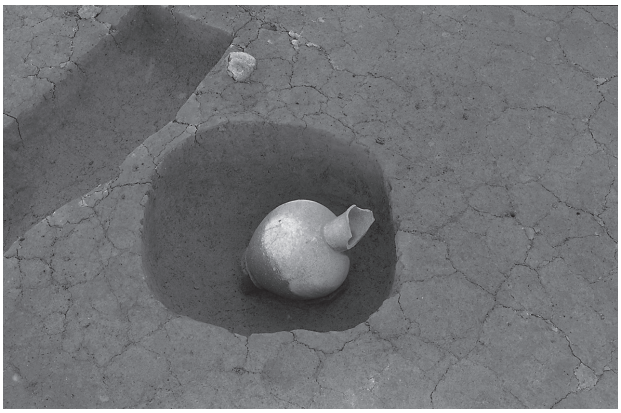


９Ａ区Ｖ層SK445（東より）

９Ａ区Ｖ層SK449（西より）



９Ａ区Ｖ層SK455（北より）



９Ａ区Ｖ層Ｐ428遺物出土状況（北東より）

写真図版12　大野田古墳群（12）

９Ｂ区Ｖ層北側全景（西より）

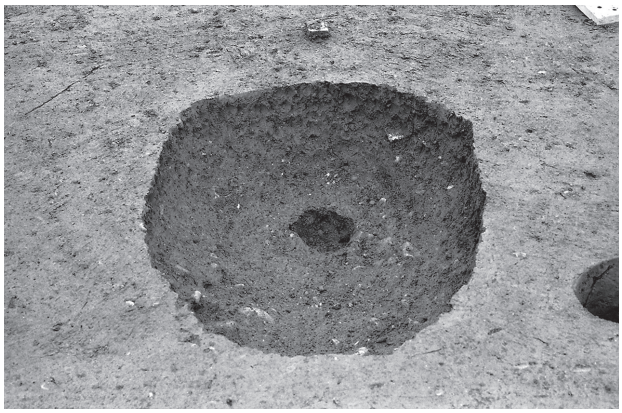
９Ｂ区Ｖ層南側全景（北西より）

写真図版13　大野田古墳群（13）

９Ｂ区Ｖ層調査区中央小溝状遺構群（西より）

９Ｂ区Ｖ層SK478（北より）

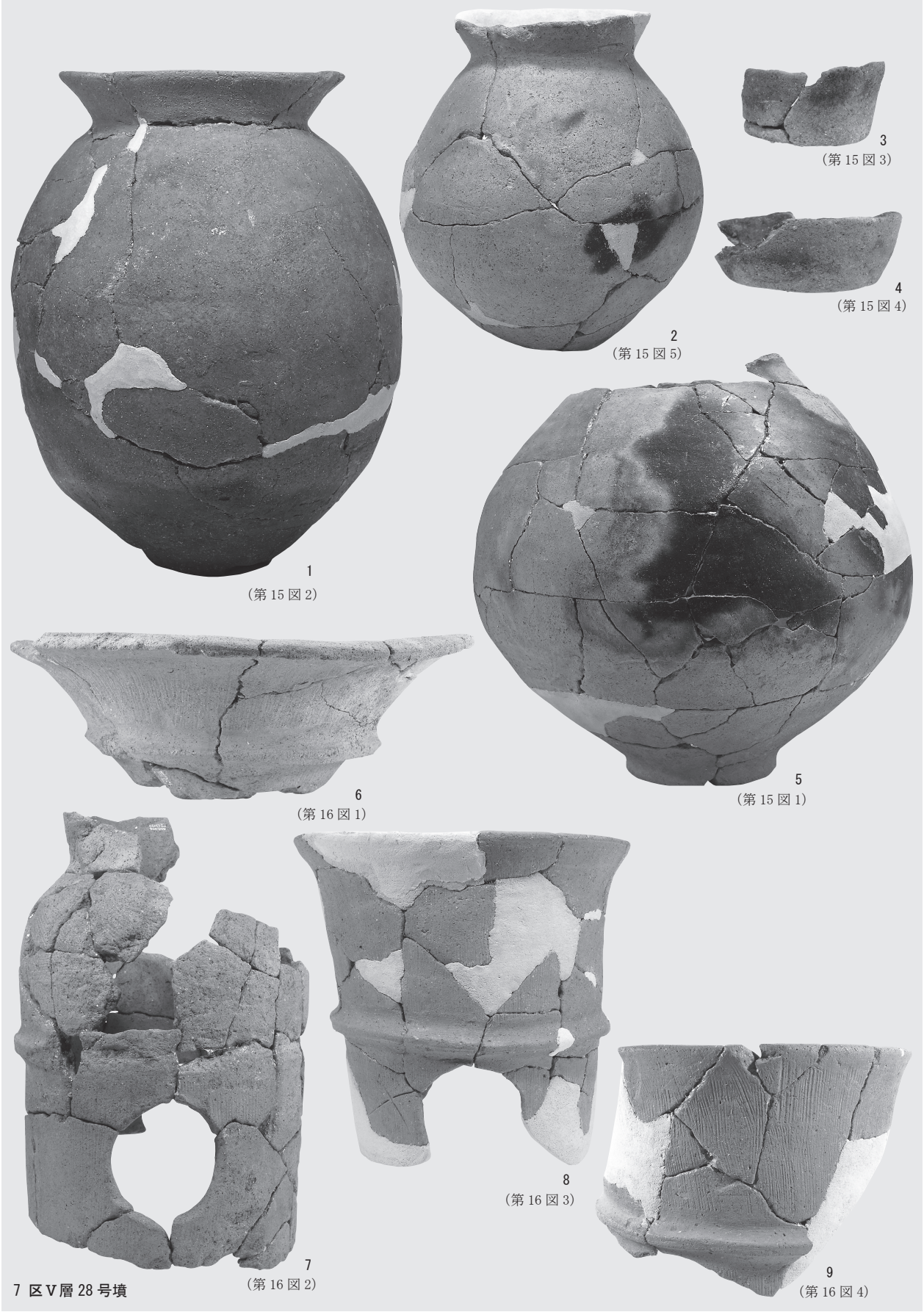
９Ｂ区Ｖ層SK500・501（南より）



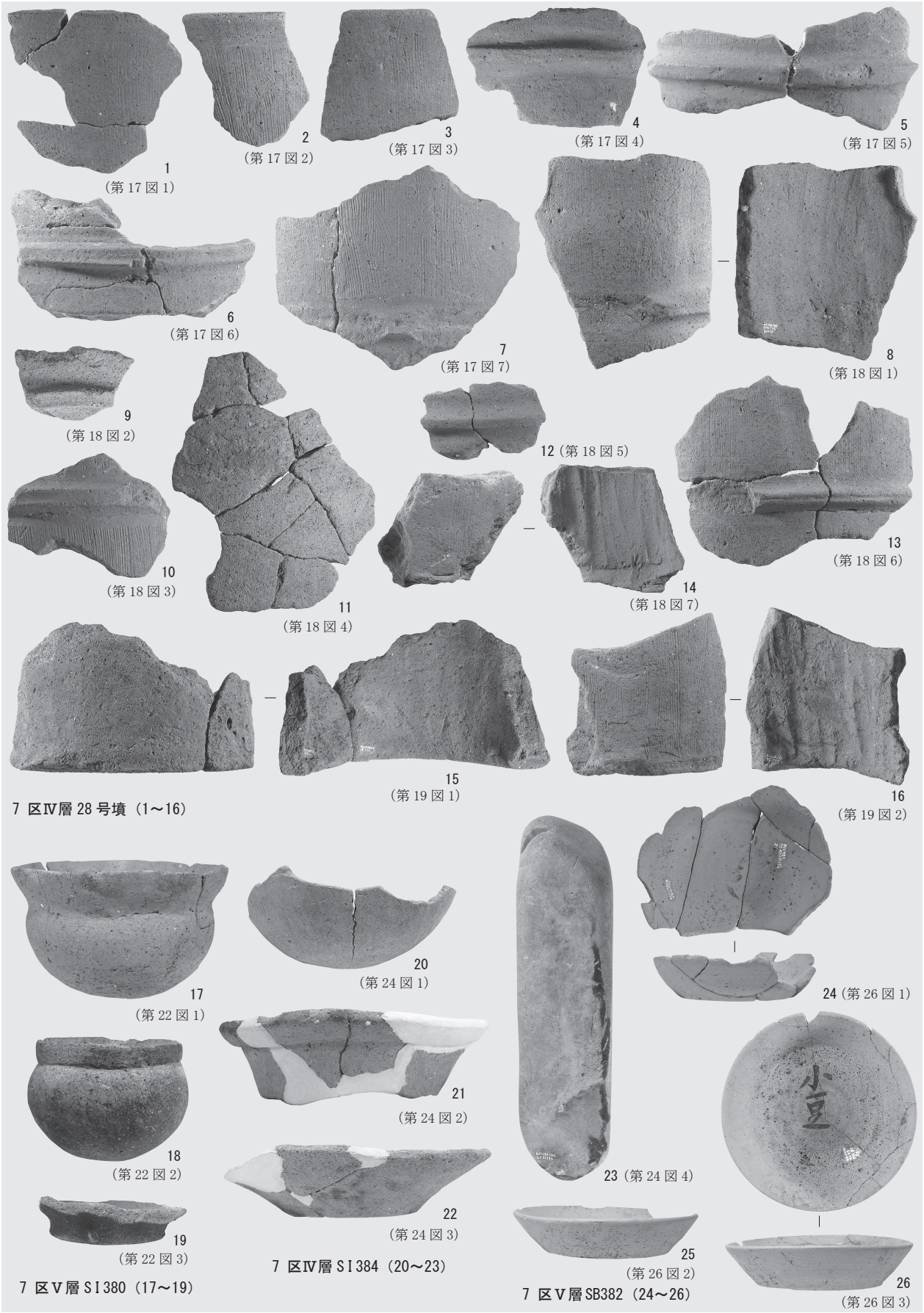
９Ｂ区Ｖ層SK502（東より）

９Ｂ区Ｖ層SK512（西より）

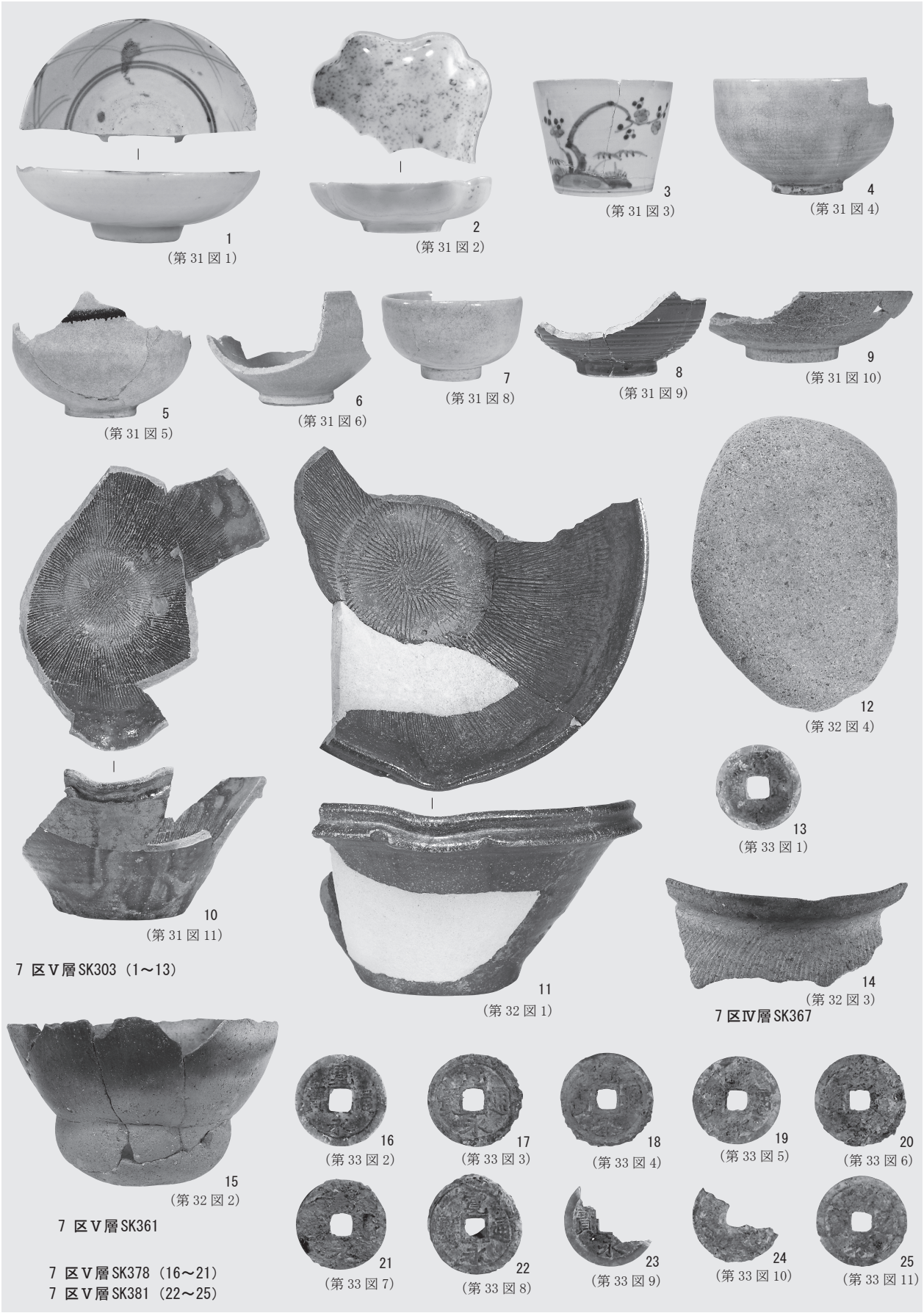
写真図版14　大野田古墳群（14）



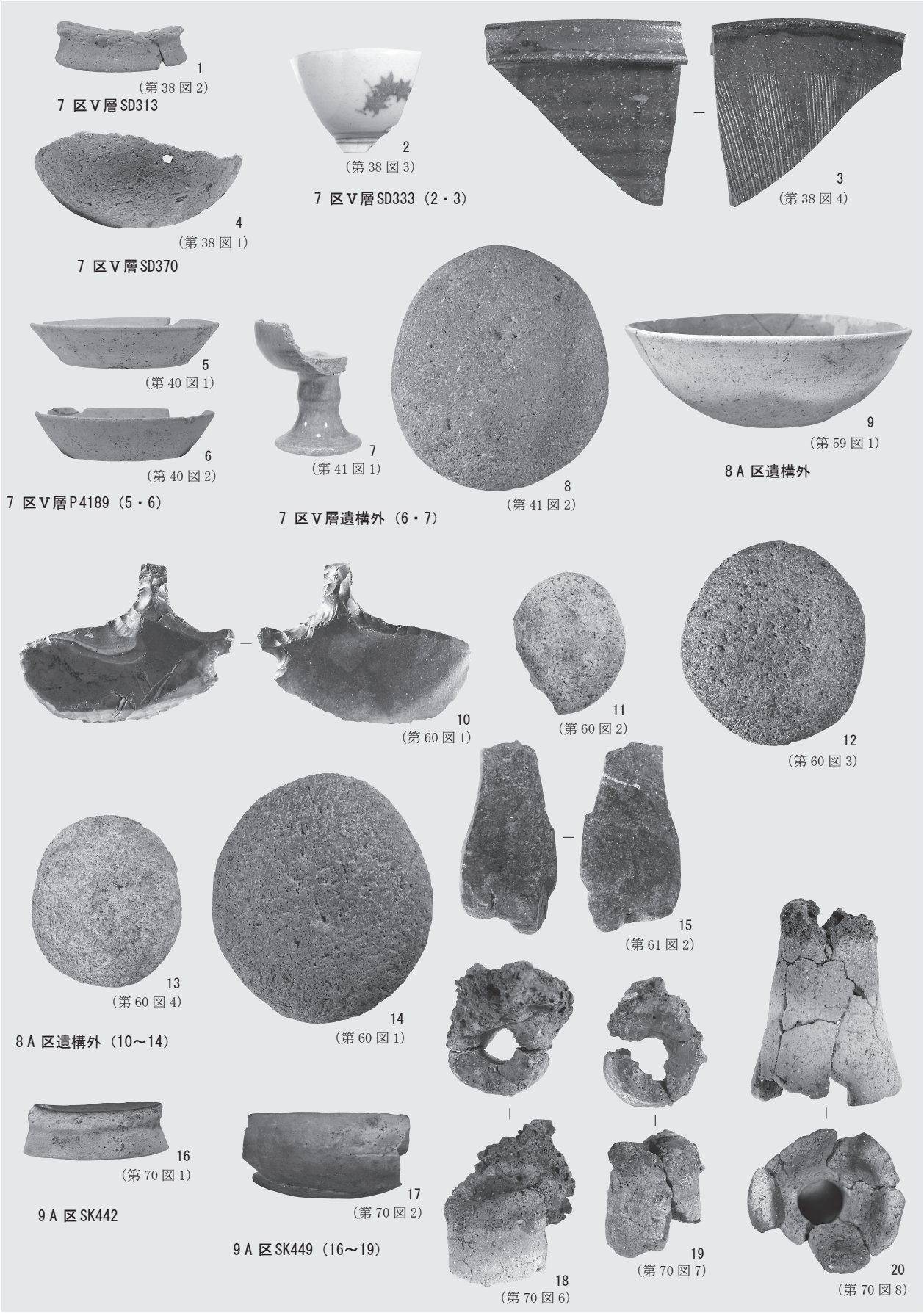

写真図版15　大野田古墳群出土遺物（１）



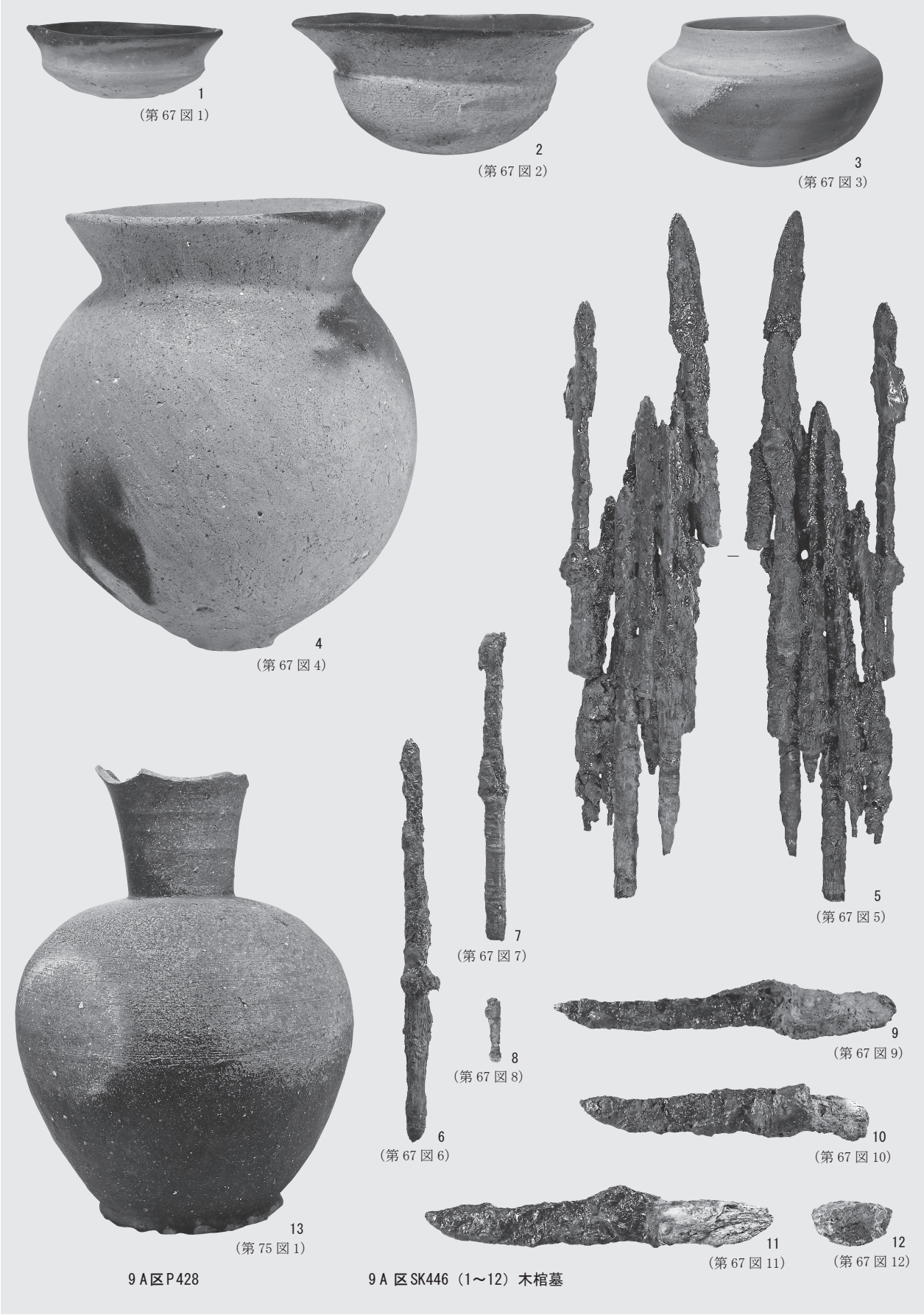

写真図版16　大野田古墳群出土遺物（２）



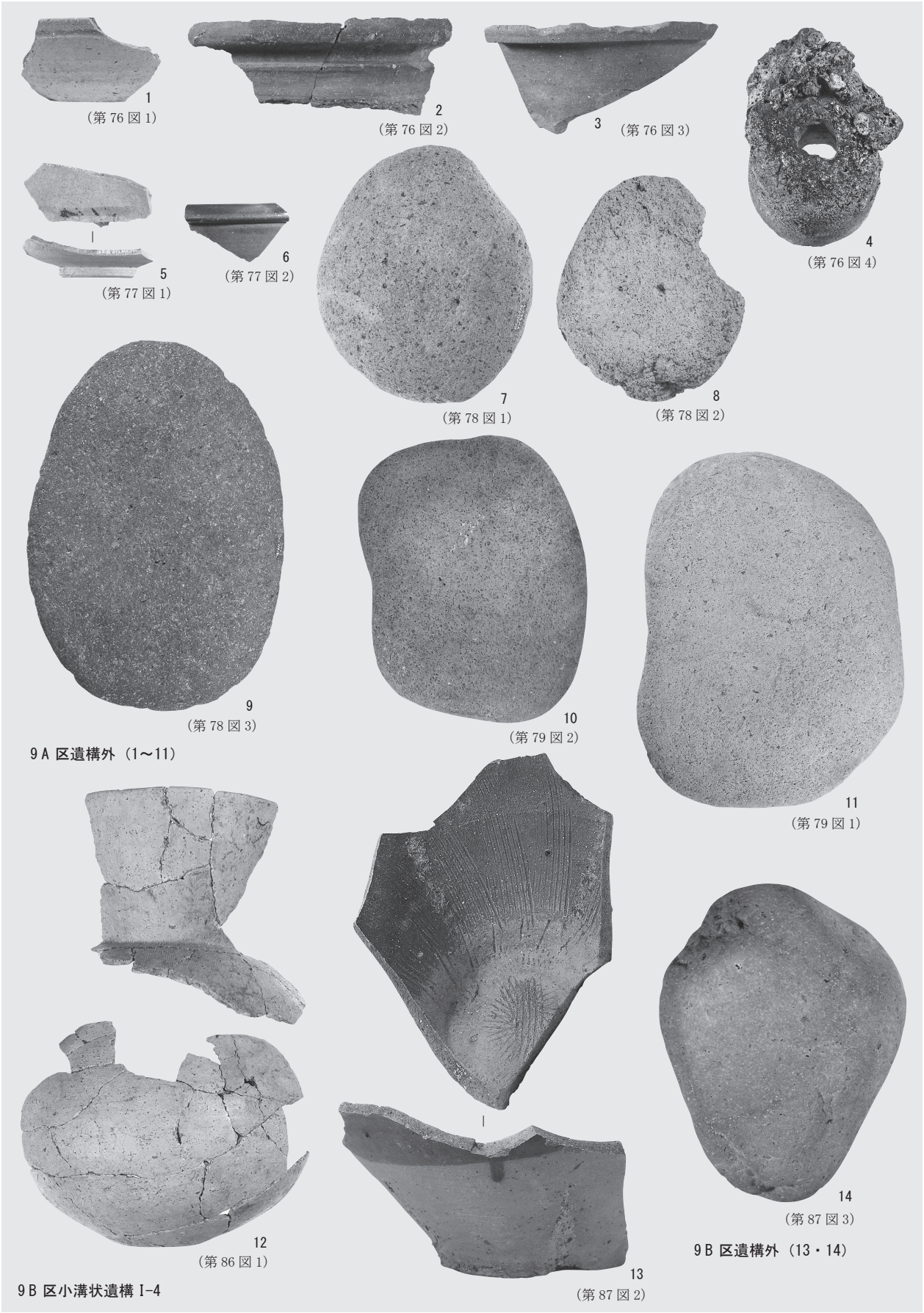

写真図版17　大野田古墳群出土遺物（３）




写真図版１８　大野田古墳群出土遺物（４）




写真図版19　大野田古墳群出土遺物（5）




写真図版20　大野田古墳群出土遺物（６）

# 第６節　王ノ壇古墳

## １．調査要項

（１）遺跡名：王ノ壇古墳（宮城県遺跡登録番号01321）

（２）所在地：仙台市太白区大野田字王ノ檀

（３）調査面積：約485㎡

（４）調査主体：仙台市教育委員会

（５）調査担当：仙台市教育委員会文化財課

（６）担当職員：佐藤淳・松本顕嗣

（７）調査期間

（野外調査）・平成15年６月19日～８月６日

（整理作業）調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。

・平成22年６月18日～平成23年３月31日

## ２．王ノ壇古墳の調査

王ノ壇古墳及び西に隣接する大野田古墳群では平成16年度までに、古墳時代中期の古墳32基が確認されている。これらの古墳のうち墳丘が遺存していた古墳は、春日社古墳と本節で詳細を報告する王ノ壇古墳である。調査前の状況は墳丘とその周辺には雑木や雑草が生い茂り、古墳東側には盛り土が厚く置かれていた。平成元年度には王ノ壇古墳の東半が調査され、周溝内からは円筒埴輪・朝顔形埴輪片956点が出土している（仙台市教育委員会 2000）。

今回報告する平成15年度の調査区は公園として整備される予定で、古墳の墳丘及び古墳周辺の一部を除き工事の影響を受けないことから、遺構の検出と記録にとどめる確認調査を基本としたが、水道の施設が埋設される予定の北東部の一部（北東調査区）と調査区南側の水路の一部については遺構の精査を行った。したがって、精査を行った地点以外で検出した遺構の規模などについては確認面のデータである。また、墳丘については除草を行い、現況の測量図を作成した。墳丘には中近世の石碑５基（仙台市史編さん委員会　1998）が置かれており、調査時の墳丘残存規模は南北12.00m、東西8.00m、現地表面からの高さ1.50mである。

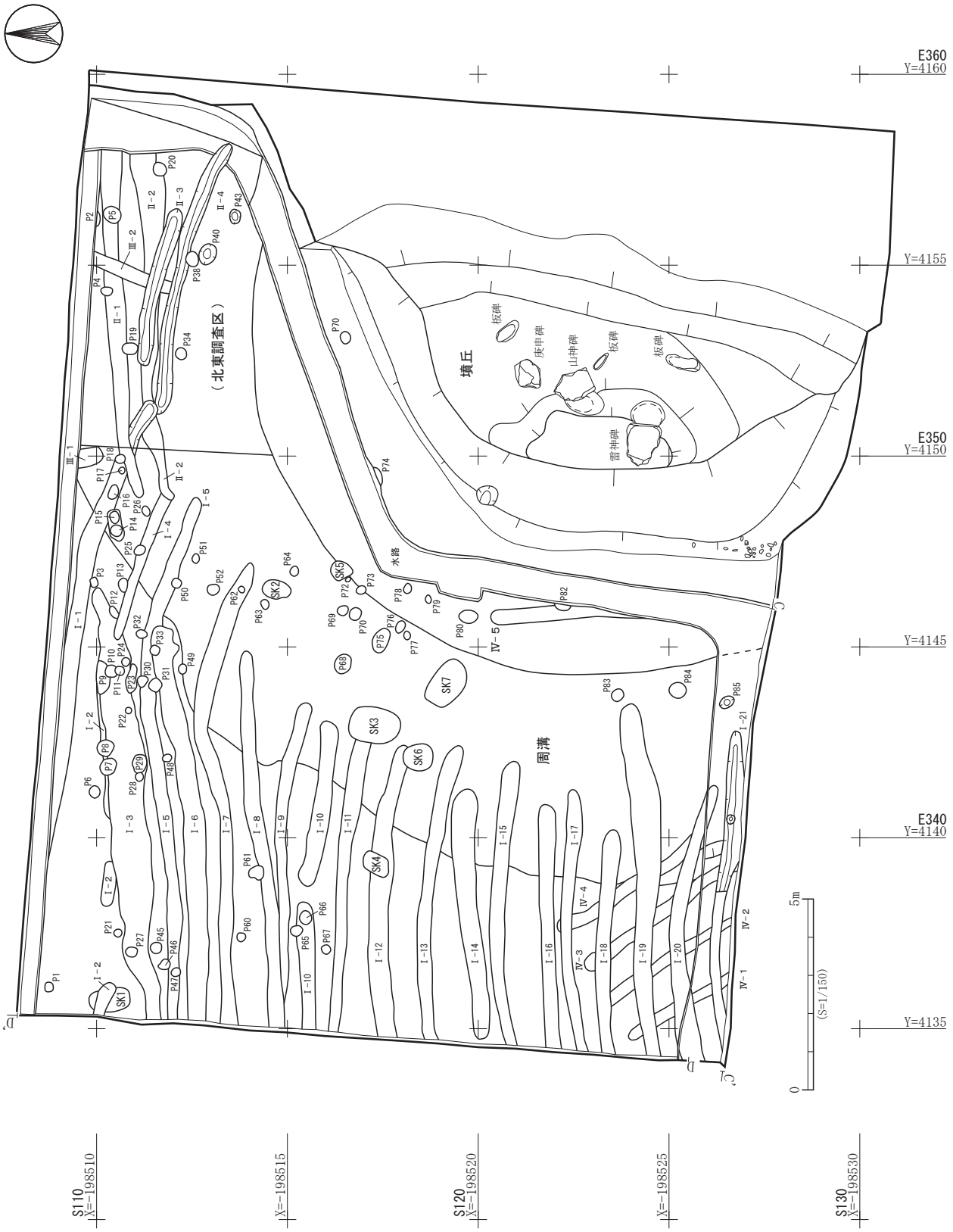
確認調査はⅢ層・一部Ⅳ層とⅤ層で行った。Ⅲ層・Ⅳ層では遺構は検出されなかったため、人力でⅢ・Ⅳ層を除去してⅤ層で遺構確認を行った。その結果、古墳周溝、土坑７基、小溝状遺構群４群、ピット85基が検出された。また、北東部調査区（５×８ｍ）では、古墳周溝の底面まで調査を行った。以下、確認された各遺構について報告する。

（１）Ⅴ層検出の遺構と遺物（第１図）

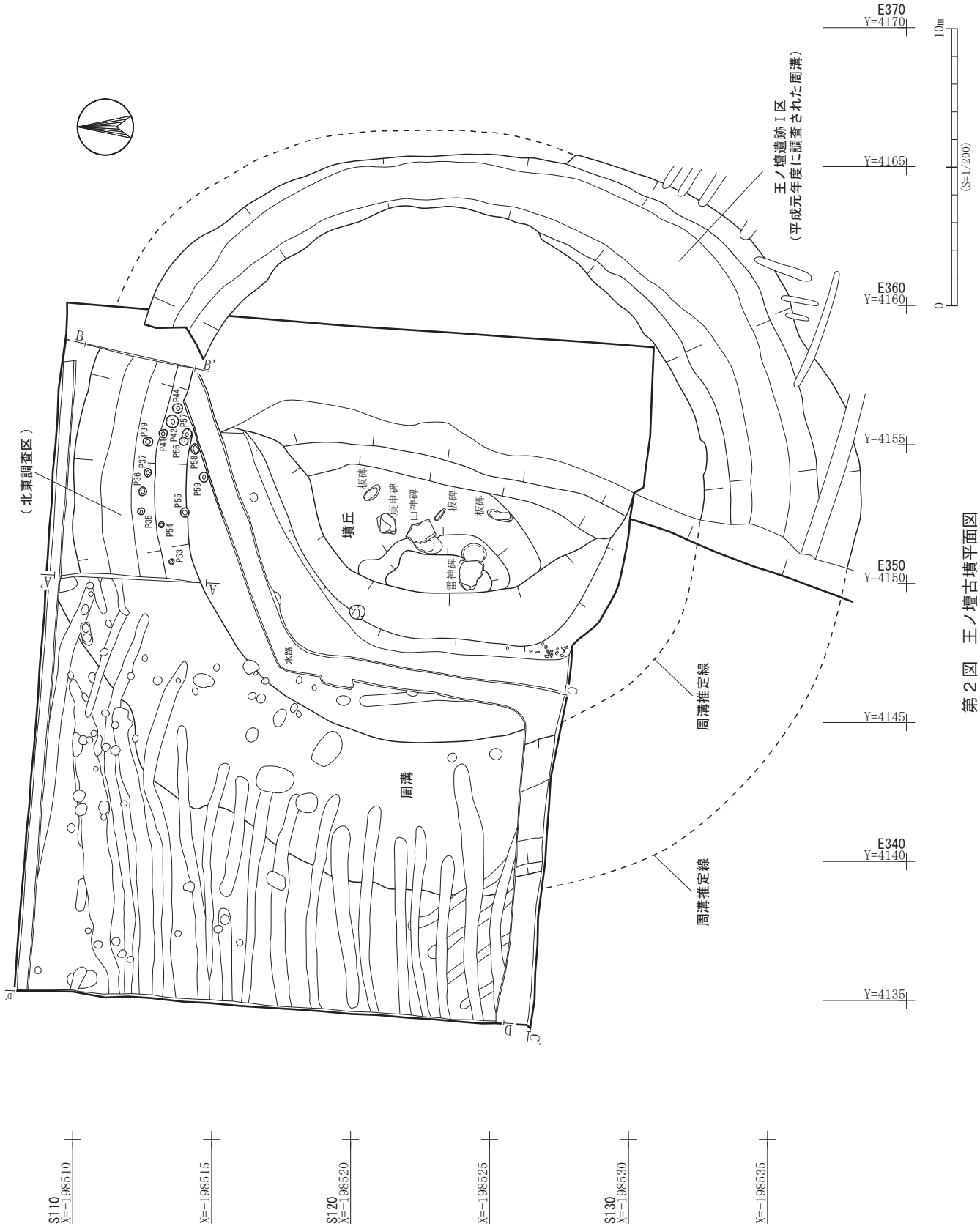
１）王ノ壇古墳周溝（第１～３図、図版１・２）

Ｅ330～350・Ｓ100～130グリッドで検出したもので、古墳周溝全体の北から西の約1/4程度が確認された。SK２・３・６・７土坑、ピットＰ２・４・５・14～19・20・25・26・34・38・40・43・49～52・62～64・68～70・72・73・75～77・83・84、小溝状遺構Ⅰ－１～５・７～21、Ⅱ－１～４、Ⅲ－１・２、Ⅳ－３・４と重複し、周溝が古い。また、北東調査区部では周溝を底面まで調査したが、その際に新旧関係が不明なピットＰ35～37・39・41・42・53～59が検出された。

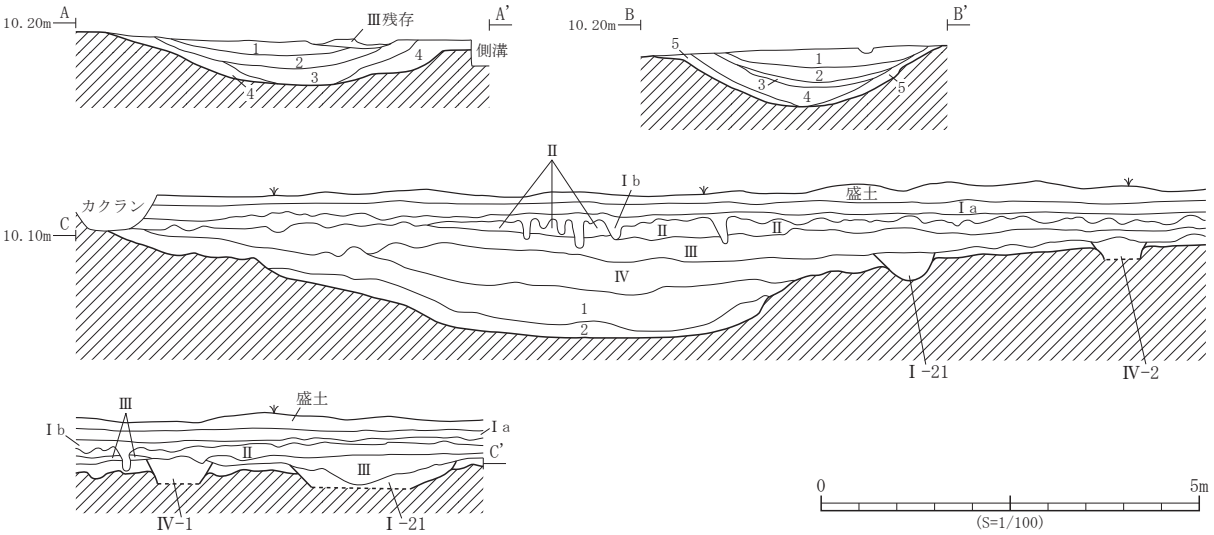
北東調査区で検出した周溝の規模は幅5.00m前後、深さ80㎝前後で、断面形はⅢ状である。平成元年度の調査での規模は周溝幅2.00～5.70m、深さ10～90㎝であり、削平の影響により幅が2.00m前後と狭くなっている部分を除




第１図　王ノ壇古墳Ⅴ層遺構配置図




第２図　王ノ壇古墳平面図




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 周溝(A-A') | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄粒・マンガン粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を微量含む。 |
| | 3 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 粘土質・締まりあり。 |
| | 4 | 10YR3/3暗褐色 | シルト | 粘土質あり、締まりなし。 |
| 周溝(B-B') | 1 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄粒・マンガン粒を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を微量含む。 |

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 周溝(B-B') | 3 | 10YR4/4褐色 | 粘土質シルト | 粘土質・締まりあり。 |
| | 4 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 粘土質・締まりあり。 |
| | 5 | 10YR3/3暗褐色 | シルト | 粘土質あり、締まりなし。 |
| 周溝(C-C') | 1 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | Ⅵ層ブロック(φ50mm内)をわずかに含む。 |
| | 2 | 10YR4/4褐色 | シルト | - |

第３図　王ノ壇古墳周溝断面図

けば、本調査区で確認した周溝規模もほぼ同じ5.00m前後である。両調査区を合わせて（第２図・仙台市文化財調査報告書第249集「王ノ壇遺跡」第125図と合成）古墳規模を計測すると、周溝内縁径は19.00m、外縁径は26.80～28.50mの円墳である。周溝検出面や周溝内堆積土及び底面から埴輪破片が出土しており、そのうち７点を第５図に図示した。また、時期違いではあるが、埋没の年代を示す遺物として須恵器片１点、瓦片１点を図示した。１・２は朝顔形埴輪の口縁部片である。外面タテハケメ、内面ナデで、作りが非常に薄い。３～５は凸帯部片である。外面タテハケメ、内面ナデである。６・７は基部破片である。外面タテハケメ、内面指ナデ・指オサエである。１～７ともに５世紀後葉～６世紀前葉の所産と考えられる。８は須恵器蓋で、９は布目平瓦である。大略８世紀前半ごろのものと考えられる。

２）土　坑

SK１土坑（第１図）　E340･S100～110グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-２と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向は南北正方位である。規模は長軸108cm、短軸60cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK２土坑（第１図）　E340･S110グリッドで検出した。古墳周溝と重複し、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-10°-Eである。規模は長軸76cm、短軸50cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK３土坑（第１図）　W340・S110グリッドで検出した。古墳周溝、小溝状遺構Ⅰ-11と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は南北正方位である。規模は長軸135cm、短軸95cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK４土坑（第１図）　E330・S110グリッドで検出した。小溝状遺構Ⅰ-12と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-30°-Eである。規模は長軸66cm、短軸55cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK５土坑（第１図）　E340・S110グリッドで検出した。古墳周溝と重複し、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径58cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK６土坑（第１図）　E340・S110グリッドで検出した。小溝状遺構群Ⅰ-12と重複し、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は南北正方位である。規模は長軸80㎝、短軸70㎝、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK７土坑（第１図）　E340・S110グリッドで検出した。古墳周溝と重複し、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-57°-Wである。規模は長軸130㎝、短軸80㎝、深さは不明である。遺物は出土していない。

３）小溝状遺構群

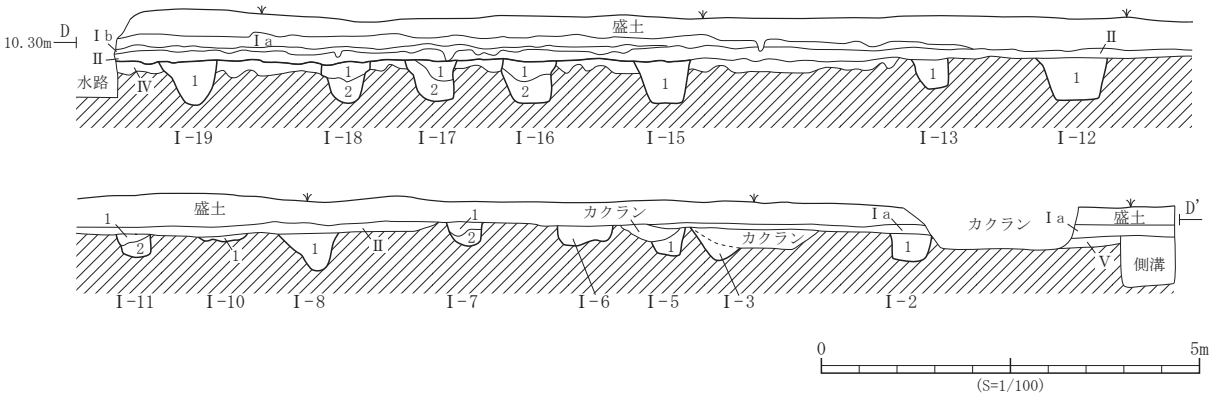
畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からⅠ～Ⅳ群に分けられ、Ⅱ・Ⅳ群からⅠ・Ⅲ群への変遷が考えられる。また、これらの小溝状遺構群は古墳周溝半ば付近で途切れていることも特徴的である。

Ⅰ群（第１・４図）　E330～350・S100～120グリッドで検出した。東西方向の遺構群で、21条の小溝で構成されている。方向はN-70°-W～N-82°-Eで、検出長は3.95～13.80m、幅20～80㎝、深さは５～32㎝、小溝の間隔は0.20～0.80m程である。遺物は出土していない。

Ⅱ群（第１図）　E340～350・S110グリッドで検出した。東西方向の遺構群で、４条の小溝で構成されている。方向はN-75°-W～N-85°-Eで、検出長は4.20～9.10m、幅20～80㎝、深さは13～37㎝、小溝の間隔は隣接している溝を除けば40㎝程である。遺物は出土していない。

Ⅲ群（第１図）　E340～350・S100～110グリッドで検出した。南北方向の遺構群で、２条の小溝で構成されている。方向はN-８°-W～N-20°-Eで、検出長は0.70～2.40m、幅40～50㎝、深さは不明である。小溝の間隔は5.00m程である。遺物は出土していない。

Ⅳ群（第１図）　E330～340・S120グリッドで検出した。東西方向の遺構群で、５条の小溝で構成されている。方向はN-５～35°-Wで、検出長は3.10～4.70m、幅30～40㎝で、深さは不明である。小溝の間隔はⅣ-４からⅣ-５間が7.0mと離れている他は概ね2.00m程である。遺物は出土していない。



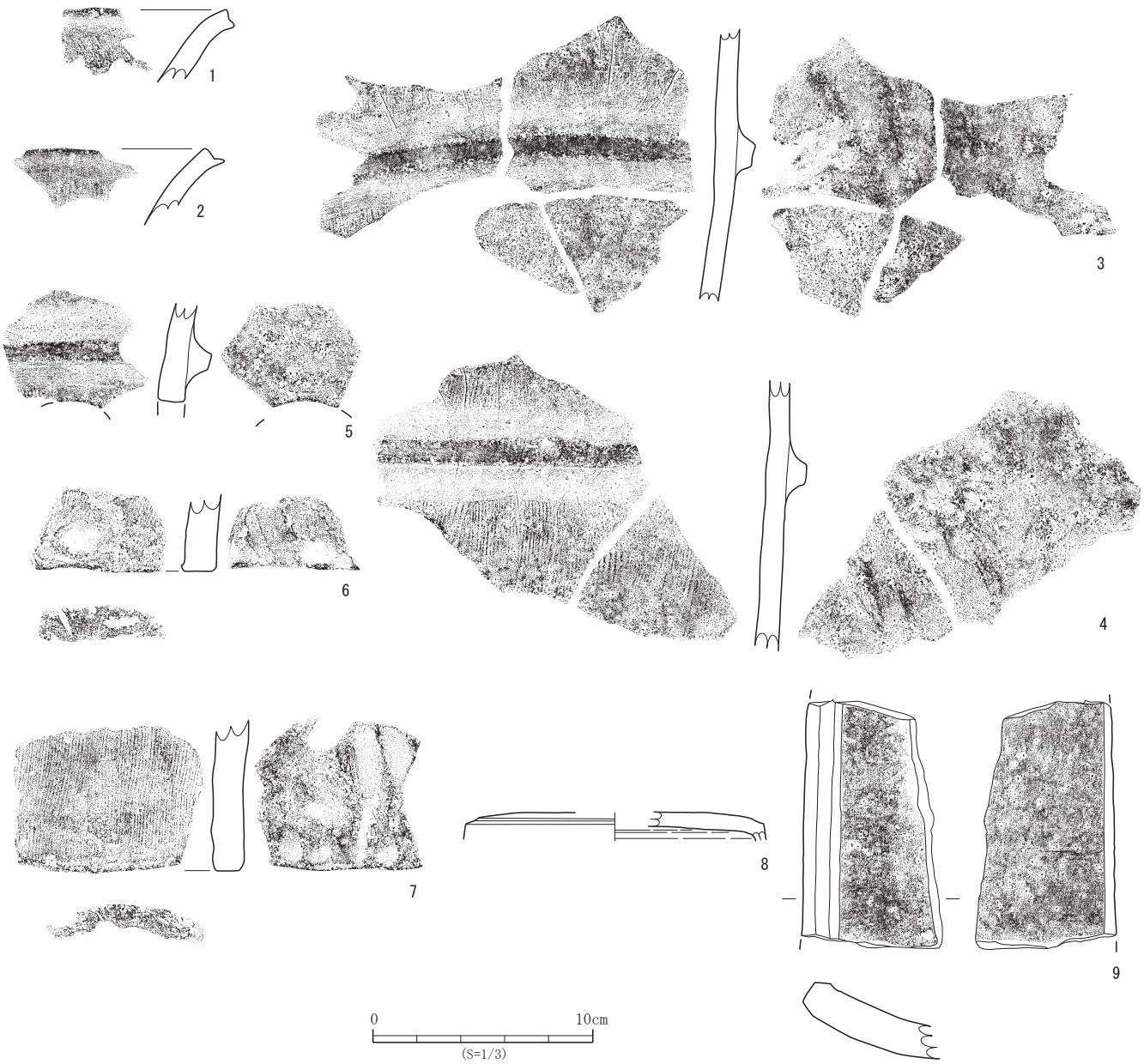

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| I-2 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を多量、酸化鉄を微量含む。 |
| I-5 | 1 | 10YR4/4 褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を多量含む。 |
| I-7 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を多量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を少量含む。 |
| I-8 | 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を少量、酸化鉄を微量含む。 |
| I-10 | 1 | 10YR4/4 褐色 | シルト | マンガン粒を多量含む。 |
| I-11 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を多量含む。 |
| | 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を少量含む。 |
| I-12 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を少量含む。 |

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| I-13 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を少量含む。 |
| I-15 | 1 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 粘土質・締まりあり。 |
| I-16 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒・酸化鉄を微量含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 粘土質・締まりややあり。 |
| I-17 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 粘土質・締まりあり。 |
| I-18 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を含む。 |
| | 2 | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質シルト | 粘土質・締まりあり。 |
| I-19 | 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト | マンガン粒を含む。 |

第４図　小溝状遺構群断面図

４）ピット（第１・２図）

85基のピット（P１～85）を検出した。調査区中央から中央北側に多く分布している。遺物は、P１～３・５・８・10・14・17から埴輪の小破片が出土している。




| No. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 法　量(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | S-1 | 周溝 | - | 埴輪 | 朝顔 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | 口縁小片。 | 2-1 |
| 2 | S-2 | 周溝 | - | 埴輪 | 朝顔 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | 口縁小片。 | 2-2 |
| 3 | S-3 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上1.2下2.7、高さ0.9 | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | | 2-3 |
| 4 | S-4 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上0.9下3.9、高さ0.8 | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | | 2-4 |
| 5 | S-5 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上0.7下3.1、高さ1.1 | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | 透し円形。 | 2-5 |
| 6 | S-6 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ | 指ナデ・指オサエ | 基部。 | 2-7 |
| 7 | S-7 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ | 指ナデ・指オサエ | 基部。 | 2-6 |

| No. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 口径×底径×器高(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | E-1 | 周溝 | - | 須恵器 | 蓋 | - | ロクロナデ・回転ヘラケズリ | ロクロナデ | | 2-8 |

| No. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 広端幅×狭端幅×厚(cm) | 凹面調整 | 凸面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | G-1 | 周溝 | - | 瓦 | 平瓦 | -×-×1.6 | 糸切り、布目痕、側縁部ヘラ調整 | 縄タタキ、側縁部ヘラ調整 | | 2-9 |

第５図　王ノ壇古墳出土遺物

## ３．ま　と　め

王ノ壇古墳は仙台市南部の太白区大野田に所在する。大野田古墳群で、墳丘まで遺存していた古墳は春日社古墳と本古墳のみである。王ノ壇古墳の墳丘上には中・近世の石碑５基が置かれており、詳細は「仙台市の板碑」『仙台市史』（仙台市史編さん委員　1998）を参照していただきたい。

（１）遺構について

１）王ノ壇古墳は、平成元年度に調査された周溝と合わせて計測すると、高さ約1.50m、周溝内縁径は約19.00m、外縁径は26.80～28.50mの円墳である。

２）古墳周辺部からは古代以降の遺構と考えられる土坑７基、小溝状遺構群４群、ピット85基を検出した。また、小溝状遺構群は調査区全域に広がりを見せているが、大半が王ノ壇古墳周溝半ば付近で途切れている。このことより小溝状遺構群が作られた時期には周溝は埋没しており、墳丘封土が周溝半ば付近まで崩落していた可能性が高い。

（２）遺物について

１）周溝検出面や周溝堆積土・底面から円筒埴輪・朝顔形埴輪破片が出土した。遺物から判断すると王ノ壇古墳は古墳時代中期後半～後期（５世紀後葉から６世紀前葉）の築造と考えられる。

２）王ノ壇古墳関係以外の遺物として８世紀代の須恵器蓋や布目平瓦が出土している。

### 第１表　遺構一覧表

古墳

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 規　模 | 墳丘平面形・備考 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|
| 王ノ壇古墳 | E330～350・S100～120 | 周溝内縁径19m、周溝外縁径26.8～28.5m、周溝幅5m、深さ0.8m前後 | 円墳　墳丘に5基の石碑あり | 5世紀後半～5世紀末 |

土坑

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 長軸方向 | 規　模（cm） | 平面形・断面形 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|
| SK1 | E330・S100～110 | N-4°-W | 長軸108×短軸60×深さ不明 | 楕円形・不明 | |
| SK2 | E340・S110 | N-10°-E | 長軸76×短軸50×深さ不明 | 楕円形・不明 | |
| SK3 | E340・S110 | N-8°-E | 長軸135×短軸95×深さ不明 | 楕円形・不明 | |
| SK4 | E330・S110 | N-30°-E | 長軸66×短軸55×深さ不明 | 楕円形・不明 | |
| SK5 | E340・S110 | - | 径58×深さ不明 | ほぼ615円形・不明 | |
| SK6 | E340・S110 | N-3°-W | 長軸80×短軸70×深さ不明 | 楕円形・不明 | |
| SK7 | E340・S110 | N-57°-W | 長軸130×短軸83×深さ不明 | 楕円形・不明 | |

小溝状遺構

| 遺構番号 | 位置（グリッド） | 方　向 | 規　模（m） | 平面形・断面形 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ-1 | E330～350・S100～110 | N-71°-W | 長さ(12.25)×幅0.35～0.5×深さ0.05 | やや屈曲・U字形 | |
| Ⅰ-2 | E330～340・S100～110 | N-88°-W | 長さ(8.7)×幅0.2～0.4×深さ不明 | やや蛇行？・不明 | |
| Ⅰ-3 | E330～340・S100～110 | N-82°-E | 長さ(11.4)×幅0.25～1.05×深さ不明 | わずかに蛇行・不明 | |
| Ⅰ-4 | E340・S110 | N-70°-W | 長さ3.95×幅0.2～0.3×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅰ-5 | E330～340・S110 | N-86°-E・N-71°-W | 長さ(13.8)×幅0.2～0.4×深さ不明 | やや屈曲・不明 | |
| Ⅰ-6 | E330～340・S110 | N-85°-E | 長さ(10.4)×幅0.45～0.7×深さ不明 | わずかに湾曲・不明 | |
| Ⅰ-7 | E330～340・S110 | N-83°-E・N-73°-W | 長さ(12.35)×幅0.28～0.5×深さ不明 | やや屈曲・不明 | |
| Ⅰ-8 | E330～340・S110 | N-85°-E | 長さ(9.9)×幅0.3～0.45×深さ不明 | わずかに蛇行・不明 | |
| Ⅰ-9 | E330～340・S110 | N-85°-W | 長さ7.9×幅0.25～0.4×深さ不明 | わずかに蛇行・不明 | |
| Ⅰ-10 | E330～340・S110 | N-85°-W | 長さ(8.1)×幅0.35～0.5×深さ不明 | わずかに屈曲・不明 | |
| Ⅰ-11 | E330～340・S110 | N-85°-W | 長さ(7.6)×幅0.25～0.45×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅰ-12 | E330～340・S110 | N-85°-W | 長さ(7.65)×幅0.4～0.6×深さ不明 | わずかに湾曲・不明 | |
| Ⅰ-13 | E330～340・S110 | N-85°-W | 長さ(7.7)×幅0.3～0.45×深さ不明 | わずかに湾曲・不明 | |
| Ⅰ-14 | E330～340・S110～120 | N-86°-E | 長さ6.55×幅0.45～0.65×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅰ-15 | E330～340・S120 | N-89°-E | 長さ(7.4)×幅0.3～0.45×深さ不明 | わずかに湾曲・不明 | |
| Ⅰ-16 | E330～340・S120 | N-88°-E | 長さ(6.4)×幅0.35～0.45×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅰ-17 | E330～340・S120 | N-88°-E | 長さ(6.85)×幅0.25～0.45×深さ不明 | わずかに蛇行・不明 | |
| Ⅰ-18 | E330～340・S120 | N-89°-E | 長さ(5.85)×幅0.3～0.5×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅰ-19 | E330～340・S120 | N-85°-E・N-73°-W | 長さ(9.2)×幅0.4～0.8×深さ不明 | わずかに屈曲・不明 | |
| Ⅰ-20 | E330～340・S120 | N-83°-E | 長さ(7.25)×幅0.3～0.65×深さ不明 | わずかに湾曲・不明 | |
| Ⅰ-21 | E330～340・S120 | N-87°-W | 長さ(8.4)×幅0.25～0.5×深さ0.23～0.32 | やや蛇行・U字形 | |
| Ⅱ-1 | E340～350・S110 | N-85°-E | 長さ(9.1)×幅0.3～0.5×深さ不明 | わずかに屈曲・不明 | |
| Ⅱ-2 | E340～350・S110 | N-85°-E | 長さ(9.1)×幅0.2～0.8×深さ不明 | わずかに蛇行・不明 | |
| Ⅱ-3 | E350・S110 | N-77°-W | 長さ4.2×幅0.4～0.45×深さ0.32～0.37 | わずかに屈曲・U字形 | |
| Ⅱ-4 | E350・S110 | N-75°-W | 長さ7.3×幅0.3～0.4×深さ0.13～0.27 | わずかに屈曲・U字形 | |
| Ⅲ-1 | E340～350・S100～110 | N-8°-W | 長さ(0.7)×幅0.5×深さ不明 | 直線・不明 | |
| Ⅲ-2 | E350・S100～110 | N-20°-E | 長さ(2.4)×幅0.4×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅳ-1 | E330・S120 | N-31°-W | 長さ(3.1)×幅0.3×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅳ-2 | E330・S120 | N-31°-W | 長さ(3.8)×幅0.2～0.3×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅳ-3 | E330・S120 | N-35°-W | 長さ(4.7)×幅0.3～0.4×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |
| Ⅳ-4 | E330～340・S120 | N-31°-W | 長さ4.35×幅0.3×深さ不明 | わずかに蛇行・不明 | |
| Ⅳ-5 | E340・S120 | N-5°-W | 長さ(4.0)×幅0.4×深さ不明 | ほぼ直線・不明 | |

# 王ノ壇古墳写真図版

Ｖ層遺構検出状況（西より）

北東区周溝完掘（北西より）

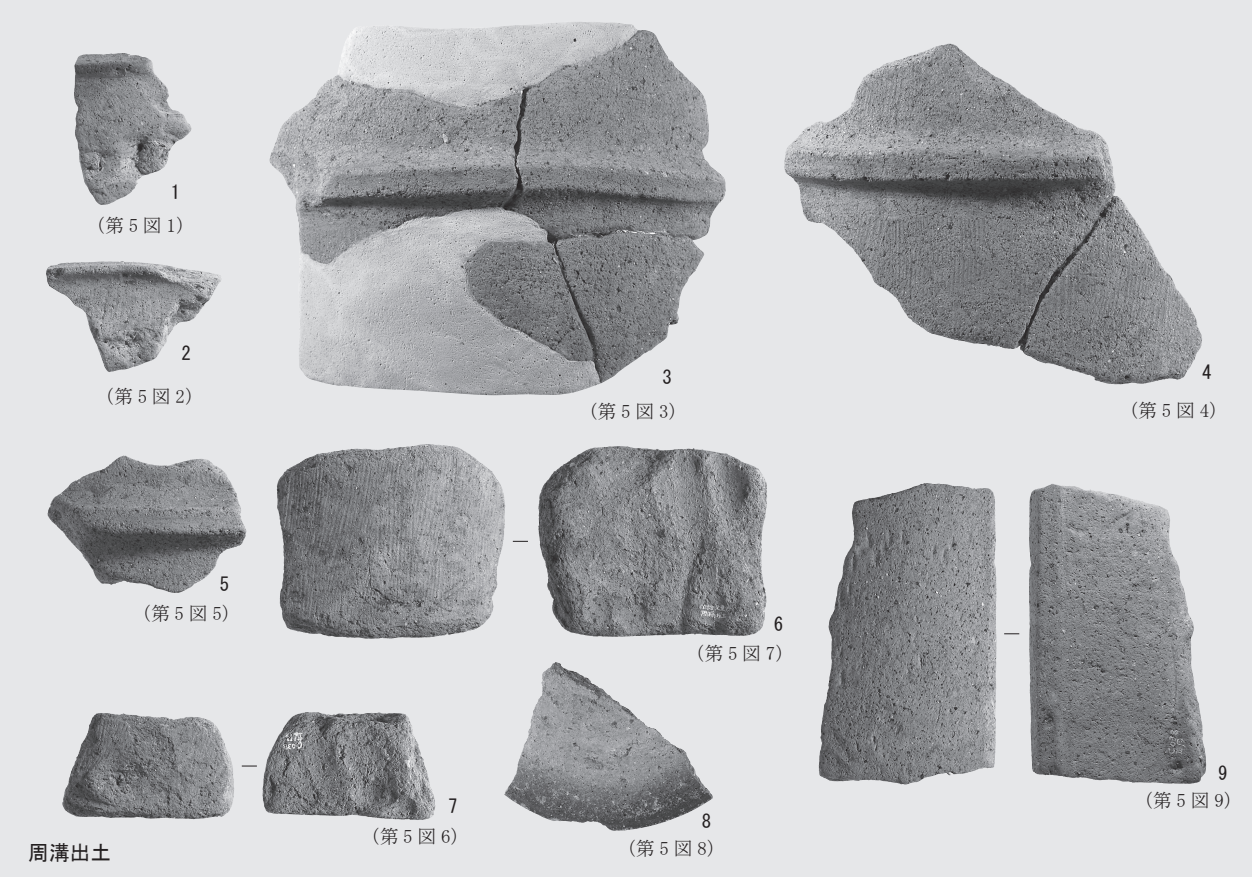
写真図版１　王ノ壇古墳（１）

周溝断面Ａ−Ａ'（東より）

周溝断面Ｂ−Ｂ'（西より）

周溝断面Ｃ−Ｃ'（北西より）

周溝断面Ｄ−Ｄ'（南東より）




写真図版２　王ノ壇古墳（２）及び出土遺物

# 第７節　春日社古墳

## １．調査要項

（１）遺跡名：春日社古墳（宮城県遺跡登録番号01320）

（２）所在地：仙台市太白区大野田字宮

（３）調査面積：約2,400㎡（大野田古墳群12Ｄ区）のうち、約1,735㎡（周溝含む古墳域）

（４）調査主体：仙台市教育委員会

（５）調査担当：仙台市教育委員会文化財課

（６）担当職員：荒井　格・米川暢敬・佐々木　匠　（派遣調査員：小林義典・蝦名　純／玉川文化財研究所）

（７）調査期間

（野外調査）・平成19年度：平成19年５月10日～平成20年３月11日

（整理作業）平成19年度末から20年度にかけて基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。

・平成22年６月18日～平成23年３月31日

## ２．調査概要

春日社古墳は円墳として周知されていたが、「大野田ちびっこ広場」として改変を受けていたため、その詳細は不明であった。これまで昭和51年度と平成６年度の２度にわたって調査が行われている。市道拡幅工事に伴う昭和51年度の調査では、墳丘北側の周溝部で馬形埴輪をはじめとする形象埴輪や円筒埴輪の破片が出土した（仙台市教育委員会　1987）。区画整理事業に伴う確認調査として行われた平成６年度の調査では、墳丘中央部に設定されたトレンチから長軸約2.00m×短軸約1.00mの範囲で板石及び円礫が出土し、第１主体部が確認された（仙台市教育委員会　2000）。

今回の調査は、区画整理事業に伴う大野田古墳群12Ｄ区の本発掘調査として行われた。その結果、第１主体部を再検出するとともに、革盾・鉄矛・鉄鏃が副葬された第２主体部を新たに発見した。

今回の報告では、春日社古墳及び古墳に伴う出土遺物を報告する。古墳以外の遺構・遺物は次刊以降掲載予定である。なお、墳丘に関しては昭和51年度・平成21年度及び22年度の調査成果が一部反映されている。

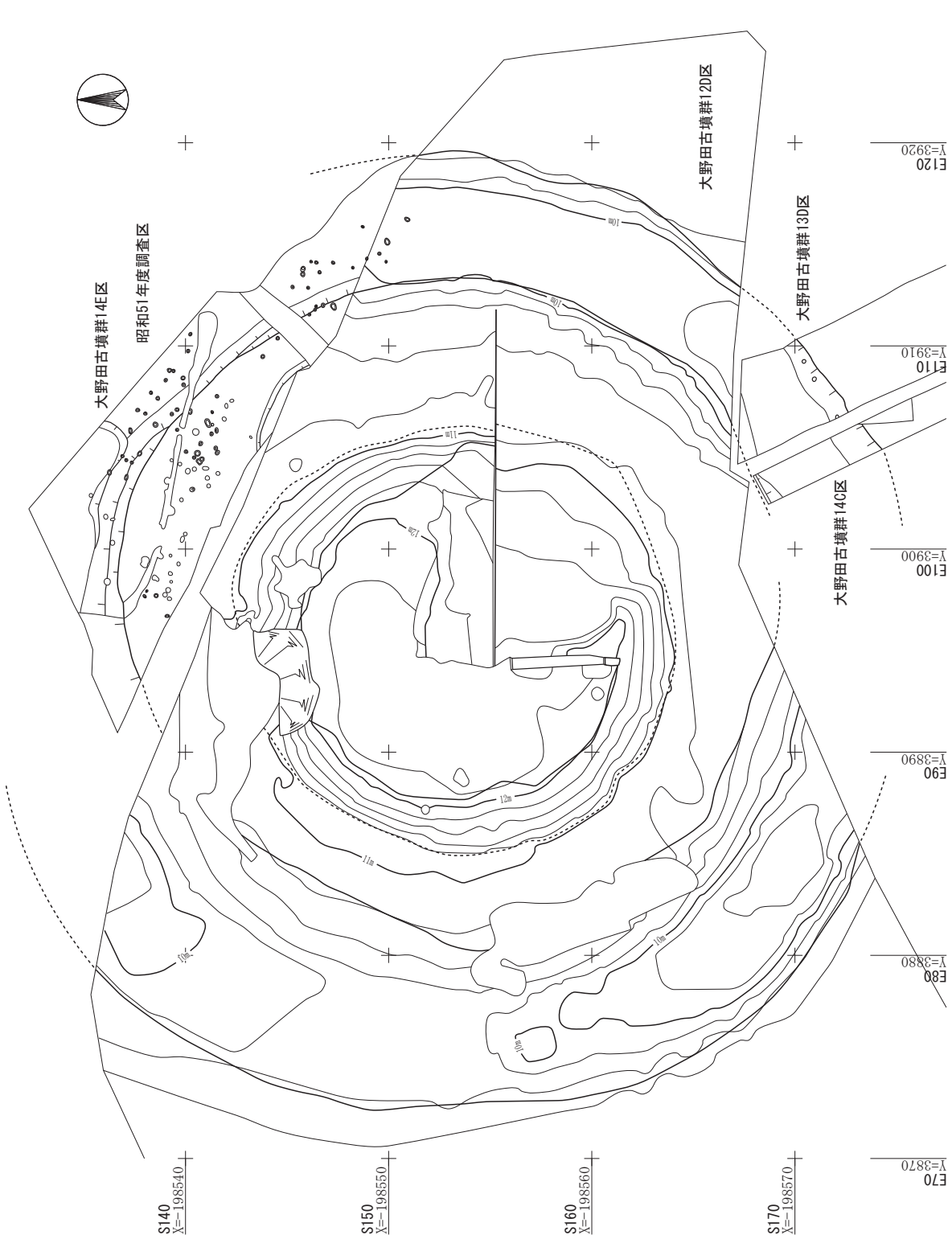
### １）墳形・規模（第１図、図版１）

墳麓にテラスを有する円墳であり、周溝は小溝状遺構と重複しており、本遺構が古い。今回の調査で明らかとなった規模は以下のとおりである。なお、計測幅は平均値をとっている。周溝外縁上端径46.63m、周溝内縁上端径31.98m、周溝上端幅6.80m、周溝下端幅3.94m、墳丘裾部径21.48m、テラス幅4.83m（西平均5.63m、東平均4.03m）、墳頂平坦面径16.60m、墳丘現存高1.55m。

### ２）墳丘の構築過程（第３図）

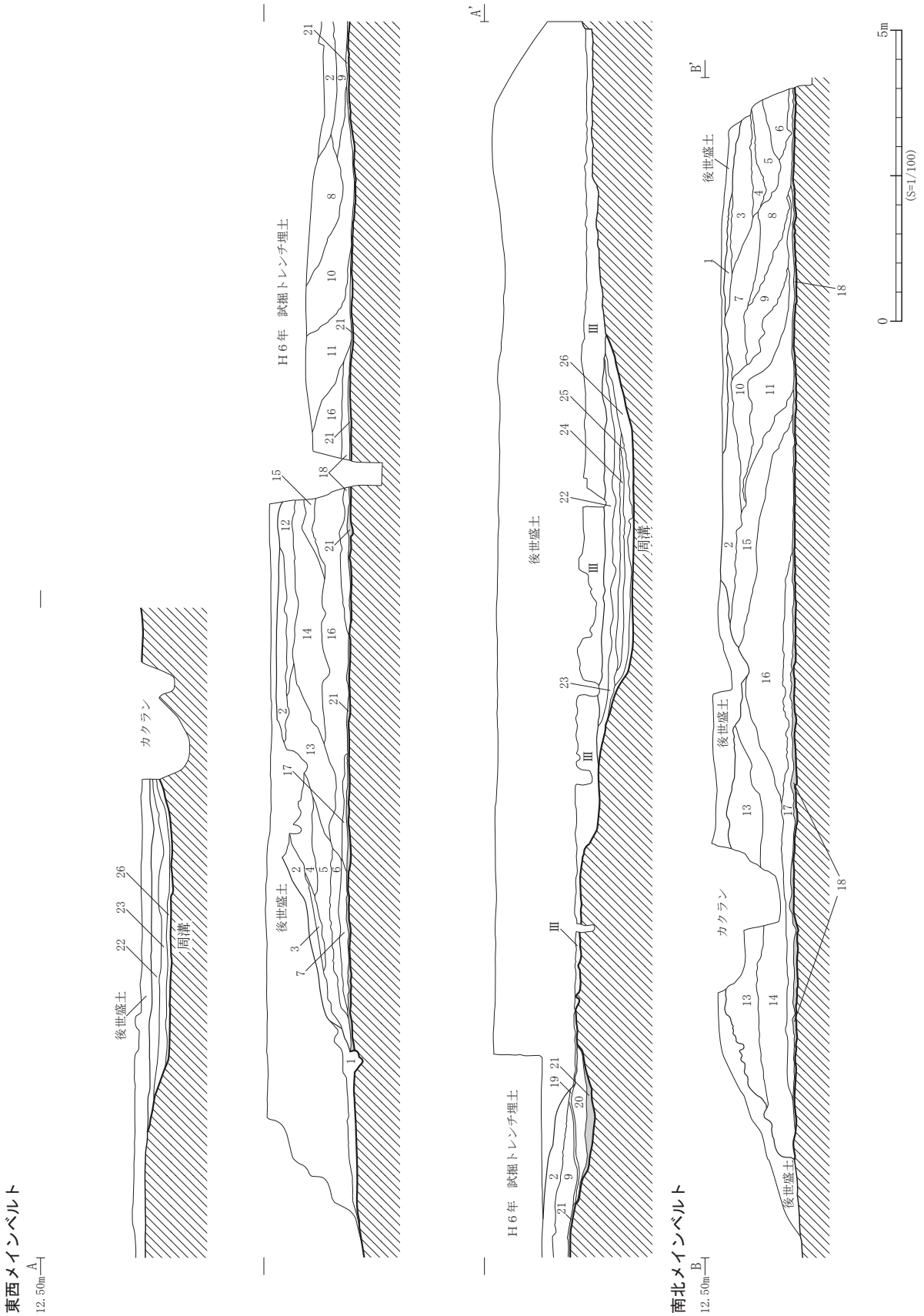
東西-南北のメインベルトで墳丘の盛土過程を観察すると、墳丘の盛土は東西メインベルト（以下、東西ベルト）１～21層、南北メインベルト（以下、南北ベルト）１～18層である。このうち、墳丘基底面は、東西21層上面（南北18層）である。これは、21層の下層にブロックをほとんど含まない基本層Ｖ層相当の土が水平堆積している状況が墳丘盛土とは明らかに異なっていることを根拠としている。21層上面でのレベル差は、東西-南北間でわずかに16㎝であり、春日社古墳は平坦地に構築されたことが考えられる。

盛土の過程は、東西・南北ベルト16層の状況から、中央部に東西長約9.00m、南北長7.00～9.00m、基底面からの高さ0.90～1.20mの円丘が盛土される。これを核として東西ベルト８～11層や南北ベルト13～14層等に盛土範囲を拡大する。ただし、盛土は水平に積まれた東西ベルト２～７層や円丘の傾斜に沿って盛られた南北ベルト７～11層




第１図　春日社古墳測量図

第２図　春日社古墳遺構配置図




第３図　春日社古墳土層断面図

東西メインベルト土層註記

| | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 崩落土 | 1 | 10YR3/4暗褐色 | 砂質シルト | φ5～15㎜粘土質ブロック多く含む。 |
| 墳丘盛土 | 2 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の水平な互層で構成される積土。φ1～3cmのブロック構成。 |
| 墳丘盛土 | 3 | ①10YR3/3暗褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>砂質シルト | ①・②の互層で構成される積土。層厚は①が5～8cm、②が1～3cm。 |
| 墳丘盛土 | 4 | ①10YR5/4にぶい黄褐色<br>②10YR5/6黄褐色<br>③10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②・③の互層で構成される積土。層厚は①・②が5～10cm前後、③が5cm前後。全体としては①・②を主体とする。墳頂から墳裾へ向けて傾斜する。 |
| 墳丘盛土 | 5 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される積土。①は層厚5～10cm、②は層厚5cm。 |
| 墳丘盛土 | 6 | ①10YR4/4褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>砂質シルト | ①・②の互層で構成される積土。層厚はともに5cm前後。 |
| 墳丘盛土 | 7 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される積土。①は層厚1～2cmでφ5～10㎜の褐色ブロックを含み、②は層厚1～2cmでφ3～8㎜の黄褐色ブロックを含む。波状。 |
| 墳丘盛土 | 8 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | φ50～150㎜のにぶい黄褐色・黄褐色ブロックで構成される積土。全体としては層厚5～10cmの互層状。 |
| 墳丘盛土 | 9 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | φ3～15㎜のにぶい黄褐色・黄褐色ブロックで構成される。全体としては層厚3～5cmの互層で構成される積土。 |
| 墳丘盛土 | 10 | ①10YR6/6明黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 粘土質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される積土。にぶい黄褐色土・黄褐色ブロックで構成される。層厚2～3cm。水平な積土であるが、各層の上位～中位では波状を呈する。 |
| 墳丘盛土 | 11 | ①10YR6/6明黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 粘土質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される積土。②を主体とするφ50～100㎜のブロック構成。層上位～中位では仰角3～5°で墳裾に向けて傾斜する波状を呈する。層中位～下位では水平を呈し、層厚5～10cm、幅30～50cm。 |
| 墳丘盛土 | 12 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の水平な互層で構成される積土。φ1～3cmのブロック構成。 |
| 墳丘盛土 | 13 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR3/4暗褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される積土。①は層厚3～5cmでブロック構成、②は層厚2～3cmでブロック構成。 |
| 墳丘盛土 | 14 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR3/3暗褐色<br>③10YR3/4暗褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト<br>粘土質シルト | ①・②・③の水平な互層で構成される積土。層厚は3～10cm程度。全体としてはφ5～30㎜、50㎜のブロックの混合土。墳裾方向への傾斜が顕著。 |
| 墳丘盛土 | 15 | ①10YR3/3暗褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>砂質シルト | ①・②の互層で構成される積土。層厚は①が5～8cm、②が1～3cm。 |
| 墳丘盛土 | 16 | ①10YR3/3暗褐色<br>②10YR3/4暗褐色<br>③10YR5/6黄褐色<br>④10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>粘土質シルト<br>粘土質シルト<br>砂質シルト | ①～④の混合土による水平な互層で構成される積土。層厚は各々3～5cm。 |
| 墳丘盛土 | 17 | ①10YR6/6明黄褐色<br>②10YR6/8明黄褐色<br>③10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②・③の水平な互層で構成される積土。層厚は各々2～3cm。全体としてはφ5～20㎜のブロックの混合土。 |
| 墳丘盛土 | 18 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR3/4暗褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の水平な互層で構成される積土。①は層厚3～5cmでブロック、②は層厚2～3cmでブロック構成。 |
| 墳丘盛土 | 19 | 10YR7/1灰白色 | 粘土質シルト | グライ化による変色。 |
| 墳丘盛土 | 20 | 10YR4/3<br>にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | φ3～15㎜のにぶい黄褐色・黄褐色ブロックで構成。全体としては層厚3～5cmの互層状。 |
| 墳丘盛土 | 21 | 10YR3/4暗褐色 | 粘土質シルト | 上面に草本類炭化物。層厚1～5㎜で基底面全体に広がる。φ1㎜以下炭化物層上半に10～30%含む。 |
| 周溝堆積土 | 22 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | 締まり・粘性強い。 |
| 周溝堆積土 | 23 | 10YR3/2黒褐色 | 粘土質シルト | 締まり・粘性強い。 |
| 周溝堆積土 | 24 | 10YR3/3暗褐色 | 砂質シルト | 黄褐色土を粒状に多量含む，締まり・粘性強い。 |
| 周溝堆積土 | 25 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | 黄褐色土を粒状に少量含む，締まり・粘性強い。 |
| 周溝堆積土 | 26 | 10YR4/4褐色 | 砂質シルト | 締まり・粘性強い。 |

南北メインベルト土層註記

| | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 墳丘盛土 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 砂質シルト | – |
| 墳丘盛土 | 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | – |
| 墳丘盛土 | 3 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の水平な互層で構成される積土。①は層厚10～20cm、②は層厚2～5cm。 |
| 墳丘盛土 | 4 | ①10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | – |
| 墳丘盛土 | 5 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①φ5～20㎜、②φ10～30㎜のブロックによる互層で構成される。層厚5cmで，墳裾に向けてやや傾斜する。 |
| 墳丘盛土 | 6 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | ①を主体とした（80%）層厚5～15cmの水平な互層で構成される積土。 |
| 墳丘盛土 | 7 | ①10YR4/4褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>砂質シルト | ①・②の互層で構成される積土。層厚はともに5cm前後。 |
| 墳丘盛土 | 8 | ①10YR4/4褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>砂質シルト | ①・②の互層で構成される積土。①は層厚5～10cm、②は層厚1～5cm。 |
| 墳丘盛土 | 9 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①を主体とした層厚5～15cmの水平な互層で構成される積土。層厚5cm程度の②と互層で構成される。 |
| 墳丘盛土 | 10 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の水平な互層で構成される積土。層下位で波状を呈する。①は層厚10～20cm、②は層厚2～5cm。 |
| 墳丘盛土 | 11 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される積土。①は層厚5～10cm、②は層厚3～8cm。 |
| 墳丘盛土 | 12 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR3/4暗褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される積土。①は層厚3～5cmでブロック構成、②は層厚2～3cmでブロック構成。 |
| 墳丘盛土 | 13 | ①10YR3/4暗褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>砂質シルト | ①・②の互層で構成される積土。層厚は①が5～8cm、②が1～3cm。 |
| 墳丘盛土 | 14 | ①10YR5/4にぶい黄褐色<br>②10YR5/6黄褐色<br>③10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②・③の互層で構成される積土。層厚は①・②が5～10cm前後、③が5cm前後。全体としては①・②を主体とする。墳頂から墳裾へ向けて傾斜する。 |
| 墳丘盛土 | 15 | ①10YR3/3暗褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>砂質シルト | ①・②の互層で構成される積土。層厚は①が5～8cm、②が1～3cm。 |
| 墳丘盛土 | 16 | ①10YR3/3暗褐色<br>②10YR3/4暗褐色<br>③10YR5/6黄褐色<br>④10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>粘土質シルト<br>粘土質シルト<br>砂質シルト | ①～④の混合土による水平な互層で構成される積土。層厚は各々3～5cm。 |
| 墳丘盛土 | 17 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR3/4暗褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の水平な互層で構成される積土。①は層厚3～5cmでブロック構成、②は層厚2～3cmでブロック構成。 |
| 墳丘盛土 | 18 | 10YR3/4暗褐色 | 粘土質シルト | 上面に草本類炭化物。層厚1～5㎜で基底面全体に広がる。φ1㎜以下炭化物層上半に10～30%含む。 |

等、一様ではない。各盛土は互層状に積まれている。

盛土と主体部の先後関係を主体部直上の北サブベルト（第６図）でみると、９層を切り込んで主体部が構築されている。この９層は第２主体部南北ベルト30層（第６図）と同一の層であり、墳丘盛土である南北メインベルト13層に対応する。また、第２主体部は北サブベルト４・５層によって被覆されており、その高さはおよそ海抜12.00mで、東西ベルト13・14層上面の平坦面とほぼ一致している。このことから墳丘が東西13・14層（南北13・15層）まで盛土されたのちに、これを削りこんで第２主体部が構築され、再び盛土が行われたと考えられる。最終的な盛土は東西ベルト２層等で観察でき、墳頂から墳裾へかけて広い範囲で土が盛られている。

３）墳丘テラス部（第２・３図、図版１）

墳裾と周溝の間に幅3.40～6.40mの平坦面が検出された。墳丘基底面とほぼ同じ高さであること、墳裾の上に墳丘崩落土（東西ベルト１層）が堆積していたこと等を考慮すると、この平坦面は古墳築造時にすでに存在していたと考えられ、テラスと判断された。なお、上述のように幅は一定せず、東側テラスが西側に比べて狭い傾向にある。

４）周溝（第１・３図、図版１）

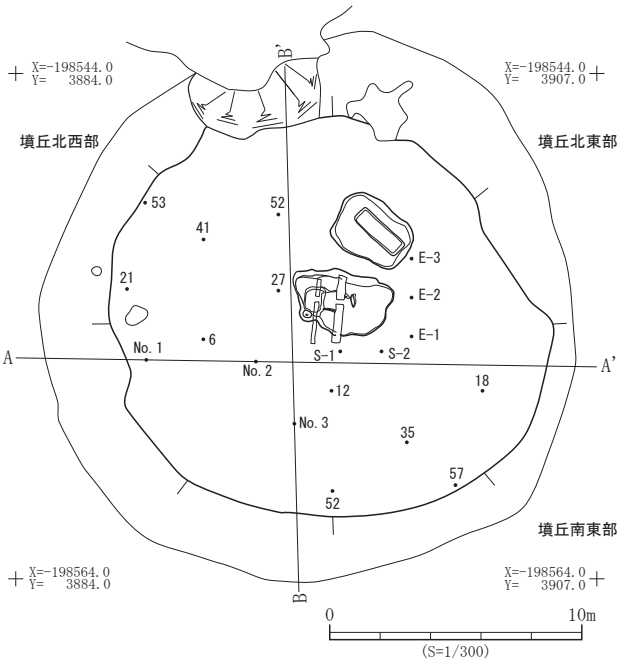
基本層Ⅴ層から掘り込まれており、古墳南北の調査区外に延びる部分以外の全域で検出された。昭和51年度及び平成20年度･21年度調査で確認された部分と合わせ、ほぼ全体が明らかになった。規模は墳丘西側では上端幅6.85～9.40m、下端幅3.85～3.90m、東側では上端幅7.45m、下端幅3.80mである。堆積土は５層に分層される。なお、周溝堆積土の直上に基本層Ⅲ層が被覆しており、層中の灰白色火山灰の自然科学分析を行った。

５）葺石

平成６年度の調査で、墳丘北東部の墳頂から斜面上部にかけて礫群を検出しており、仙台市文化財調査報告書第243集では葺石と報告されている。しかし、今回の調査で礫群の下層から埴輪片の他に近世～現代の陶磁器類、瓦、寛永通宝等が混在して出土した。このことから、礫群はごく新しい時期に集積されたもので、葺石ではないことが確認され、葺石の無い古墳であることが判明した。

６）炭化物層（第４図）

墳丘基底面の直上で炭化物層が検出された。厚さ約３～５㎝の薄層で基底面全体に堆積しており、東西及び南北の断面でも観察された（東西21層、南北18層）。そこで、メインベルトを軸に墳丘を４分割して各地点でサンプルを採取し、自然科学分析を行った。詳細は次項に譲るが、結果として竹笹類を主体にイネ科植生が混じった構成であることが確認された。炭化物層の下層の分析結果でも同様の植生を示す状況が確認されており、炭化物層を構成する物質が他から運ばれてきた可能性は低いと考えられる。周辺まで炭化物層が広がらない状況を考慮すれば、整地あるいは祭祀といった何らかの理由で現地に繁茂していた植物を焼き払った可能性が考えられるが、詳細は不明である。




第４図　春日社古墳サンプル採取地点

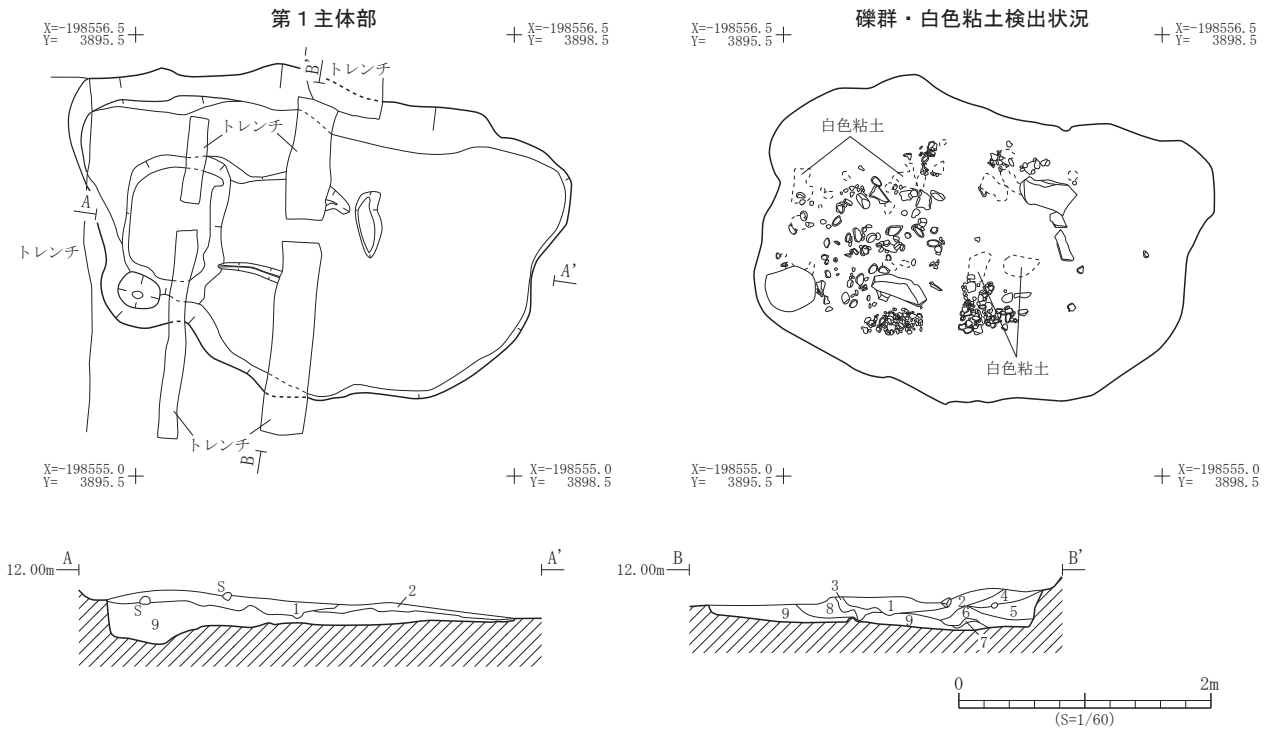
７）第１主体部（第５図、図版２・３）

第１主体部は、平成６年度の確認調査で発見されたものである。トレンチ調査によって板石と円礫が確認され、石棺の存在が想定されていた。今回の調査で第１主体部を再調査した結果､明確な石棺は検出されなかったものの、底面に東西約3.40m南北2.30mの楕円形の範囲で、板石及び円礫、白色粘土を確認した。このうち、板石及び円礫は、およそ3.60m×2.50mの範囲で不整な長方形に広がっており、白色粘土は上述の楕円形の範囲に散在していた。この状況から、棺材の目張り粘土が残っていた可能性が考えられる。円礫については礫床の素材の可能性もある。

８）第２主体部（第６図、図版２～４）

第２主体部は、墳頂中央から北東に寄った位置で新たに発見された。埋葬施設は２段の掘り込みをもつ墓壙で、東西3.16m、南北2.44m、深さ0.74mの隅丸長方形の土坑を掘り、底面のほぼ中央に、東西2.22m、南北0.72m、深さ0.40mの竪坑が掘られている。この２段目の掘り込みが棺埋納部と推定されるが、石材や白色粘土の類は検出されなかった。底面は平坦で、上記の状況も併せると木棺直葬であった可能性が考えられる。１段目の主軸方向はN-30°-W、２段目はN-47°-Wである。

第２主体部内部の埋土は、色調・含有物の多寡等で29層に分層された。これを整理すると、①木棺固定のための置き土（29層）、②棺材が土壌化した土（28層）、③墓壙埋め戻し土（16～27層）、④墳丘盛土が墓壙内に陥没した土（１～15層）に大別できる。以下、堆積した順に説明すると、29層は底面直上に部分的に存在する。層厚は４㎝内外で、墓壙の壁面下部に沿う形で部分的に存在することから、木棺を埋納する際の棺材固定のために置かれたものと考えられる。28層は黒褐色に炭化した層である。他の堆積土が暗褐色・黄褐色を主体とした色調であること、最下層の堆積土であることを考慮すると、木棺が土壌化した層と考えられる。16～27層は暗褐色・黄褐色を主体とした土層である。各層の層理面が波立ち、かつ墓壙の壁面で急に立ち上がること、１段目の掘り込みに堆積してい




| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 第1主体部 | 1 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 砂質シルト | 灰白色ブロック含む粗砂主体層。層中に礫・白色粘土ブロック多量含む。 |
| 第1主体部 | 2 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 砂質シルト | 灰白色ブロック、礫・白色粘土ブロック含む。 |
| 第1主体部 | 3 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 粘土質シルト | 白色粘土ブロックを多量含む。 |
| 第1主体部 | 4 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 粘土質シルト | 白色粘土ブロック、礫を含む。 |

| 遺構 | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 第1主体部 | 5 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 粘土質シルト | 黄橙色ブロック斑状、灰白色ブロック少量含む。 |
| 第1主体部 | 6 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 粘土質シルト | 黄橙色ブロックを斑状に含み、炭化物を少量含む。 |
| 第1主体部 | 7 | 10YR4/2灰黄褐色 | 粘土質シルト | 炭化物を含む。 |
| 第1主体部 | 8 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 粘土質シルト | 黄橙色ブロックを斑状に含む。 |
| 第1主体部 | 9 | 10YR7/8黄橙色 | 粘土質シルト | にぶい黄橙色ブロック、灰白色ブロック、炭化物微量含む。 |

第５図　春日社古墳第１主体部平面図・断面図・礫群及び白色粘土検出状況

る26・27層が墓壙内にも確認されたことから、本来墓壙上部の埋土が木棺の陥没によって、墓壙内に落ち込んだものと考えられる。１～15層は埋葬施設の最上層に堆積した土である。墳丘盛土を削ってプランを検出したことを考慮すれば、後世の撹乱の土ではなく、木棺の陥没に伴って盛土が落ち込んだものと考えられる。

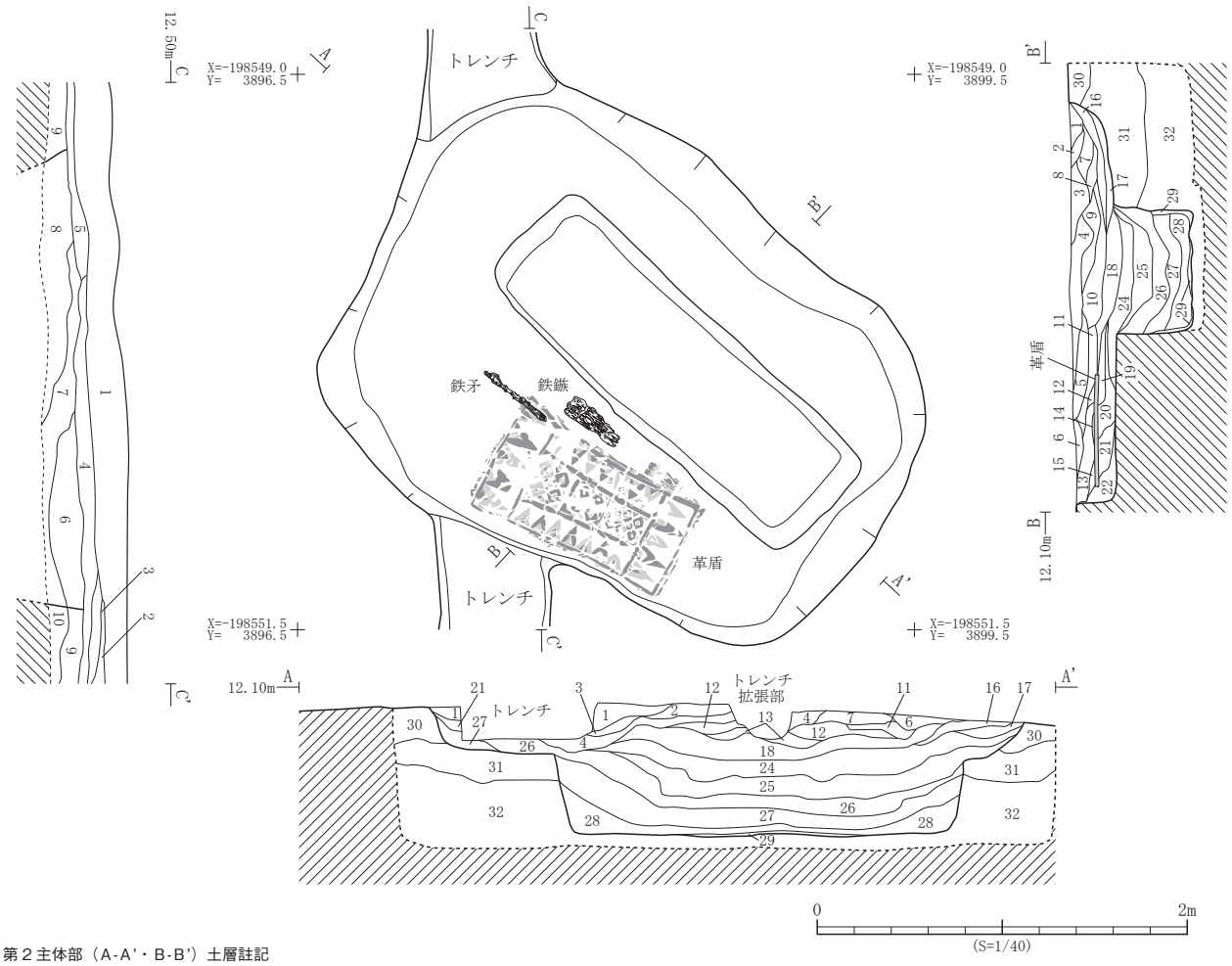
９）第２主体部副葬品の出土状況及び被葬者の頭位方向（第８図）

テラス状になっている１段目の掘り込み中の19～22層の上面から、革盾・鉄矛・鉄鏃がまとまって出土した。革盾は墓壙の長軸に平行する方向で置かれており、表面を上に、上端を南東に向けた状態であった。鉄矛は革盾の上に置かれており、矛先を北西に向けていた。柄は袋部にわずかに残存する部分以外は確認できなかったが、柄に施されていたと考えられる漆膜が盾の表面に直線的に残存していた。鉄鏃は、30本を一纏めにして革盾の側縁に接する形で置かれていた。尖端部は北西を向いており、茎部付近には錆化によって遺存した矢柄の一部が確認された。その延長線上には、長方形状の黒漆膜・赤色顔料の痕跡が確認され、位置・形状から漆が塗布されたことで遺存した矢羽根の痕跡と思われる。

被葬者の頭位方向は墓壙の長軸方向である北西-南東のいずれかと考えられるが、これらの副葬品の配置状況を考慮すれば、革盾の正位である南東側であったと考えられる。

10）第２主体部出土遺物（第７～10図、図版４・５）

第９図は革盾である。芯地の革は既に腐食していたが、地の黒漆に塗布された鮮やかな赤と赤紫に近い赤の2種類の赤色顔料が盾の原型を留める形で遺存している。表面には６本、腐食による横桟の落ち込みが確認された。形状は上端と下端を平行に配した台形で、規模は上端幅60㎝、下端幅72㎝、高さ120㎝である。盾面は綾杉文帯でⅡ字形に区画し、内区を菱形文、外区を鋸歯文で飾っている。いずれも刺し縫いが施されているが、鋸歯文や菱形文の一部は彩色のみで描かれている。




第２主体部（A-A'・B-B'）土層註記

| | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 上段墓壙 | 1 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色・黄橙色小ブロックを多量に含む。 |
| 上段墓壙 | 2 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを含み、黄橙色小ブロックを微量含む。 |
| 上段墓壙 | 3 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを多く含み、黄橙色・灰白色小ブロックを微量含む。 |
| 上段墓壙 | 4 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを含む。1～3層に比してやや暗い色調を示す。 |
| 上段墓壙 | 5 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 灰白色小ブロックを少量含む。 |
| 上段墓壙 | 6 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックをわずかに含む。ブロック径はやや大きめ。 |
| 上段墓壙 | 7 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを含む。灰白色小ブロック・炭化物を微かに含む。 |
| 上段墓壙 | 8 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを含む。暗褐色小ブロックを微かに含む。 |
| 上段墓壙 | 9 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを少量、炭化物微量含む。 |
| 上段墓壙 | 10 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 灰白色中ブロックをわずかに含み、浅黄橙色小ブロックを含む。 |
| 上段墓壙 | 11 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを多く含む。 |
| 上段墓壙 | 12 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを多く含み、灰白色中ブロック微量含み、炭化物を微量含む。 |
| 上段墓壙 | 13 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックをわずかに含む。 |
| 上段墓壙 | 14 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 灰白色中ブロックをわずかに含み、浅黄橙色小ブロックを多く含む。 |
| 上段墓壙 | 15 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 灰白色小ブロック・浅黄橙色小ブロックをわずかに含む。14層よりやや色調暗化。 |
| 上段墓壙 | 16 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを多く含む。 |
| 上段墓壙 | 17 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを少量含む。16層に比してやや暗い色調を示す。 |

| | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 上段墓壙 | 18 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを少量含み、灰白色小ブロックをわずかに含む。 |
| 上段墓壙 | 19 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを少量含む。 |
| 上段墓壙 | 20 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを含み、灰白色小ブロックを少量含む。 |
| 上段墓壙 | 21 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを少量含み、灰白色小ブロックを微量含む。 |
| 上段墓壙 | 22 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 灰白色小ブロックを少量含む。 |
| 上段墓壙 | 23 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色小ブロックを少量含む。 |
| 下段墓壙 | 24 | 10YR4/6褐色 | 粘土質シルト | 黄褐色ブロックを斑状に含み、灰黄褐色ブロック・にぶい黄橙色小ブロックを含む。 |
| 下段墓壙 | 25 | 10YR3/4暗褐色 | 粘土質シルト | 黄褐色ブロックを含む。 |
| 下段墓壙 | 26 | 10YR3/4暗褐色 | 粘土質シルト | 黄褐色ブロックを斑状に含み、灰黄褐色小ブロックを含む。 |
| 下段墓壙 | 27 | 10YR3/4暗褐色 | 粘土質シルト | 褐色ブロックを斑状に含み、灰黄褐色小ブロック・にぶい黄橙色小ブロックを含む。 |
| 下段墓壙 | 28 | 10YR2/3黒褐色 | 粘土質シルト | 褐色小ブロックを含む。 |
| 下段墓壙 | 29 | 10YR3/4暗褐色 | 粘土質シルト | 褐色小ブロックを少量含む。締まりあり。 |
| 墳丘盛土 | 30 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR3/4暗褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の水平な互層で構成される積土。①は層厚3～5cmでブロック構成、②は層厚2～3cmでブロック構成。東西13層に対応。 |
| 墳丘盛土 | 31 | ①10YR3/3暗褐色<br>②10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト<br>砂質シルト | ①・②の互層で構成される積土。層厚は①が5～8cm、②が1～3cm。東西15層に対応。 |
| 墳丘盛土 | 32 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR4/4褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される積土。①は層厚1～2cmでφ5～10mmの褐色ブロックを含み、②は層厚1～2cmでφ3～8mmの黄褐色ブロックを含む。全体として波状を呈し、水平を意識して積まれている。東西16層に対応。 |

第２主体部上部（C-C'）北サブベルト土層註記

| | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 墳丘盛土 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 南北2層に対応。 |
| 墳丘盛土 | 2 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 南北2層に対応。 |
| 墳丘盛土 | 3 | 10YR5/6黄褐色 | 砂質シルト | 層上面、第2主体部上北寄りにφ50mmの白色粘土ブロックが乗る。南北7層に対応。 |
| 墳丘盛土 | 4 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | 層上面、第2主体部上北寄りにφ30～50mmの白色粘土ブロックが乗る。南北7層に対応。 |
| 墳丘盛土 | 5 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 南北7層に対応。 |

| | 層位 | 土　色 | 土　性 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 第2主体部 | 6 | 10YR5/6黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色のφ3～5mmブロック10%含み、灰白色のφ3～5mmブロック1～3%含む。 |
| 第2主体部 | 7 | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 浅黄橙色のφ3～5mmブロックを1～3%含む。 |
| 第2主体部 | 8 | 10YR4/6褐色 | 粘土質シルト | 黄褐色を斑状に含む。灰黄褐色ブロック・にぶい黄橙色小ブロックを含む。 |
| 墳丘盛土 | 9 | ①10YR5/6黄褐色<br>②10YR3/4暗褐色 | 砂質シルト<br>粘土質シルト | ①・②の互層で構成される。①層厚3～5cmでブロック構成、②層厚2～3cmでブロック構成。東西13層対応。 |

第６図　春日社古墳第２主体部平面図・断面図・遺物出土状況

このうち、綾杉文は撚りのかかっていない繊維質の糸で刺し縫いが施されている。３条を一纏めにしたものを１単位としており、「N」もしくは「逆N」字を連ねた帯で盾面を区画している。残存幅は最大2.9㎝で、側縁部は若干欠損している。各綾杉文は一辺を通じて同じ方向で刺し縫われており、まず外区を縦→横の順で縁取ったのち、盾面を横→縦の順でⅡ字状に区画し、最後に内区を横方向の直線で３分割するという施文順序が観察される。革盾を正位で見たときの綾杉文の形状は、外区側縁が「逆N」「N」、端縁が「N」「逆N」で互い違いになり、Ⅱ字状の区画では縦が「N」「N」、横が「逆N」「逆N」と対になっている。赤紫に近い赤色顔料が部分的に残存しており、また黒色部分の隙間にも確認できることから、綾杉文には本来は赤色顔料が塗布されていたと考えられる。

第７図　革盾復元図

菱形文は、Ⅱ字状に区画された内区の中に充填している。横方向の刺し縫いによって表現されており、２㎜間隔で刺し縫われた直線が菱形を形作っている。三分割された中央部と下部の区画内は、中央に１箇と四方を取り囲む４箇の計５箇の菱形で構成されている。このうち四方の菱形は内・外の二重構造になっており、外郭の菱形にのみ２㎜間隔の刺し縫いの痕跡を確認できる。これは外郭を刺し縫う過程で内郭も同時に形成されているためで、輪郭のみで成立した内郭には彩色が施されている。これは中央部分も同様で、四方の菱形によって表出した菱形に彩色が施されている。彩色は２種類の赤色顔料であるが、なかでも中央の菱形は鮮やかな赤色顔料が塗布されている。なお、三分割のうちの上部は、前述の菱形文の構図を縦方向に延長したもので、外側に６箇、中央に２箇の計８箇の菱形文で構成されている。刺し縫いの範囲・間隔も同様で、中央部の菱形は２箇とも鮮やかな赤色顔料が施されている。

鋸歯文は、Ⅱ字状の区画の外に配されている。このうち上下段の鋸歯文は、頂点を上にむけて５箇ずつ配され、左右両脇の鋸歯文は頂点を内に向けて７箇ずつ配されている。三角形の底辺に接して小三角窓を持ち、その周囲を底辺に対して垂直方向の刺し縫いで充填している。２～2.5㎜間隔で縦方向に刺し縫われた直線によって三角形が形作られ、底辺に刺し縫いの施されない三角窓を持っている。鋸歯文・小三角窓には鮮やかな赤と赤紫に近い赤の２種類の赤色顔料が交互に施されている。

他に痕跡等の観察から以下の４点が確認できた。

（１）横桟の落ち込み　横方向に平行して入っている６本の直線状の窪みで、この中に鋸歯文や綾杉文が落ち込んでいることから、盾の裏面に貼られていた横桟が腐食して落ちたものと考えられる。横桟１本の幅と横桟間の距離を上から順にまとめると、1.3㎝、21.5㎝、1.3㎝、23.5㎝、1.3㎝、24.5㎝、1.3㎝、23.0㎝、1.3～1.7㎝、20.0㎝、1.3㎝となる。横桟の幅はほぼ1.3㎝で、間隔は中央から端にむかって狭まっていくことが分かる。なお、横桟と綾杉文帯は、３段目では重なってい

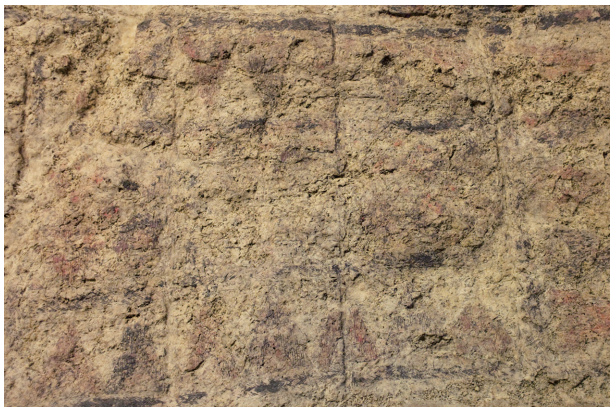
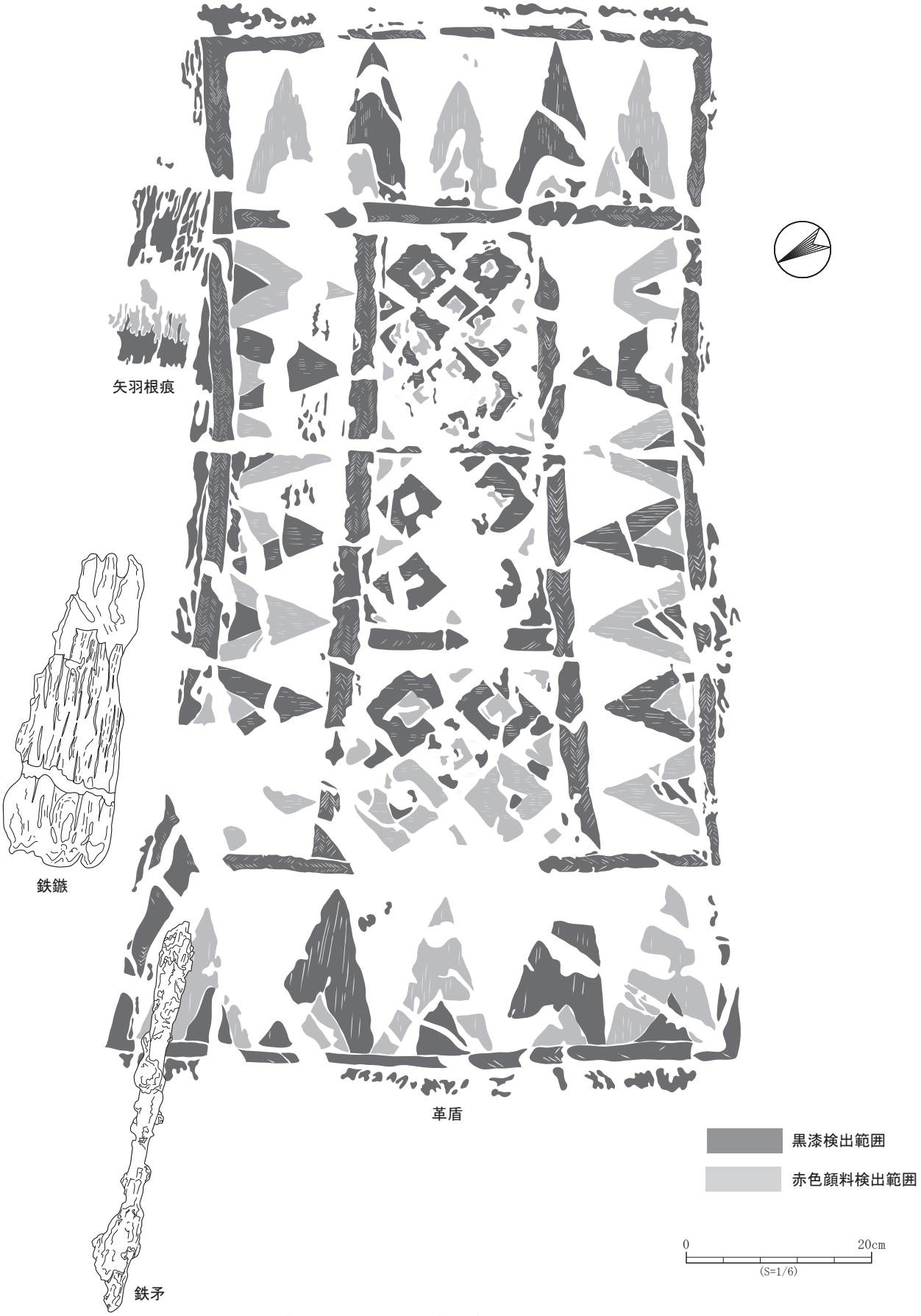
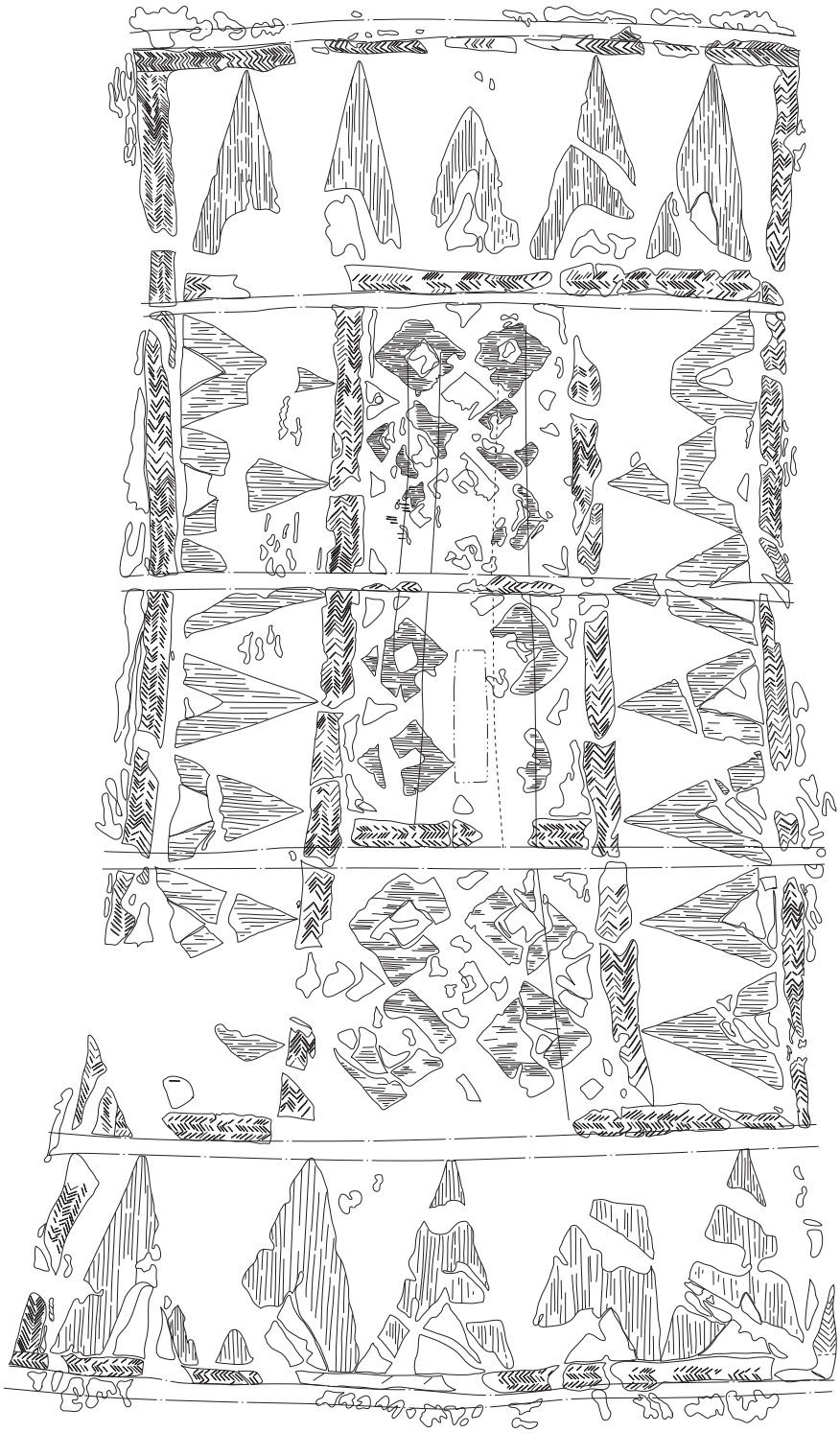


写真１　横桟部分が落ち込んでいる状況




第８図　春日社古墳第２主体部遺物出土状況図



落込範囲（横桟）

落込範囲（把手）

0　20cm
(S=1/6)

| No. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 法　量(cm) | 漆種 | 頭部形状 | 鋸歯文 | 菱形文 | 綾杉文帯 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | X-1 | 墓壙１段目 | - | 盾 | 革盾 | 上端幅60×下端幅72×高さ120 | 黒 | 平 | 小三角窓付 | 横に刺縫 | ３条１組 | 赤は赤色顔料。 | 5-1 |

第９図　春日社古墳第２主体部出土遺物（１）

るものの、他は綾杉文帯の上部あるいは下部に位置しており、必ずしも一致していない。

（２）綾杉文帯の隙間　主に鋸歯文の底辺と綾杉文帯の間、Ⅱ字区画の内側等で確認されている３～５㎜の隙間で、本来は黒漆が塗布されていたと考えられるが、刺繍あるいは赤色顔料の塗布が無い部分であったために、現状では単なる空間となっている。前述のように綾杉文が赤彩されていた状況を考えると、鋸歯文あるいは菱形文との配色の混同を防ぐための処置である可能性が考えられる。

（３）内区中央の長方形状の窪み　横桟の３段目と４段目の間にある長さ16.5㎝、幅６㎝、深さ１㎝程度の落ち込みで、位置から把手部分が落ち込んだ痕跡の可能性が考えられる。

（４）Ⅱ字状の中に見える４条の縦筋　四方の菱形の内郭と中央の菱形の外郭を通る４条の筋で、Ⅱ字状の区画内で完結し、上下に延びていない。盾の構造に関係する痕跡と推察されるが、詳細は不明である。

第10図１は鉄矛である。全長39.1㎝（袋部に残存した柄の木質部を加えると42.7㎝）で、刃部は断面菱形の鎬作りである。刃部長22.5㎝刃部最大幅2.0㎝の細鋒形で、袋部との境に関を持つ。関は反りがなく自然に袋部に接続し、鎬はここで収束する。袋部は直径2.6㎝で、鍛造による角がついており、一見八角形を呈しているが、鍛造による角の傾斜が緩く、また袋端部の頂点と対応関係にないことから、円筒形の袋部と考えられる。袋端部は切り込みが入った山形抉りとなっている。この抉りの頂点は鎬の中心線と対応せず、やや右側に片寄った作りとなっている。鍛造の合わせ目及び目釘孔は確認できなかった。なお、Ｘ線写真から、関部の近くまで木質が入っている状況を確認し、樹種同定を行った。第10図２は長頸鏃である。鏃身関は全て腸抉長三角形で、頸部長はおよそ14㎝前後である。関部は台形関で、茎部には一部樹皮巻きが残存している。茎部の延長線上には長方形の黒漆・赤色顔料の痕跡が確認され、矢羽根の痕跡と推定される。矢柄１点の樹種同定では、タケ亜科という結果が出ている。鉄鏃の先端から漆膜の先端までの長さは、最大で75㎝前後である。

11）そのほかの出土遺物　（第11・12図、図版６）

墳丘及び周溝から埴輪片が平箱７箱分出土している。後世の改変のためか、みな小破片であったが、比較的残存状況が良好な25点を図示した。第11図１は、突起状の形象埴輪片である。全面にナデが施されており、根元で剥落している。２～８は朝顔形埴輪の頸部付近の破片である。９～17は円筒埴輪片である。このうち第11図９～12は口縁部破片である。第11図13～第12図１は凸帯部破片である。第11図14は透し孔が一部遺存している。一部裏面の凸帯と対応する位置に横方向のナデが入っているものがある。凸帯は概ね端正なＭ字形で、大きく下方に垂れ下がるものはない。第12図２～８は基部破片である。

## ３．自然科学分析

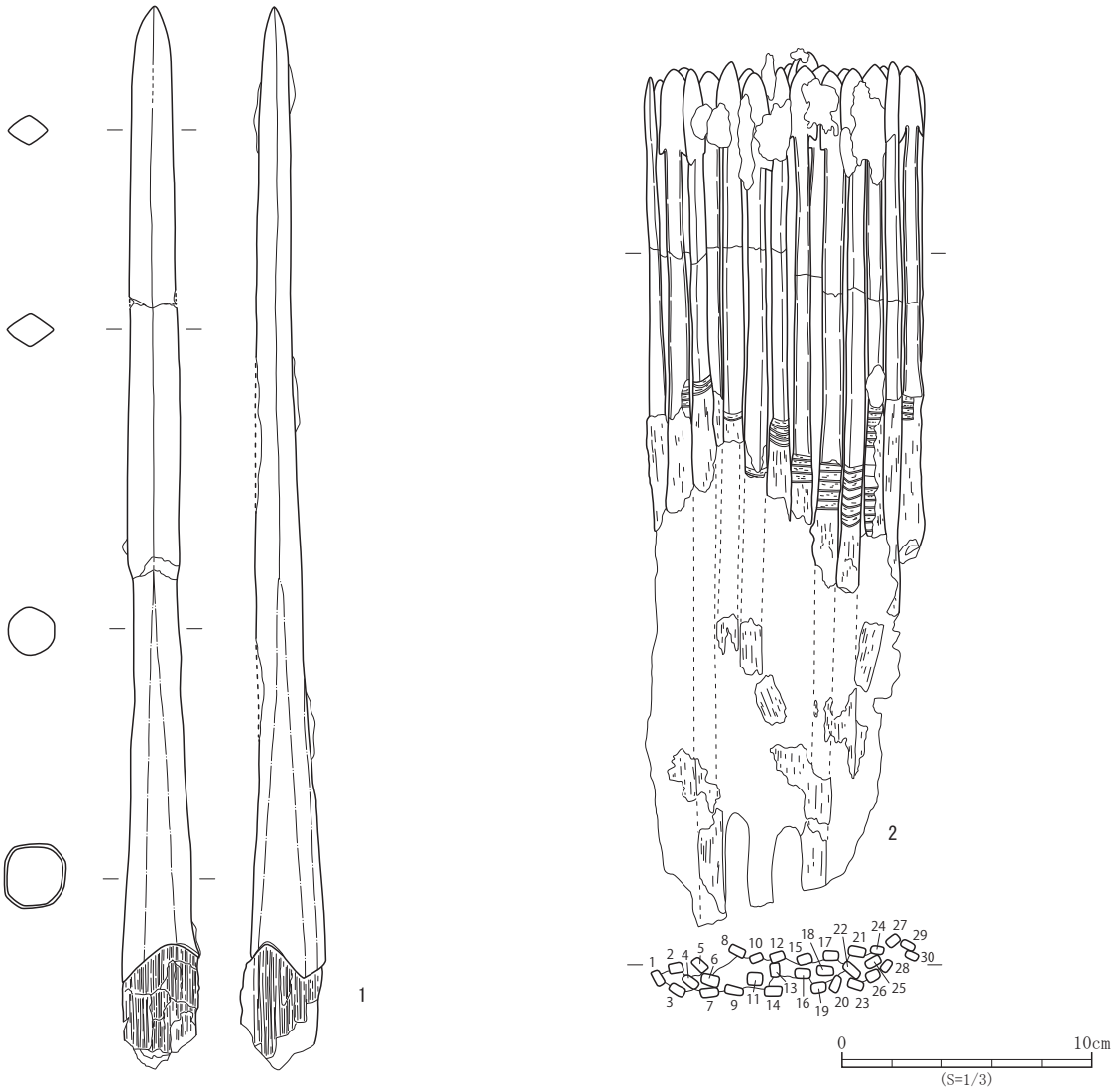
株式会社古環境研究所

### （１）春日社古墳のテフラ（火山灰）分析

#### １）はじめに

東北地方中部に位置する仙台市とその周辺には、蔵王、安達、鳴子、鬼首、肘折など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、三瓶、阿蘇、姶良など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

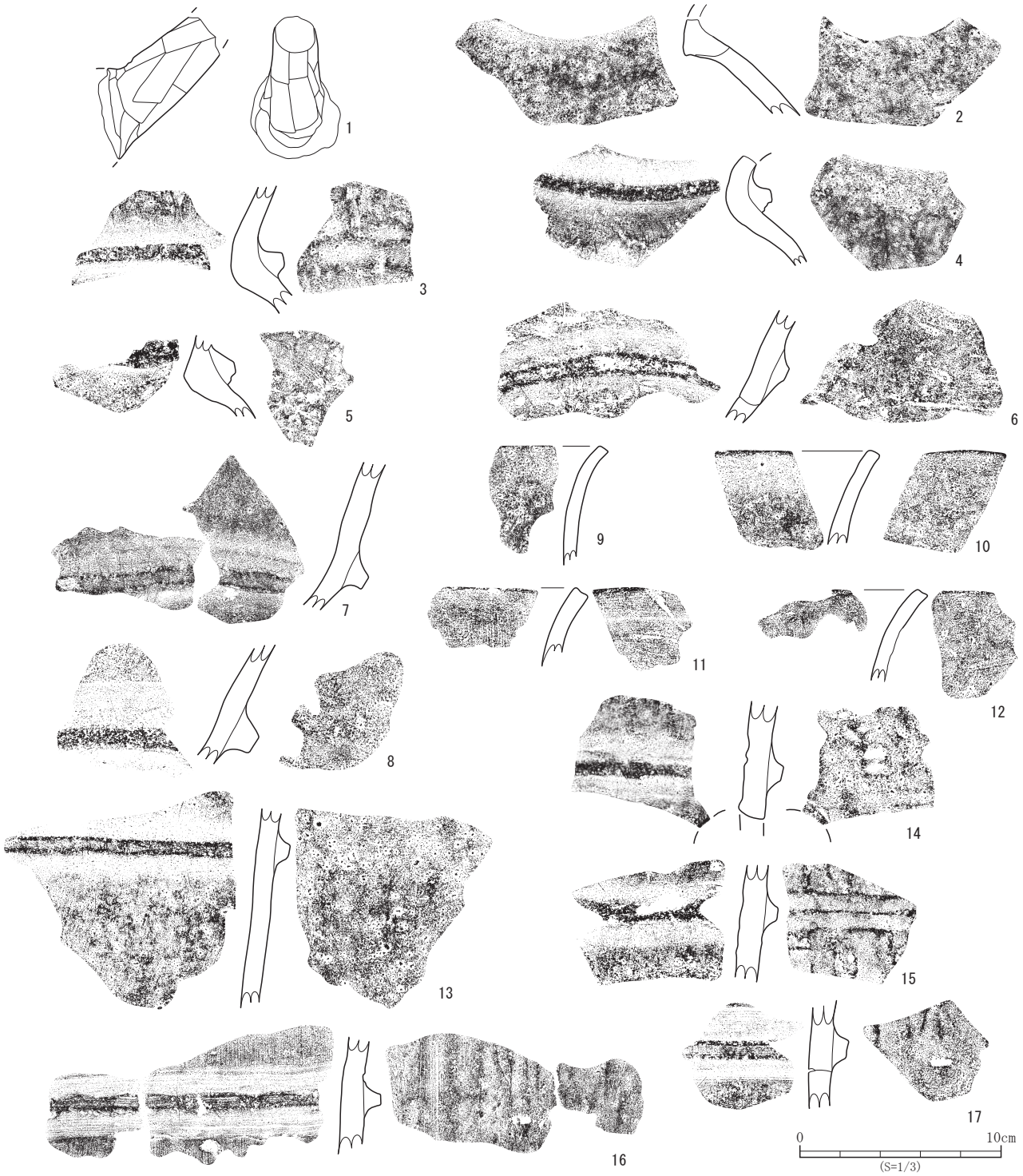
そこで、テフラの可能性がある土層が検出された仙台市春日社古墳においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、火山ガラス比分析、テフラ組成分析、火山ガラスと鉱物の屈折率測定を実施して、含まれるテフラ粒子の起源について調べることになった。分析対象試料は、現地において915年に十和田火山から噴出した十和田ａテフラ（To-a，大池　1972，町田　ほか1981，町田・新井　1992・2003）の可能性が考えられた試料１と、６世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ッ岳伊香保テフラ（Hr-FP，新井　1962，坂口　1986，早田　1989，




| №. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 刃部形状 | 鋒幅 | 関部 | 袋部断面 | 袋端部 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | N-1 | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄矛 | 現42.7×1.5～3.3×1.4～2.6 | 鎬造り | 細鋒 | 有関 | 円形 | 山形抉 | | 5-2 |

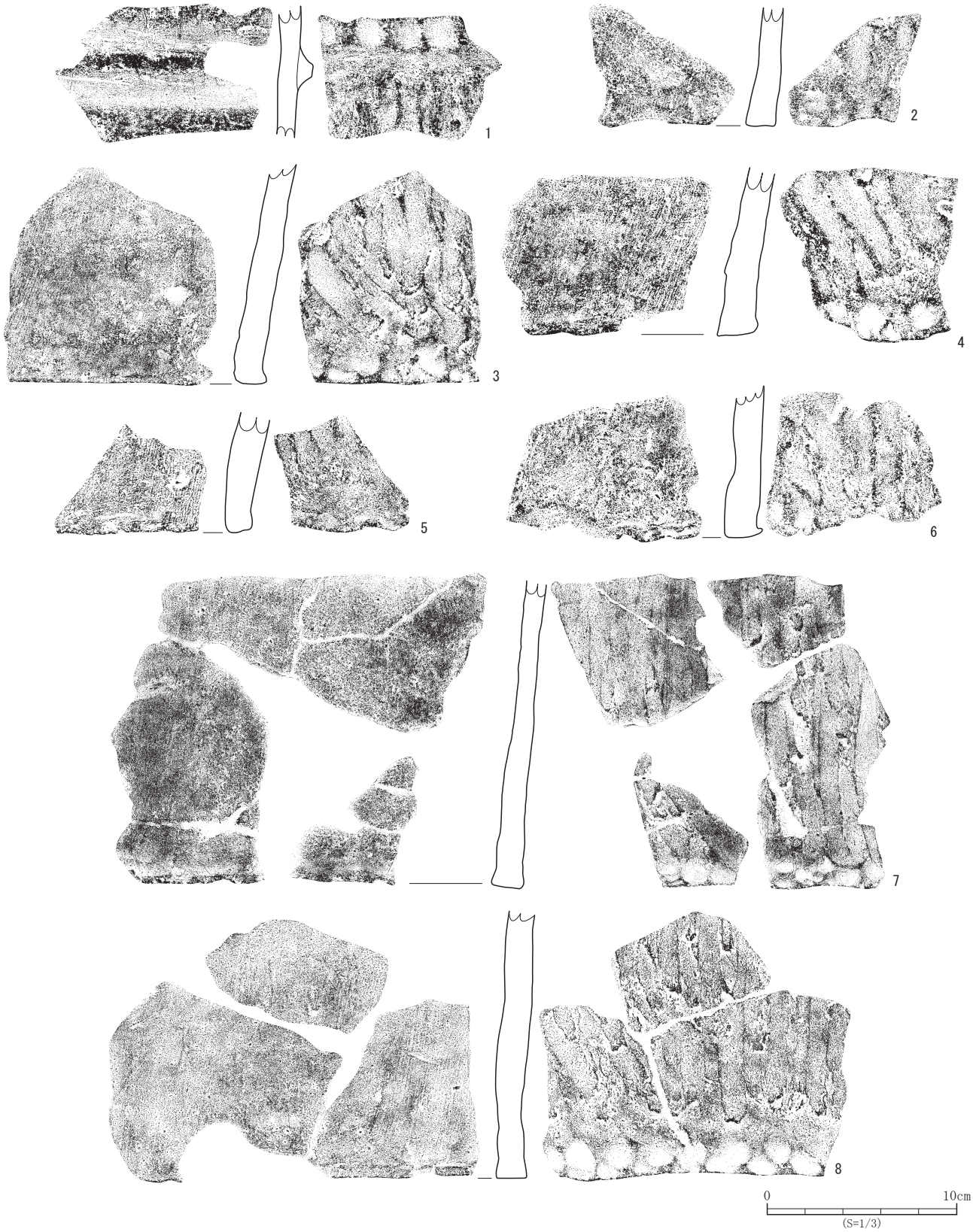
| №. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 長さ×幅×厚さ(cm) | 刃部形状 | 関部形状 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2-1 | N-2 | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現18.2×0.6×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | 5-3 |
| 2-2 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現17.6×0.6×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-3 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.5×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-4 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.6×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-5 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現16.9×0.5×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-6 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現15.0×0.6×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-7 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.7×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-8 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現15.7×0.7×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-9 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.7×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-10 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現16.2×0.7×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-11 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.7×0.7 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-12 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現18.2×0.6×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-13 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.5×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-14 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.6×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-15 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現18.3×0.7×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-16 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.5×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-17 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現20.7×0.6×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-18 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.7×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-19 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.6×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-20 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.5×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-21 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現20.9×0.6×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-22 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.6×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-23 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.6×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-24 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現18.9×0.6×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-25 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.6×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-26 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.6×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-27 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現22.2×0.6×0.6 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-28 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.6×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-29 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | 現19.8×0.7×0.5 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |
| 2-30 | | 墓壙１段目 | - | 鉄製品 | 鉄鏃 | -×0.7×0.4 | 腸抉長三角形 | 台形関 | | |

第10図　春日社古墳第２主体部遺物出土遺物（２）




| №. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 法　量(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | S-1 | 墳丘東側(北)盛土 | - | 埴輪 | 形象 | 現6.5×現3.9×現4.6 | ナデ | ナデ | 馬形の尾か。 | 6-1 |
| 2 | S-2 | 墳丘東側(北)盛土 | - | 埴輪 | 朝顔 | - | ヨコナデ・ヘラナデ | ヘラナデ・指ナデ | 肩部？ | 6-2 |
| 3 | S-3 | 墳丘東側(北)盛土 | - | 埴輪 | 朝顔 | 凸帯幅上0.8下2.1，高さ1.2 | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | | 6-3 |
| 4 | S-4 | 墳丘北西 | - | 埴輪 | 朝顔 | 凸帯幅上0.7下2.5，高さ1.2 | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | | 6-4 |
| 5 | S-5 | 墳丘東側(北)盛土 | - | 埴輪 | 朝顔 | 凸帯幅上0.6下2.4，高さ1.2 | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-5 |
| 6 | S-6 | 周溝 | - | 埴輪 | 朝顔 | 凸帯幅上0.7下3.0，高さ0.7 | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-6 |
| 7 | S-7 | 周溝 | - | 埴輪 | 朝顔 | 凸帯幅上0.7下2.4，高さ1.0 | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-7 |
| 8 | S-8 | 墳丘東側(北)盛土 | - | 埴輪 | 朝顔 | 凸帯幅上1.0下3.2，高さ1.2 | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-8 |
| 9 | S-9 | 墳丘南西 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-9 |
| 10 | S-10 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-10 |
| 11 | S-11 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ | | 6-11 |
| 12 | S-12 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | | 6-13 |
| 13 | S-13 | 墳丘南西 | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上0.7下2.5，高さ0.8 | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-12 |
| 14 | S-14 | 墳丘南西 | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上0.7下2.9，高さ0.8 | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ | 円形透し。 | 6-14 |
| 15 | S-15 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上0.7下2.1，高さ0.7 | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-15 |
| 16 | S-16 | 墳丘東側(北)盛土 | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上0.6下1.9，高さ0.9 | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-17 |
| 17 | S-17 | 墳丘東側(北)盛土 | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上0.9下2.3，高さ0.8 | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ | | 6-16 |

第11図　春日社古墳墳丘及び周溝出土遺物（１）




| No. | 登録番号 | 出土遺構 | 層　位 | 種　別 | 器　種 | 法　量(cm) | 外面調整 | 内面調整 | 備　考 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | S-18 | 墳丘東西ベルト | - | 埴輪 | 円筒 | 凸帯幅上0.7下2.4，高さ0.9 | タテハケメ・ヨコナデ | 指ナデ | | 6-18 |
| 2 | S-19 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ・指オサエ | | 6-19 |
| 3 | S-20 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ・指オサエ | | 6-20 |
| 4 | S-21 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ・指オサエ | | 6-22 |
| 5 | S-22 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ・指オサエ | | 6-21 |
| 6 | S-23 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ・指オサエ | | 6-23 |
| 7 | S-24 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ・指オサエ | | 6-24 |
| 8 | S-25 | 周溝 | - | 埴輪 | 円筒 | - | タテハケメ・ヨコナデ | ナデ・指ナデ・指オサエ | | 6-25 |

第12図　春日社古墳墳丘及び周溝出土遺物（２）

町田・新井　1992・2003）が含まれる可能性が考えられた試料２の２点である。

２）火山ガラス比分析

（１）分析方法

試料１に含まれる火山ガラス比の比率と特徴を定量的に知るために、火山ガラス比分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

①試料12gを秤量。

②超音波洗浄により泥分を除去。

③80°Ｃで恒温乾燥。

④分析篩により1/4～1/8㎜と1/8～1/16㎜の粒子を篩別。

⑤1/4～1/8㎜の粒子について、偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める。

（２）分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして第13図に、その内訳を第１表に示す。試料１には、火山ガラスが少量含まれている（６％）。火山ガラスは、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型（2.4％）、透明のバブル型（2.0％）、分厚い中間型（1.2％）、スポンジ状に発泡した軽石型（0.4％）である。

３）テフラ組成分析

（１）分析方法

試料２に含まれる火山ガラスの色調形態別比率と、重鉱物の組み合わせを把握するために、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

①試料15gを秤量。

②超音波洗浄により泥分を除去。

③80°Ｃで恒温乾燥。

④分析篩により1/4～1/8㎜と1/8～1/16㎜の粒子を篩別。

⑤1/4～1/8㎜の粒子について、偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。

⑥1/4～1/8㎜の粒子に含まれる重鉱物について、偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、重鉱物の組み合わせを調べる（重鉱物組成分析）。

（２）分析結果

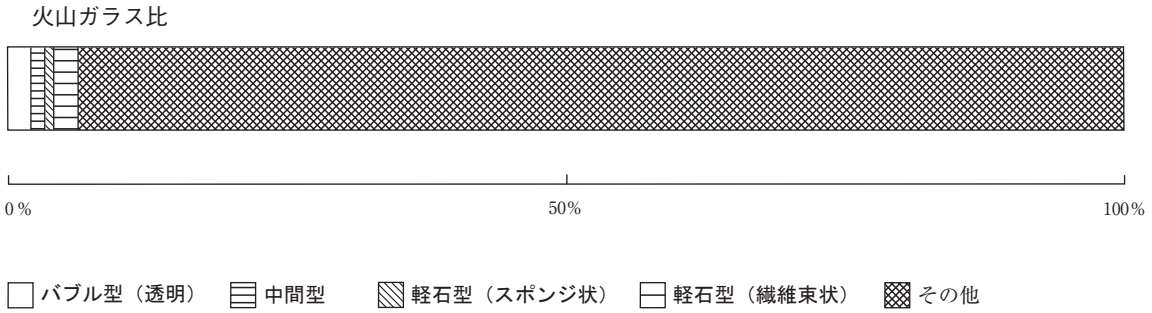
テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして第14・15図に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を第１表及び第２表に示す。試料２には、火山ガラスがごく少量含まれている（3.2％）。火山ガラスは、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型（1.2％）、透明のバブル型及び中間型（各0.8％）、淡褐色のバブル型（0.4％）である。

一方、重鉱物としては、比率が高い順に斜方輝石（38.8％）、磁鉄鉱*１（34.0％）、角閃石（13.6％）、単斜輝石（7.6％）などが含まれている。

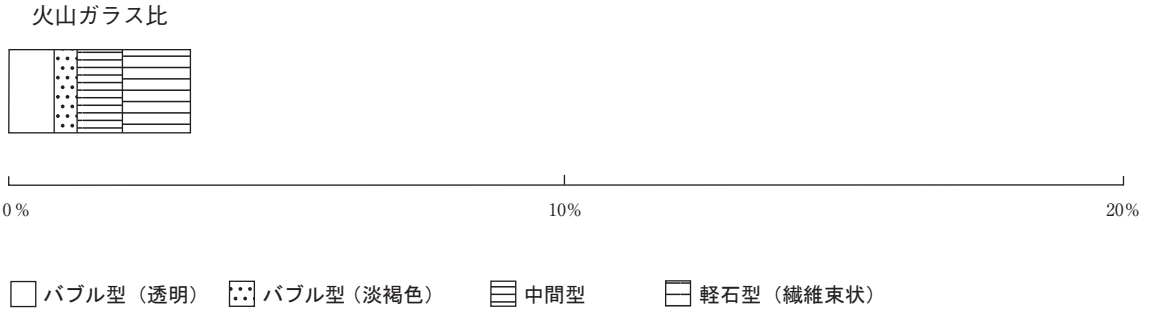
４）屈折率測定

（１）測定方法

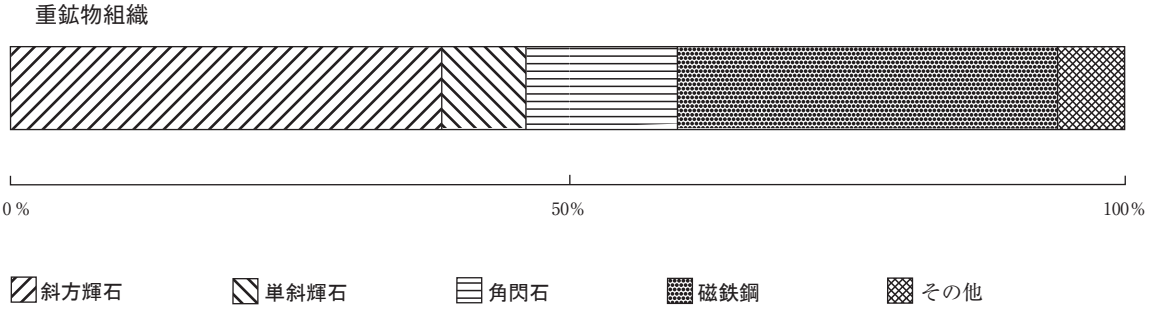
一般的に、土壌や堆積物などに含まれる細粒の火山ガラスの起源を求めるためには、よほど特徴的な粒子が検出されない限り、テフラ検出分析や火山ガラス比分析を含むテフラ組成分析などに合わせ、さらに高度なレベルの分析測定を実施する必要がある。そこで、２試料に含まれる火山ガラス（1/8～1/16㎜）について、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製ＭＡＩＯＴ）により、屈折率（n）の測定を実施した。また、試料２については、含まれる斜方輝石を対象に、温度変化型屈折率測定装置（京都フィッション・トラック社製ＲＩＭＳ2000）により屈折




第13図　春日社古墳試料1の火山ガラス比ダイヤグラム




第14図　春日社古墳試料2の火山ガラス比ダイヤグラム




第15図　春日社古墳試料２の重鉱物組織組成ダイヤグラム

率（γ）の測定を行った。測定には、実体顕微鏡下でハンド・ピッキングされた斜方輝石を用いた。

（２）測定結果

屈折率測定の結果を第３表に示す。試料１に含まれる火山ガラス（30粒子）の屈折率（n）は、1.497-1.504である。一方、試料２に含まれる火山ガラス（32粒子）の屈折率（n）は、1.497-1.508である。試料２に含まれる斜方輝石の屈折率（γ）はbimodalで、1.714-1.721（31粒子）のほかに1.707-1.711（10粒子）の値が得られた。

５）考察

火山ガラスの形態や屈折率などから、試料１（To-a ？）にTo-aに由来する火山ガラスが含まれている可能性は考えられる。ただし、その比率は高くないことから、同定には総合的な検討が必要である。

一方、試料２（ＦＰ ？）については、Hr-ＦＰに特徴的なスポンジ状に発泡した白色の軽石型ガラスや、本質物質であることを示唆するガラスが付着した斜方輝石や角閃石は認められなかった。また、Hr-ＦＰでは一般には認められることのない、淡褐色のバブル型ガラスも検出された。さらに、火山ガラスの屈折率や斜方輝石の屈折率を

第１表　春日社古墳における火山ガラス比分析結果

| 試料 | | bw（cl） | bw（pb） | bw（br） | md | pm（sp） | pm（fb） | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試料 1 | （To-a?） | 5 | 0 | 0 | 3 | 1 | 6 | 235 | 250 |
| 試料 2 | （Hr-FP?） | 2 | 1 | 0 | 2 | 0 | 3 | 242 | 250 |

数字は粒子数．bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：無色透明，pb：淡褐色，br：褐色，sp：スポンジ状，fb：繊維束状.

第２表　春日社古墳における重鉱物組成分析結果

| 試料 | | ol | opx | cpx | am | bi | mt | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試料 2 | （Hr-FP?） | 0 | 97 | 19 | 34 | 0 | 85 | 15 | 250 |

数字は粒子数．ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：各閃石，bi：黒雲母，mt：磁鉄鉱（磁鉄鉱ほか光沢をもつ黒色の不透明鉱物）.

第３表　春日社古墳における屈折率測定結果

| 遺跡・試料／指標テフラ（年代） | 火山ガラスの屈折率（ｎ） | 斜方輝石の屈折率（γ） |
|---|---|---|
| 春日社古墳　試料１（To-a?）*1 | 1.497-1.504（30） | - |
| 十和田ａ（To-a，AD915） | 1.496-1.508*2 | 1.706-1.708 |
| | 1.500-1.508*3 | 1.706-1.708 |
| | 1.503-1.507*4 | - |
| 春日社古墳　試料２（Hr-FP?）*1 | 1.497-1.508（32） | 1.707-1.711（10） |
| | - | 1.714-1.721（31） |
| 榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP,AD6c） | 1.501-1.504 | 1.707-1.711 |

*1：屈折率の測定は，温度変化型屈折率測定装置（MAIOT）による．()：測定粒子数．指標テフラのデータは，町田・新井（1992，2003）による．*2：青森地域．*3：岩手・秋田地域．*4：会津・福島・仙台地域.

みても、Ｈｒ-ＦＰとは異なるテフラ粒子が多く含まれている可能性が高い。

ただ、それにしても、火山ガラスの屈折率のrange、斜方輝石や角閃石が比較的多く含まれていることや、斜方輝石の一部の屈折率は、本試料中にＨｒ-ＦＰが含まれていることを示唆しているようにもみえることも否定できない。

火山灰編年学においては、テフラの一次堆積層の利用が基本であり、その認定には現地での火山灰編年学研究者による層相観察が不可欠である。今後、分析者による現地での土層観察や試料採取を期待したい。また、今回の同定精度は決して高いとは言えないことから、信頼度の高いＥＰＭＡを利用した火山ガラスの主成分化学組成分析を併用して、同定精度の向上が図られると良い。

６）まとめ

仙台市春日社古墳の発掘調査の際に採取された２試料について、火山ガラス比分析、テフラ組成分析、火山ガラスと斜方輝石の屈折率測定が実施された。その結果、試料に榛名二ッ岳伊香保テフラ（Ｈｒ-ＦＰ，６世紀中葉）と十和田ａ火山灰（Ｔｏ-ａ，Ａ.Ｄ.915年）に由来するテフラ粒子が含まれている可能性のあることが明らかになった。